

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 六四五

七六二

(三)和蘭側利益ノ見積リガ「ヤップ」—「メナド」線ノ価額  
ヨリ大ナル場合ニ於ケル往電第九四八号(三)末段ノ措置ニ

就テハ尚研究ノ余地アルベキモ在蘭公使來電第一二一號  
ノ如キ事情ニテハ右様ノ場合ハ万々之ナカルヘシト思ハ

(四)附屬物件ニ関シテハ目下必要ノ調査ヲナシ且關係官庁ト  
協議中ナルニ付纏マリ次第直ニ訓令ニ及ブベシ

事項一一バルセロナ国際交通會議ニ関スル件

六四六

一月十五日

埴原外務次官ヨリ

野村満鉄社長外十二名宛(註)

交通總会ニ提出セラルベキ各種提案ニ關スル

件

附屬書 交通總会ニ関スル概説

条一合送第五三号

本年二月二十一日ヨリ西班牙国「バルセロナ」ニ於テ交通

總会開催セラルヘク候處右總会ノ性質等ニ付テハ別紙「交

通總会ニ關スル概説」ニ依リ御了承ノ上右別紙附録甲号、

乙号、丙号、丁号及戊号ノ通ナル同總会ノ議題トナルヘキ

各種提案ニ付何等御意見有之候節ハ至急御回示相成度此段  
申進候也

註 野村満鉄社長十二名ノ宛名ハ左ノ通

南滿鉄道株式会社社長

野村竜太郎

日本郵船株式会社社長

近藤 廉平

大阪商船株式会社社長

堀 啓次郎

東洋汽船株式会社社長

浅野総一郎

東京商業會議所会頭

藤山 雷太

一一 バルセロナ国際交通會議ニ關スル件

六四六

大阪商業會議所会頭

山岡順太郎

京都商業會議所会頭

浜岡 光哲

名古屋商業會議所会頭

鈴木惣兵衛

横浜商業會議所会頭

大谷嘉兵衛

神戸商業會議所会頭

田村 新吉

長崎商業會議所会頭

橋本辰二郎

門司商業會議所会頭

赤尾 元一

函館商業會議所会頭

岡本 忠藏

(附屬書)

交通總会ニ關スル概説

本年二月二十一日ヨリ西班牙国「バルセロナ」ニ於テ交通

總会ノ開催ヲ見ムトス会期ハ約四十日ノ予定ナリ以下本件

交通總会開催ノ目的、其ノ議題トナルヘキ各種提案等ニ關  
シ其ノ概要ヲ記述スヘシ

第一、交通總会開催ノ目的

交通總会ハ客年五月十九日ノ羅馬聯盟理事会ノ決議ニ基キ

聯盟各國代表者ニ依リ組織セラルモノニシテ過般ノ聯盟

總会ノ修正ヲ経タル同決議ノ要領左ノ如クニシテ之ニ依リ

右開催ノ目的明瞭トナル次第ナリ

## 一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 六四六

七六四

(一) 交通総会ハ交通及通過ノ自由ニ関スル聯盟規約第二十三  
条(イ)号ノ趣旨ヲ貫徹スル為聯盟各國ニ於テ執ルヘキ措置  
ヲ講究スヘシ

(二) 右措置ハ聯盟各國ニ依リ批准セラルヘキカヲ決定案、各國政  
府ニ對スル勸告案及聯盟總会ニ依リ採用セラルヘキ決議  
案ノ三形式中何レヲ執ルヘキカヲ決定スヘシ

(三) 「ベルサイユ」条約第三百三十八条及第三百七十九条ニ  
規定セラレタル通過、港、水路及鉄道ノ國際制度ニ関ス  
ル一般条約案ヲ制定スヘシ

(四) 交通総会ニ於テ總會議事規則ヲ定メ又總会出席代表者ノ  
三分ノ二以上ノ同意ニ依リ採用セラレタル特別規則ヲ以  
テ爾後ノ会合ニ關シ適當ナル決定ヲ為スヘシ但シ右決定

ハ聯盟理事会ノ協議ニ付シタル後其ノ承認ニ依リ確定ス  
(五) 交通諮詢委員会(右理事会決議ニ於テハ常設交通委員会  
ト稱シ居リシモノヲ聯盟總会ニ於テハ其ノ名称ヲ变更  
ス)ヲ組織スヘシ

右委員会ハ技術的諮詢機關ニシテ交通及通過ノ自由ヲ確  
保スルコトヲ目的トスル各般ノ措置ヲ提議シ聯盟規約第

二十四条及「ベルサイユ」条約第三百四十二条、第三百

ハ附録甲号乙号丙号丁号及戊号ノ通ナリ

(一) 交通總会及常設交通委員会ノ組織ニ関スル規則案

(二) 自由通過協約案

(三) 國際河川協約案及海岸線ヲ有セザル國家ノ国旗權ニ關  
スル協約案

(四) 國際港ニ關スル決議案

右五提案作成ノ由來ニ付一言センニ一九一九年二月成立シ  
タル講和會議交通委員会ハ前記(二)ヨリ(五)ニ至ル所謂交通四

協約案ノ確定ヲ其ノ任務ノ一トナシタレトモ対和平和条件  
ノ作成ニ急ニシテ之ヲ完了スルコト能ハス依リテ同年九月

仏國政府ノ招請ニ基キ右交通委員会參加國タル五大國白耳  
義支那等ノ他和蘭、瑞西等總數十八國ノ専門家ハ國際交通

會議ヲ組織シ同年十月下旬ヨリ客年六月中旬ニ至ル迄慎重  
討議ノ上各々其ノ確定案ヲ議決スルト同時ニ前記(一)ノ國際

聯盟附屬ノ交通關係機關ノ組織ニ關スル規則案ヲモ確定セ  
ルナリ

尚帝国政府ニ於テハ國際交通會議ノ事實上ノ議長タリシ在  
白安達公使ヲ帝国代表委員トシ之ニ外務省嘱託前鐵道院監

府ニ對スル勸告案及聯盟總会ニ依リ採用セラルヘキ決議  
案ノ三形式中何レヲ執ルヘキカヲ決定スヘシ

(二) 右措置ハ聯盟各國ニ依リ批准セラルヘキカヲ決定案、各國政  
府ニ對スル勸告案及聯盟總会ニ依リ採用セラルヘキ決議  
案ノ三形式中何レヲ執ルヘキカヲ決定スヘシ

(三) 「ベルサイユ」条約第三百三十六条及第三百八十六条並  
第三百七十六条及第三百八十七条並其ノ他ノ平和條約ノ  
同様ノ条項ニ於テ規定セラレタル紛争ノ調査ヲ委任セラ  
レ又該紛争当事國間ニ於テ和解ノ成立セムコトニ努力ス  
該紛争カ常設國際司法裁判所ヲ援助セシムルコトヲ得  
同委員会ヲシテ右裁判所ヲ援助セシムルコトヲ得

(四) 交通諮詢委員会ノ構成ニ關シ聯盟理監事會ニ常任代表者ヲ  
出シツツアル聯盟國ニ於テ各々其ノ委員一名ヲ指名シ得  
右以外ノ委員ノ選出ニ付テハ出來得ル限り地理的代表ヲ  
考慮ニ入ルルコトヲ要ス但シ其ノ委員ノ數ハ之ヲ確定セ  
ス尤モ理事会永久代表側委員ト合セテ委員ノ總數カ聯盟  
總數ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス

(五) 第二、交通總会ノ議題トナルヘキ各種提案  
既ニ確定セラレ居ル交通總会ノ議題ハ左ノ如シ其ノ各内容

督局長佐竹三吾氏外専門委員及隨員合セテ數名ヲ帶同ノ上  
之ニ參列セシムル内意ニテ目下關係各方面ト協議準備中ナ  
リ

註 附録甲号乃至戊号ヲ省略ス

六四七 二月二日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通會議副議長ノ資格ニ關シドラ  
モンド聯盟事務總長ト協議ノ件

附記 大正九年十二月二十二日在仮松田臨時代理大使發  
表セザルモノニ限ルトハ安達公使電報ニテ始メテ承知シタ  
ル所ナルガ本件ハ十二月十五日「ゼネヴァ」ニ於ケル聯盟  
理事会ノ議ニ上リシ際交通會議副議長若干名ヲ理事会ヨリ  
推薦スベシトノ案出デタルニ付本使ハ安達公使ヲ其ノ一人  
ニ加ヘラレタキ旨ヲ述べ一同ノ賛成ヲ得タル外其ノ副議長

ノ代表資格云々ハ何等議ニ上ラザリシコトト記憶スル故過

日本使ハ「ゼネバ」「ドラモンド」氏宛ニテ電報ヲ以テ其ノ理由ヲ問ヒタルニ事務局ヨリ簡単ナル答電アリ不日「ド

ラモンド」氏巴里ニ立寄リ本使ニ直接談話スベシトノコトナリシガ「ド」氏ハ本一日來訪ノ上大要左ノ如ク語レリ

交通會議ノ議長副議長ハ交通會議自ラ之ヲ選定スベキ筈ナレドモ斯クテハ時日ヲ空費スルノミナラズ其ノ結果モ覺束無ク又事務担任モ手間ドルニ付會議ノ事務ハ六ニ分科シ理

事会推薦ノ副議長ヲシテ各一科ノ主任タラシメバ大ニ事務ノ進行ヲ期シ得ベク而シテ其副議長ヲ理事会推薦ニ基キ且

自國ノ代表ヨリ之ヲ離ストキハ其ノ意見ハ國際的ノモノトナリ其レ丈価値ヲ増スコト故是非トモ各國代表ト独立セシ

メタシ右ハ「プラッセル」財政會議ノ例ヲ追フモノニシテ「ブ」府會議ガ意外ノ成功ヲ収メタルハ之ガ為ナリシヲ思

ヘバ今回モ亦同様ノ途ニ出テタシトノ希望ニ外ナラズ各國共ニ右ニ同意シ例ヘバ仏國ハ「アノトー」氏ヲ自國代表ト

セズ同氏ハ理事会ノ推薦ニヨルモノトシ外ニ代表ヲ定メ和蘭ノ「ラウドン」氏亦然ルガ如シ日本モ少クトモ安達氏ノ

外ニ代表ヲ定メ同氏ヲ独立セシムルノ形式ヲ採ラレンコト

ヲ希望ス

本使ハ之ニ對シ貴見ハ尤モノコトナレバ将来ハ夫レニテ異議ナケレドモ今回ハ吾ガ政府ニ於テ既ニ安達氏ヲ吾ガ代表ト発表シタルコトナレバ今更代表ヲ更フルコト困難ナルベク日本ニ對シ除外例ヲ設ケラレタシト述ベタルニ「ド」氏ハ遠隔ノ地ニアル日本ノ迷惑ハ諒トスルモ日本ニ對シ除外例ヲ設クレバ他ヨリ故障出テ遂ニ書記局ノ案ハ瓦解セラレ正副議長ノ選定ハ會議ノ手ニ移リ從ツテ議事ノ分配及進行ニ大頓挫ヲ來スノ惧アルニ付枉ゲテ御同意アリタシト主張ス右ノ事情ニ付表面上安達公使ヲ員外トシ他ニ吾ガ代表ヲ仮定シ之ヲ聯盟事務局ニ通知シ先ニ安達代表通知ノ公文ト取換ヘ而モ内実ハ同公使ヲシテ吾ガ代表ノ任務ヲ執ラシムルコト元ノ如クセラルレバ先方ノ希望ニ応ジ吾ガ方ニトリテモ實際不都合無カルベキヤト存ズ「ド」氏ハ倫敦ニ行キ帰途再ビ本使來訪ヲ約セラルニ付折返シ御訓令アリタシ

在白國公使ヘ転電セリ

(附記)

大正九年十二月二十二日在仏松田臨時代理大使堀内田外務大臣宛電報第一八五〇号

### 国際交通會議開催ニ閥シ国際交通事務總長ヨリ原總理大臣宛照会ノ件

第一八五〇号

国際交通事務總長ヨリ帝国内閣總理大臣宛二十一日附電報

ヲ以テ左ノ通申来タレリ

聯盟總会ハ去ル九月二十日貴下宛通告済ニ係ル「バルセロナ」ニ於テ交通及通過自由ニ閥スル国際會議開催ノ件ヲ解

決セリ就テハ右ニ閥スル組織委員会ニ於テ開会期日ヲ來年

二月二十一日トシ議事日程ハ貴下宛送附済ミニ係ル文書ノ通各協約案決議案並交通理事會組織トン尚各參加國ニ對シ戰前ノ情態ニ比シ其ノ鐵道水路及海運ノ輸送ニ閥スル現況ニ付通報セラレン事ヲ望ム將又貴國代表委員ハ素ヨリ成ル可クハ其ノ他専門委員ノ氏名ヲモ一月二十日迄ニ通告セラレン事ヲ望ム

右交通總会關係文書ハ十月九日附公第三四一号ヲ以テ送附済ミ尚右帝國側參列ノ準備ニ閥スル詳細ノ点ハ追テ安達公使ヨリ上申ノ見込

註 公第三四一号ヲ以テ外務省宛送附越ノ聯盟交通總會議準備書類見当ラズ

一一 バルセロナ国際交通會議ニ閥スル件 六四八

付帝国ニ於テハ時機ヲ見テ露国ニ対シ右開放応諾方交渉シ以テ松花江並其ノ國際河川ナルカ為一層開放ノ必要アル黒龍江及烏蘇里江ヲモ開放セシムルコト支那ニ於ケル門戸開放機會均等主義適用上甚タ緊要ナリト云フヘク殊ニ明治十年日露通商航海条約ニ於テハ其ノ附屬別約ヲ以テ露西亞國ト其ノ亞細亞ニ於ケル接境諸国トノ商業ニ関スル特別規定ヲ条約ノ適用外ニ置キタルモ右日露条約ハ曩ニ「ケレンスキ」政府ノ時彼ヨリ我ニ対シ廢棄ヲ通告シタルニ付少クトモ法理上ヨリ言ヘハ通告後滿一年即大正七年十月二十四日ヲ以テ失効セルモノトモ言ヒ得ヘク從テ帝国政府ニ於テハ露国政情ノ安定ヲ俟テ新条約ヲ締結スルト共ニ其ノ際本件ヲモ解決ヲ遂ケ以テ支那カ日清追加条約ノ他ニ依リ各国ニ許セル特權ヲ黒竜江、松花江等ニモ実施セシメント欲シ居候。

帝国政府ニ於テハ黒、松二江ノ開放ニ関シ右ノ如キ企図ヲ有スルニ付巴里国際交通会議準備会ニ於テ國際河川条約草案カ討議セラレタル際政府ニ於テ帝国委員ニ対シ右両河ニ閔スル既得地位ノ擁護ニ関シ種々訓令スルトコロアリ其ノ結果同条約案第二条及第三条ニ依リ黒竜江、烏蘇里江ノ如

付帝國ニ於テハ時機ヲ見テ露国ニ対シ右開放応諾方交渉シ以テ松花江並其ノ國際河川ナルカ為一層開放ノ必要アル黒龍江及烏蘇里江ヲモ開放セシムルコト支那ニ於ケル門戸開放機會均等主義適用上甚タ緊要ナリト云フヘク殊ニ明治十年日露通商航海条約ニ於テハ其ノ附屬別約ヲ以テ露西亞國ト其ノ亞細亞ニ於ケル接境諸国トノ商業ニ関スル特別規定ヲ条約ノ適用外ニ置キタルモ右日露条約ハ曩ニ「ケレンスキ」政府ノ時彼ヨリ我ニ対シ廢棄ヲ通告シタルニ付少クトモ法理上ヨリ言ヘハ通告後滿一年即大正七年十月二十四日ヲ以テ失効セルモノトモ言ヒ得ヘク從テ帝国政府ニ於テハ露国政情ノ安定ヲ俟テ新条約ヲ締結スルト共ニ其ノ際本件ヲモ解決ヲ遂ケ以テ支那カ日清追加条約ノ他ニ依リ各国ニ許セル特權ヲ黒竜江、松花江等ニモ実施セシメント欲シ居候。

帝国政府ニ於テハ黒、松二江ノ開放ニ関シ右ノ如キ企図ヲ有スルニ付巴里国際交通会議準備会ニ於テ國際河川条約草案カ討議セラレタル際政府ニ於テ帝国委員ニ対シ右両河ニ閔スル既得地位ノ擁護ニ関シ種々訓令スルトコロアリ其ノ結果同条約案第二条及第三条ニ依リ黒竜江、烏蘇里江ノ如

付帝國ニ於テハ時機ヲ見テ露国ニ対シ右開放応諾方交渉シ以テ松花江並其ノ國際河川ナルカ為一層開放ノ必要アル黒竜江及烏蘇里江ヲモ開放セシムルコト支那ニ於ケル門戸開放機會均等主義適用上甚タ緊要ナリト云フヘク殊ニ明治十年日露通商航海条約ニ於テハ其ノ附屬別約ヲ以テ露西亞國ト其ノ亞細亞ニ於ケル接境諸国トノ商業ニ関スル特別規定ヲ条約ノ適用外ニ置キタルモ右日露条約ハ曩ニ「ケレンスキ」政府ノ時彼ヨリ我ニ対シ廢棄ヲ通告シタルニ付少クトモ法理上ヨリ言ヘハ通告後滿一年即大正七年十月二十四日ヲ以テ失効セルモノトモ言ヒ得ヘク從テ帝国政府ニ於テハ露国政情ノ安定ヲ俟テ新条約ヲ締結スルト共ニ其ノ際本件ヲモ解決ヲ遂ケ以テ支那カ日清追加条約ノ他ニ依リ各国ニ許セル特權ヲ黒竜江、松花江等ニモ実施セシメント欲シ居候。

帝国政府ニ於テハ黒、松二江ノ開放ニ関シ右ノ如キ企図ヲ有スルニ付巴里国際交通会議準備会ニ於テ國際河川条約草案カ討議セラレタル際政府ニ於テ帝国委員ニ対シ右両河ニ閔スル既得地位ノ擁護ニ関シ種々訓令スルトコロアリ其ノ結果同条約案第二条及第三条ニ依リ黒竜江、烏蘇里江ノ如

キ国際河川ハ原則トシテ外国船一般ニ開放セラルコトトナリシモ支那、羅馬尼、「セルブ」等ノ沿河國ノ主張ヲ仏國等ニ於テ支持セルカ為英、蘭、白、希委員ニ於テ本邦委員ト共ニ之ニ反対セシニ拘ラス第四条ニ於テ特定ノ場合ニハ両沿河國間ノ貿易ハ愛暉条約ノ例ノ如ク沿岸貿易ニ準ジ當該両國船舶ニノミ留保シ得ルヲ規定シ又第十六条ニ於テ沿岸貿易ニハ一律本條約ノ規定ヲ適用セサルコトセル案ヲ客年三月三十日該準備会ニ於テ議了シ之ヲ來ル三月十日西国「バルセロナ」ニ開催ノ交通總会ニ提出スルコトヲ決定スルニ至リ候（曩ニ去ニ月四日付条一第一二号貴官宛送付附属書参照）

今之ヲ査スルニ右ノ中後者即チ沿岸貿易非開放ニ付テハ日清条約等ノ規定ト扞格スルモ其ノ第十七条ニ依リテ現行条約ニ依リ外国船ニ許サレ居ル場合ニハ右ニ対シ何等ノ影響ヲ及ホササルヲ規定セルニ付暫ク措イテ問ハストスルコトヲ若シ帝国政府ニ於テ承諾スルトキハ從来黒竜江、松花江ノ開放ニ関シ帝国ノ保持シタル地位ヲ傷ケ上記日清条約締結ノ際ニ於ケル支那委員ノ言明アルニ拘ラス露支間ノ愛

暉条約ヲ恒久的ニ存続セシムルノ結果ト相成リ帝国ノ永年

ノ企図ヲ画餅ニ帰セシムルノミナラス歐州、南米等ニ於テ列国トノ条約ニ依リ已ニ認メラレタル諸國際河川ノ一般開放ノ原則トモ背馳シ北滿ニ於テ列国ノ慣例及他ノ支那領土ト異ナレル特殊事態ヲ列国ト等シク承認スルコトナリ且右北滿ニ於ケル特殊事態ヲ覆ス目的ヲ以テ去明治三十八年支那カ自ラ進ムテ哈爾賓、三姓等ヲ開放シタル本旨ニモ副ハサルニ付右第四条ノ挿入ハ帝国ニ於テ到底同意シ得ザルトコロニ有之候。

依テ帝国政府ニ於テハ來ル交通總会ニ於テ利害關係國トモ

協調ノ上前記第四条ノ削除方ヲ極力努メシメ万一其ノ目的ヲ達セサル場合ニハ時宜ニ依リ該國際河川協約案ヲ時勢ニ逆行スルモノト看做シ之カ参加ヲ拒否スヘシト思考スルモ一步退テ之ヲ考フルニ亞細亞特殊ノ問題ニ付支那委員トノ間ニ付右ハ上掲第十七条ノ趣旨ヲ明確ニシタルニ過キス）又第二項ニ於テ日清条約締結當時ニ於ケル支那側言明ノ趣旨ヲ採リ他日帝国ニ於テ黒竜江等開放ノ同意ヲ露國ヨリ取付ケタルトキハ直ニ三ヶ月ノ予告ヲ以テ開放セラルヘキヲ規定セルモノナリ蓋シ第一項ニ於テ沿河國双方ノ同意アリタル場合ニ限り第四条ノ適用ヲ見ルヘキヲ規定セルニ付其ノ孰レカ一方ニ於テ不同意ヲ表スルトキハ原則ニ立チ戾リ当然開放セラルヘキコト第二項ノ明文ヲ俟タスシテ明カナリトモ思ハルモ誤解ヲ避クル為本点ヲ明確ニセムトステ我ニ申越セル次第ニモ扞格スルニ付出来得ヘクハ本件ニ関シ予メ日支ノ間ニ了解ヲ遂ケ其ノ措置ヲ「バルセロナ」第一三一七号支那側ヨリ彼我委員和衷協同方ニ付公文ヲ以テ我ニ申越セル次第ニモ扞格スルニ付出来得ヘクハ本件ニ

ル趣旨ニ外ナラス候尤モ本件ヲ支那側ニ提示スルモ第四条

削除ハ素ヨリ其ノ修正スラ到底其ノ同意ヲ得ル見込ナシト  
ノ御意見ナルニ於テハ更ニ関係国政府ニモ協議ノ上「バル  
セロナ」會議ニ於テ本件貫徹方我委員ヲシテ努力セシムル  
積リナルニ付其ノ旨直チニ電報ヲ以テ御一報相成度候  
右訓令申進候也

(註) 二月四日附条第一一二号ヲ省略セリ

2 大正九年十二月十三日小幡公使発外務大臣宛第一三一七号

ハ中国政府ヨリ中国ノ国際交通會議參加ヲ通報シ日中委員

ノ協調ヲ望ム旨申越シタル趣ヲ報告セルモノナリ

(附屬書)

甲号 二月四日附条第一一二号ヲ省略セリ

支那ニ於ケル沿岸貿易及内水航行問題(大正十年一月条約)

局第一課調) 次

第一 支那ニ於ケル沿岸貿易問題

(甲) 沿岸貿易沿革ノ概要

(乙) 内水航行問題並其ノ沿岸貿易トノ関係

第二 支那内地河川ニ於ケル外国軍艦航行権問題

附 黑龍江及松花江開放問題

第一 支那ニ於ケル沿岸貿易問題

(甲) 沿革概要

凡ソ沿岸貿易権ハ各國概ネ之ヲ自國船舶ニ留保スルヲ以テ  
通則トナシ支那政府ト雖外國船舶ニ沿岸貿易ヲ許与セサラ

等ノ変革ヲ看サリシノミナラス却テ英國政府ハ沿岸貿易ヲ  
以テ支那官憲ノ支配下ニ属スヘキモノトノ見解ヲ採リ千八  
百六十一年支那駐劄英國公使「ブルース」ノ如キハ上海英  
国人商業會議所ニ対シ  
「支那沿岸貿易権ハ條約上ノ権利ニ非ス仍テ支那政府ハ之  
ヲ規律スル一般規則ヲ制定シ得ヘシ支那地方官憲ノ默許ニ  
基ク慣行ハ何等之ヲ妨クルモノニアラス」トノ旨ヲ声明ス  
ルニ至リタリ然レトモ右英國政府ノ見解ハ支那方面在住英  
國商人ヨリ反対ヲ受ケ彼等ハ通商ノ自由ヲ絶叫シ支那ニ於  
ケル外國人ノ沿岸貿易権ハ業ニ設定セラレタル慣習タリト  
為ス見解ヲ固執シテ下ラス其ノ結果依然トシテ沿岸貿易ハ  
殆ト無制限ニ認容セラレ其ノ課税モ亦各開港毎ニ別異ノ税  
則ヲ設ケ全然統一ヲ欠キ一方在支外國使臣ハ沿岸貿易権ヲ  
確保セント努メタルカ故ニ支那總稅務司「ロバート・バー  
ト」ハ總理衙門ヲ通シテ沿岸貿易権ヲ外國船ニ許与スルロ  
ト及同貿易ニ關スル課税等ニ對スル提案ヲ為シ恭親王ノ助  
力ノ下ニ咸豐帝ノ嘉納ヲ得咸豐十一年五月十一日ノ上諭ト  
為リ之ニ基キ千八百六十一年沿岸貿易規則ノ制定ヲ見タリ  
之ニ依リテ從來ノ課税法ヲ統一セリ依テ該規則ハ從來默認

】一 バルセロナ国際交通會議ニ関スル件 六四八

セル外國船ノ沿岸貿易権ヲ公認セルモノト解スヘキハ沿岸  
ヲ運送セラルル内國品ニ關スル沿岸貿易税ノ詳細ヲ規定ス  
ルノミニシテ其ノ適用範囲ニ付何等ノ制限ヲ存セサル事實  
ニ徴シテ明カナリト謂フヘシ而シテ該規則カ駐支外國使臣  
ノ意見ヲ徴シテ制定セラレタル沿岸ニ顧ミ右ハ單ナル支那  
ノ国内法タルニ非スシテ寧ロ條約ト看做シ得ヘキナリ蓋該  
規則カ一八六一年十月十三日駐支英國公使「ブルース」氏  
ニ依リ上海ニ於テ公布セラレタル事實ヨリモ之ヲ以テ支那  
カ外國船ニ沿岸貿易権ヲ公認セル噶矢ト見做シ得ヘキナリ  
尤モ條約ノ明文ヲ以テセルハ一八六三年丁支條約ヲ始メト  
スルコト後述スルカ如シ

(参照) 支那沿岸貿易規則抄錄

### REGULATIONS relating to Transit Dues, Exemption Certificates, and Coast Trade.

#### III. Coast Trade Duty.

§1. Native produce carried coastwise pays full  
export duty at the port of shipment; and, at the port  
of entry, coast-trade duty, the amount of which is de-  
clared to be half-import duty.

ムコトヲ期シタリシモ然ルニ英國人ハ未タ條約又ハ法令ノ  
明文ニ依リ之ヲ許サレサル以前ニ於テモ十九世紀初頭ヨリ  
継続支那沿岸貿易ニ從事シ他ノ外國人モ渡来スルモノ多キ  
ニ從ヒ之ニ倣ヒ盛ニ沿岸貿易ニ着手シ以テ漸ク外國人カ沿  
岸貿易ヲ公行スルノ慣例ヲ馴致スルノ情勢ヲ示セリ而シテ  
此ノ如キ情勢ヲ呈セル理由ハ之ヲ支那側ヨリ觀察スルトキ  
ハ其ノ開國ノ当初ニ在リテハ沿岸航行モ危險ヲ極メ却テ之  
ヲ設備堅牢ナル外國船舶ニ委シ外國船ノ保險制度等ニ依頼  
スルヲ以テ得策トナセルニ依ルモノナルヘシ然レトモ他面  
支那中央當路者ハ夙ニ外國人ヲシテ自國沿岸貿易ニ從事セ  
シムルハ延イテ自國貿易権ヲ奪取セラルルノ因ヲ醸スノミ  
ナラス外國船舶ニ対スル自國課税上ノ制限ニ依リ國庫収入  
ヲ減退セシムルノ虞アルヘキヲ慮リ外國船ヲ沿岸ヨリ排除  
セムコトヲ期シタルモ擾亂相繼ク等自國ノ多事ナル内政ノ  
為往再事意ニ任セス地方官憲ノ默許ノ下ニ支那沿岸貿易ハ  
公行セラルルノ状ヲ呈セリ  
之ト同時ニ西歐諸国政府ハ既ニ事實上其ノ権利ヲ獲得セル  
モ未タ沿岸貿易開放ヲ條約ノ明文ヲ以テ之ヲ確保セムトス  
ルモノ無カリシニ依リ第十九世紀前半迄ハ叙上ノ形勢ニ何

§2. If the produce in question be entered at the second port as for re-exportation to a foreign market, the payment of coast-trade duty is to be regarded as a deposit during a term of three months, before expiry of which the produce must be re-shipped for a foreign port; and the merchant will thereupon immediately recover the amount of the coast-trade duty lodged with the Customs. If the term expire without shipment of the produce, the said amount will be carried to the account of Customs revenue, and the produce, if subsequently shipped to a foreign port, will pay a full export duty.

§3. If the produce, though shipped within the term allowed, be found to have been subjected to unauthorized changes of quality, condition, etc., the coast-trade duty lodged will not be returned, and an export duty as upon all other produce leaving the port, will be levied.

§4. If, on arrival of the produce at the port of

中國ナルハシタル處爾後支那「於ケル沿岸貿易權」閻少更「敵固ナル保障」規定ヤルヤハ「十八百六十二年收解ト抹間」締結ヤル「タル天津條約第四十一条」一八七四年秘支天津條約第八条及「後添附則」十六年正月清浦商航海條約附屬追加内水航行規則第八条シテ其ノ把知國「最惠國」条款「基キ是等条項」均體スルヤハナニ

#### ARTICLE XLIV. (丁支条約)

Chinese produce may be carried coastwise in Danish vessels from one open port to another on paying Tariff duty at the port of shipment and coast trade duty (the amount of which shall be one-half of the Tariff duty) at the port of discharge. Chinese produce brought in from another port, if re-exported coastwise within twelve months, will be entitled to a draw-back certificate for the half duty paid, and no export duty or coast trade duty will again be charged at the port of discharge.

#### ARTICLE VIII. (秘支第七条)

11 ペルナ國総税港外譲り置キ社 長圖

四三二

The merchant ships belonging to Peruvian citizens shall be permitted to frequent all the ports of China open to foreign trade, and to proceed to and fro at pleasure with their merchandise, enjoying the same rights and privileges as those of the most favoured nation.

In like manner, the merchant ships belonging to Chinese subjects may visit all the ports of Peru open to foreign commerce and trade in them, enjoying the same rights and privileges which in Peru are granted to the citizens or subjects of the most favoured nation.更「中國」支那「ノ體」於ケル條約中沿岸貿易「閻」ノ規定「左記明治十九年正月清浦商航海條約第五条及正月清浦商航海條約第六条第一項第一「於ノ開港」ノ規定「ノ體」ハ「ク殊」後添回條約「附屬支那内水航行追加規定」第八条シテ「ノ日本汽船」支那開港間及不開港ト開港間ノ貨物運送「從事」得キア明定ハ尚回條約第十五条第1項ノ「ノ日本」ノ最惠國待遇ハ「ノ規定」

entry, loss of the export duty certificate be alleged, the export duty can be lodged with the Customs until the Customs authorities shall ascertain the fact from those of the port of shipment.

§5. Native produce, accompanied by a certificate that the coast-trade duty has been paid at the second port, may be carried to any other port or ports in China, without payment of further duty to the Maritime Customs.

§6. Native produce carried from Shanghai to Hankow, or Kiukiang, or vice versa, pays a full import or export duty and coast-trade duty. While the river trade continues under the Provisional Rules now in force, these duties will be levied at Shanghai. If the produce in question be entered for re-export to a foreign port, the coast-trade duty will be deposited and refunded as provided in Clause 2 of this Rule.前叙ノ如ヘ實行リ其ノ記載ノトキノ解説並貿易權ハ續ハシ一八六一年ノ沿岸貿易規則「依ニ條約上ノ權利」等ハシ

明治十九年正月清浦商航海條約第五条

四三三

日本国船舶ハ現ニ立寄港ナル安慶、大通、湖口、武穴、陸溪口及吳淞併ニ将来立寄港トヤラルベキ總テノ場所於テ外國貿易ニ關スル現行章程ニ從ヒ旅客商品ヲ積卸ヤシムル為メ之ニ寄港スルコトヲ得

清國ノ諸開港及諸立寄港外ノ港ニ不法ニ進入シ若ハ沿海及河筋ニ於テ密商ニ從事スル船舶ハ其ノ積荷ト共ニ清國政府ニ於テ之ヲ沒収スベキモノトス

#### 日清講和条約第六条第一項第一

旅客及貨物運送ノ為メ日本国汽船ノ航路ヲ左記ノ場所迄拡張スヘン

一揚子江上流湖北省宜昌ヨリ四川省重慶ニ至ル  
二上海ヨリ吳淞江及運河入り蘇州杭州ニ至ル

日清両國ニ於テ新章程ヲ妥定スル迄ハ前記航路ニ關シ適用シ得ベキ限ハ外國船舶清国内地水路航行ニ關スル現行章程ヲ施行スベシ

#### (乙) 内水航行問題並其ノ沿岸貿易トハ関係

一八九八年七月二十八日ノ内水航行章程第一条第一項ハ左ノ如ク定ム

The inland waters of China are hereby opened

#### vention of abuses thereat.

右英清芝罘條約第四条ニ於ケル内地・ナル語ノ釈義ハ沿岸ノ航路ニ内水ナル意義ノ適用ヲ許スノミナラス現ニ英人ノ組織ニ係ル支那航海公社カ内水航行章程ニ拠リ上海舟山島間ニ定期航海ヲ開キタル際清國政府ハ右ノ航路ヲ以テ内水航行章程ノ範囲外ナリトシテ故障ヲ申立テタルモ英國ハ英清芝罘條約ニ拠リ沿岸航路ノ内水タル説ヲ主張シ動カサリン結果英國ノ勝利ニ帰シタル実例アリ

以上ノ英支交渉ノ経緯ニ依リ河又ハ内湾ニ沿ヒタル不開港ヘノ航海ノミナラス海岸ニ沿ヒタル不開都市港トノ貨物運送モ亦内水トシテ航行シ得ベキヲ証スルニ足ル更ニ亦明治三十六年十月八日上海ニ於テ調印セラレタル追加日清通商航海條約第三条ハ左ノ如ク規定シ前記ノ点ヲ明確ニセリ清國政府ハ内水航行ニ適スル各種ノ日本国汽船カ清國海關ニ届出ノ上内地水路汽船航通規則及同追加規則ニ依リ貿易ノ目的ヲ以テ清國開港場ヨリ其ノ届出テタル内地ニ航行スルコトヲ承諾ス

右ニ所謂内地水路航通規則トハ前掲一八九八年（光緒）一八年）五月及七月ノ制定並追加ニ係ルモノニシテ該条ニ關

to all such steamers, Native or Foreign, as are specially registered for that trade at the Treaty ports. They may proceed to and fro at will under the following

Regulations, but they must confine their trade to the inland waters and must not proceed to places out of Chinese territory. The expression "inland waters" is used with similar meaning to that given for places in the interior (nei-ti) in the fourth Article of the

Chefoo Convention.  
右第一条第一項末文「内水」ハ「字ハ英清芝罘條約第四条ニシテハ」タニ意義ヲ有ベト規定ヤシ仍テ較詳條約第四条ヲ閱スルニ左ノ如ク規定ベ

The words, neiti, inland, in the clause of Article VII of the Rules appended to the Tariff, regarding carriage of imports inland, and of native produce purchased inland, apply as much to places on the sea coasts and river shores, as to places in the interior not open to foreign trade; the Chinese Government having the right to make arrangements for the pre-

シテハ右條約附屬第一号及第二号ヲ以テ帝国條約改訂委員ト清國條約改訂委員トノ間ニ詳細ヲ協定スル所アリ而シテ右條約第三条及之ニ關スル右附屬書ニ言及セル追加内地水路汽船航通規則ノ第八条ニハ左ノ如ク広汎ナル沿岸貿易ノ開放ヲ規定セリ

登録汽船ハ一港内ニ於テ又ハ開港ヨリ他ノ開港ヘ又ハ開港ヨリ内地ヘ及内地ヨリ右開港ヘ往復スルコトヲ得又該船ハ海閥ヘ正式ノ届出ヲ差出シタル上航行ノ途中通過スル場所ニシテ貿易地ト認メラレタル所ニ於テ乗客又ハ荷物ヲ陸揚又ハ搭載スルコトヲ得但シ清國政府ノ承諾ヲ得タル場所ヲ除クノ外專ラ内地間ノミ往復スルコトヲ得ス

#### 第一 支那ニ於ケル外國軍艦航行権問題

支那ハ各國トノ左記條約上ノ明文ニ依リ其ノ一切ノ領土内ノ港ニ於テ外國軍艦ニ対シ入港ヲ許シ居レルトコロ右一切ノ港ノ中ニハ河川内水ニ於ケル港ヲモ包含スルモノト見做スベク現ニ支那揚子港其ノ他ニ於テ帝國其ノ他諸外國軍艦ノ航行シ得ル所以ハ右ニ基クヘシ英支千八百五十八年天津條約第五十二条ハ英國軍艦ハ支那領土内ノ一切ノ港ニ到ルコトヲ得ル且マ規定ヘルコト左記ノ如シ

British ships of war coming for no hostile purpose, or being engaged in the pursuit of Pirates, shall be at liberty to visit all ports within the dominions of the Emperor of China, and shall receive every facility for the purchase of provisions, procuring water, and, if occasion require, for the making of repairs. The Commanders of such ships shall hold intercourse with the Chinese authorities on terms of equality and courtesy.

而シテ日支千八百六十五年北京条約第四十一条、丁支千八百六十三年天津条約第五十二条、伊支千八百六十六年北京条約第五十二条、和支千八百六十三年天津条約第十三条及西支千八百六十四年天津条約第四十八条等ハ前記英支条約ト同様ノ規定ヲ設ケ又構文ヲ異ニスルモ露支千八百五十八年天津条約第二十九条並第三十条等ハ前記英支条項ト同様ノ規定ヲ為ス

更ニ又明治二十九年北京条約第二十五条第一項及明治三十六年上海追加条約第九条ニ依リ帝国軍艦ハ最惠国待遇ヲ享

松花江ハ然ラス故ニ松花江モ同様成シ得ル様致シタシトノ主旨ヲ以テ此案ヲ出しシタルナリ然ルニ原案ヲ提出シタル後松花江ニ閔シテハ清露間ノ条約アルコトヲ発見セリ（此時小村男ハ其愛暉条約ノ一部漢訳文及仏文ノ英訳ヲ袁全權ニ交付ス）

本条約ハ尚ホ効力アリト思考ス如何ニヤ

袁全權 無論ナリ

小村男 然ラハ露国ノ承諾ナクンハ貴國限リニテ松花江ニ於ケル航行ノ自由ヲ日本ニ許スコト能ハサルヘン  
袁全權 日露講和条約中第四条ニ露国ハ清國カ各國商工業ノ為採ルヘキ措置ヲ妨碍セストノ宣言アリ故ニ日本ニ許

スモ差支ナキニ非スヤ

小村男 日露講和条約ノ第四条ハ貴國カ外國トノ条約ニ背

キテモ措置ヲ執リ得ヘシト云フ意味ニアラス列国トノ既定条約ニ背カヌ範囲ニ於テナスヘキコトニシテ本件ニ就キ既ニ露国ト清國トノ間ニ条約アル以上ハ此ノ条約ヲ破ルヲ得ス故ニ第九条ハ本全權ヨリ原案ヲ撤回スヘシ原案提出後ニ露国ノ承諾ヲ要スルコトヲ發見シタレハナリ其代リニ他日若シ本件ニ閔シ日本カ露国ト相談シ露国ニ於

有シ從テ支那内地河川ニ於テ最惠国タル前掲英國其ノ他ノ諸國ノ軍艦ト同一ノ待遇ヲ享有スヘキヲ規定ス  
附 黒竜江及松花江航行権問題ニ関スル交渉顛末  
松花江ニ於ケル航行権ハ始メ愛暉条約ノ規定ニ基キ黒竜江、烏蘇里河ニ於ケル航行権ト共ニ露清両國ノ独占セシ所ナルヤ「ボーナス」条約ニ於テ露國ハ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機会均等主義ト相容レサル何等ノ領土上ノ利益又ハ優先的若クハ專属の讓与ヲ満州ニ於テ有セサルコトヲ声明シ清國又明治三十八年北京會議ノ際露國ニ於テ異議ナキニ於テハ商議ノ上日本國ノ松花江ニ於ケル航行権ヲ承允スル旨言明セリ

参考（満州ニ関スル日清交渉談判筆記）

#### 第七回本会議

明治三十八年十一月二十九日 午後三時十七分開議

小村男 次ハ第九条ナリ即チ遼河、鴨綠江、松花江及支流航行権ノ条項ナリ此ノ三河ノ内日本ニ於テ主トセルハ松花江ノ航行ナリ而シテ此ノ内遼河ト鴨綠江ハ既ニ現行條約ニヨリ日本臣民ハ航行スルコトヲ得ルコトナリ然ルニ

#### 会議録ニ記シ置クヘシ

小村男 九条ハ之ニテ議了セリ  
袁全權 然シ日露講和条約第三条ニハ露国ハ獨占権優先権ニ開クコトハ異議ナキ旨ヲ會議録ニ留メ置キタシ  
袁全權 承知セリ我方ノ困難ヲ察セラレテ貴案ヲ撤回セラレタル貴全權ノ御好意ハ甚感謝スル處ナリ只今ノ御話ハ會議録ニ記シ置クヘシ

小村男 九条ハ之ニテ議了セリ

袁全權 然シ日露講和条約第三条ニハ露国ハ獨占権優先権ヲ皆放棄スト云フコトアリ

小村男 其レハ其通りナリ然レトモ日露講和談判中此松花江ニ閔スルコトハ日本全權モ露國全權モ眼中ニナカリシナリ

瞿全權 此事ヲ撤回セラレタルニ付キ深ク両全權ノ御注意ヲ感謝ス

小村男 此事ヲ露清条約アルニ拘ラス取極ムルトキハ露國ニ苦情ヲ唱フルノ口実ヲ与フルコトナルヲ以テ撤回スルナリ  
瞿全權 此事ハ全ク貴両全權ニ於テ眞実ノ好誼ヲ重セラレタルコトナレハ深ク感謝スルトコロナリ

滿州ニ閔スル日清交渉會議録第七号

明治三十八年十一月二十九日 午後二時十七分開会

瞿 鴻 稔 (華押)  
袁 世 凱 (華押)

中全權大臣會議東三省事宜節錄第七号

兩国全權委員ハ大綱第九条ノ討議ニ進ミ日本國全權委員ハ本条中鴨綠江及遼河ノ航行権ハ現行条約ニ依リ既ニ日本國臣民ノ享有スル所ナレハ今日主トシテ協定ヲ必要トセシハ松花江ニ閑スルモノナリシカ原案提出後調査シタル所ニ依レハ清露間ニ締結シタル愛璉條約ニ於テ松花江ノ航行権ハ之ヲ清露両國船舶ノミニ限り他國船舶ニハ之ヲ許可セサル旨ヲ規定セルモノアルヲ発見シタルコトヲ述ヘ該條約ハ今日ト雖効力ヲ有スルヤ否ヤヲ清國全權委員ニ問ヘリ

清國全權委員ハ該條約ハ依然トシテ効力ヲ有スルコトヲ答ヘタルヲ以テ日本國全權委員ハ然ラハ若シ本条ヲ直ニ清國ト協定スレハ清國ニ於テ不都合ノ事アルヘキヲ以テ本条ノ提議ハ之ヲ撤回シ並ニ松花江航行ノ件ニ關シ露國ニ於テ異議ナキトキハ清國ニ於テモ之ヲ商議ノ上承諾スヘキコトヲ會議録ニ記入シ置カムコトヲ欲スト述ヘタリ

清國全權委員ハ之ニ同意ナル旨ヲ答ヘタリ

小村 寿太郎 (華押)

内田 康哉 (華押)

慶 親 王 (華押)

兩国全權大臣磋商大綱第九条日本國全權大臣云本条内所開鴨綠江及遼河行船之権按照現行條約固屬日本國臣民所享現在所欲商定者著要在乎松花江而將此大綱交閱後查拵中俄愛璉條約方悉松花江行船之権專許中俄兩國船隻他國船隻不在准許之列並詢中國全權大臣此項條約現在是否仍行遵守因中國全權大臣答稱該條約仍舊遵守日本國全權大臣云然則此條如逕与中国商定似与中国有不便之處應將此條撤回如松花江行船之件俄國無異議則中國亦可商允願將此意存記會議節錄內

中国全權大臣答稱允照弁理

小村 寿太郎 (華押)

内田 康哉 (華押)

慶 親 王 (華押)

瞿 鴻 稔 (華押)

袁 世 凱 (華押)

依テ帝国政府ハ明治四十年日露通商航海條約締結會議ノ際同江ニ於テ有スル露國ノ獨占的航行権ヲ以テ「ポーツマス」條約ニ所謂機會均等主義ニ反スルモノトシ従テ露國ハ如上ノ優先権ヲ放棄シタル今日列國船舶ノ沿河航行ニ從事スルコトヲ拒ム能ハサル次第ナルヲ以テ当然我國モ松花江ニ於ケル航行権ヲ享有スルモノナリト主張セシニ露國政府ハ松花江ノ航行権ヲ以テ沿河國トシテ有スル自然ノ權利ニシテ愛璉條約ハ單ニ此既得権ヲ確認シタルモノニ過キス從テ「ポーツマス」條約ニ所謂特權ナルモノニ非ストノ旨ヲ

以テ反対セリ如此両國政府ノ本問題ニ閑スル見解一致セサリシヲ以テ遂ニ両國政府ハ本問題ノ解決ヲ通常ノ外交方法ニ委スル為通商條約談判ヨリ分離スルコトニ一致セルカ第一回日露協約ニ閑スル談判ノ際帝国政府ハ再ヒ本問題ヲ提議シ清國政府ハ航海運輸ニ閑シテハ追加日清通商條約ヲ以テ我國ニ対シ絶對的ニ最惠國ノ待遇ヲ与フルコトヲ約シタルヲ以テ松花江ニ於テハ帝國臣民ハ露國人同様船舶運輸業ニ從事シ得可キハ該條約ヨリ生スル我國當然ノ權利ナリト主張シ數次交渉ヲ重ねタル結果露國外務大臣ヨリ在露帝國大使ニ対シ露國政府ハ同江ニ於ケル各國船舶ノ航行ヲ許ス

参照 愛璉條約第一条

### TREATY OF AIGUN, 1858.

#### ARTICLE I.

La rive gauche du fleuve Amour, à partir de la rivière Argoun jusqu'à l'embouchure de l'Amour, appartiendra à l'Empire de Russie, et sa rive droite, en aval jusqu'à la rivière Oussouri, appartiendra à l'Empire Ta-Tsing; les territoires et endroits situés entre la rivière Oussouri et la mer, comme jusqu'à présent, seront possédés en commun par l'Empire Ta-Tsing et

l'Empire de Russie, en attendant que la frontière entre les deux Etats y soit réglée. La navigation de l'Amour, du Sungari et de l'Oussouri n'est permise qu'aux bâtimens des Empires Ta-Tsing et de la Russie; la navigation de ces rivières sera interdite aux bâtiments de tout autre Etat. Les habitants manchous établis sur la rive gauche de l'Amour, depuis la rivière Zéia jusqu'au village de Hormoldzin au sud, conserveront à perpétuité les lieux de leurs anciens domiciles sous l'administration du Gouvernement mantchou, et les habitants russes ne pourront leur faire aucune offense ni vexation.

**第1条**  
1 黒龍江松花江左岸由額爾古訥河至松花江海口作為俄羅斯國所屬之地右岸順江流至烏蘇里河作為大清國所屬之地由烏蘇里河往彼至海所有之地此地如同接連兩國交界明定ノ開地方作為兩國共管之地由黑龍江松花江烏蘇里河此後凡准中國行船各別外國船隻不准由此江河行走黑龍江左岸由精奇里河以南至額爾莫勒津屯原住之滿洲人等照旧准其名在所住處

按照一千八百五十八年五月十六日即咸豐八年在愛輝所定條約應准兩國人民在黑龍江松花江烏蘇里河行船并与沿江一帶地方居民貿易現在復為申明至如何照辦之處應由兩國再行商定

**註** 本款第十八条トアルハ聖彼得堡條約第十八条ナリ此ノ條約ハ  
共管地方ニ於ケル中國ノ管轄權ノ復旧等ヲ規定カルハ本件  
參照シタルヤハト推ヤハル  
(密議書)

Nth

國懸河川條約案第四條修正案

**Article 4.****Restrictions.**

Nevertheless, in exceptional cases justified by a combination of economic, technical and topographical circumstances, those among the High Contracting Parties who are co-riparian States of one and the same international waterway may, subject to the consent of all the States riparians of the waterway, or represented on its International Commission, if one experts, deny to the flags of all the non-riparian States

廿二永遠居住仍着滿漢服國大臣加領軍機制俄羅斯人等經好不得  
豐忌

伊黎條約第八条(註)

TREATY OF ST. PETERSBURG, 1881,  
CONCERNING THE RE-ESTABLISHMENT OF THE  
AUTHORITY OF THE CHINESE GOVERNMENT  
IN ILI, ETC.,

**ARTICLE XVIII.**

Les stipulations du Traité conclu à Aigoun le 16 mai 1858 concernant les droits des sujets des deux Empires de naviguer sur l'Amour, sur le Sungari et sur l'Oussouri, et de faire le commerce avec les populations des localités riveraines, sont et demeurent confirmées.

Les deux Gouvernements procéderont à l'établissement d'une entente concernant le mode d'application des dites stipulations.

本款條約

## 第十八条

the right to carry out the local transport of passengers and goods between the different States situated on that waterway, unless otherwise provided by the existing treaties with any third power.  
*It is understood, however, even in cases where restriction on the free navigation of an international waterway is imposed under the reservation contained in the preceding paragraph, any one of such co-riparian States or of such States represented on its International Commission may, at any time on three months' notice given to the other co-riparian States or to the said Commission, revoke its consent to such restriction, and thereafter the waterway in question shall be open to the vessels of all the High Contracting Parties in accordance with the principle of the freedom of navigation laid down in the present Convention.*

カリハ 11月廿四日 拙國公使ニ  
大臣外務大臣宛 (翻譯)

ハニヤロナ國懸校理外讐ハ國スルト カリ

## 告ニ必要ナル資料電報方稟請等ノ件

第四四号 (一月十八日接受) (註<sup>1</sup>)

不日開会ノ交通総会ニ於テ客年往電第一四八号(5)ノ通帝國ニ於ケル戰前戰後ノ運輸交通状態ノ比較等ニ関シ簡単ナル報告ヲ要スル処右材料トシテ左記項目別ニ依リ一九一四年及一九一〇年各曆年末ノ計数ヲ至急回電アリタシ

(一) 鉄道線路 (幹支線ヲ含ミ軌道ヲ除ク以下同シ) (a) 営業哩延長 (b) 複線哩延長 (第三線以上ヲ含ム) (1) 車輛數 (a) 機関車 (b) 客車 (貨車) (ii) 運輸數量 (a) 列車哩 (b) 旅客人哩 (c) 貨物噸哩 (四) 貨率ノ増加 (a) 旅客貨率 (b) 貨物貨率 (平均噸哩運貨) (五) 燃料ノ消費數量及単価 (a) 石炭 (b) 重油 (c) 原產地ノ國名 (d) 一噸平均単価 (六) 鉄道經濟 (a) 資本總額 (b) 総收入 (c) 総支出 (d) 資本ニ対スル利益割合 (e) 材料騰貴率 (f) 労銀ノ騰貴率 (七) 自動車運送ノ發達 (a) 車數 (b) 輸送人員 (c) 輸送貨物 (d) 保護政策ノ大要 (八) 空中輸送ノ發達

次ニ山東鉄道經營ノ現況御電報アリタシ

尚昨年一月二日松井大使宛貴電第九〇号(註<sup>2</sup>)中御來示ノ交通關係本邦現行條約ニシテ今後審議セラル可キ交通四協約案ノ

主義ニ反スルモノアラハ特ニ事情ヲ具シテ其効果ヲ維持ス

可キ事ニ相成リ居ル処(準備書類第二二六頁第十一項)(註<sup>3</sup>)

御來示ノ通り特ニ右ノ手続ヲ要スルモノ無カル可シト存セラルモ万々遺漏ナキヲ期シ度キニ付綿密ニ御取調至急何分ノ儀御回訓アリタシ(準備書類第五十頁其他御参照ヲ請フ)

終ニ今次交通総会ニ参列スル國ハ國際聯盟會員總体ノ外独立國モ或資格ヲ以テ參列ス可キ形勢アリテ總數約五十箇國トナリ纔ニ二十箇國ヲ包含シタル巴里交通會議ノ際トハ大勢自ラ異ルニ付如何ナル議論ヲ生ズルヤ全ク予見スルヲ得サルモ書記局ハ準備書類所載ノ諸協約案ヲ議題トシ「アノトウ」氏並本使等ハ其通過ヲ計ル事ニ努力ス可キ覺悟ニシテ右諸案ハ此際我レノ収メ得可キ最大限度ト認メラルル処万ニ帝國政府ニ於テ御異存アル場合ニハ至急御回訓相成リタシ

註一 大正九年十二月二十六日在白安達公使發内田外務大臣宛電報第一四八号第五

## 第一四八号

第五 内閣總理大臣宛電報中ニ見ユル戰前戰後各國交

第三回國際交通會議十三日開会通過自由ニ関スル協約案ニ付討議アリ(中略)次イデ本案協約ノ実施後ニ於

テ各國間ニ存スル條約其他ノ取極中之ニ抵触スルモノノ効力如何ニ関シ議論アリ各國ヨリ現存條約等ニシテ右ノ点ニ關係アルモノヲ取調べ明年一月迄ニ提出スルコトトシ(中略)本邦ニ於ケル交通關係現行條約中本會議提案ニ係ルモノニ付從来御訓令以外ニ於テ心得置ク可キモノアラハ至急御回示アリ度シ

註3 自由通過協約案第十条左ノ通

Each of the High Contracting Parties recognises in its own particular case that the present Convention cancels all *inter se* obligations and agreements which are incompatible with its terms, and undertakes not to conclude any similar agreement in the future, in the absence of such a combination of special economic, topographical and technical considerations as might justify exceptional agreements of this nature.

Nevertheless, the following remain in force although not referred to at the close of the preceding paragraph).

往電講第二五五六号國際交通會議通過自由案中普通道路及關係現行條約ニ関スル件至急御回電アリタシ  
尚右講第二五六六号(松井大使大正八年十二月十九日發)中關係現行條約ニ関スル部分左ノ通

一一 バルセロナ國際交通會議ニ関スル件 六五〇

六五〇 一月十九日 在仏國石井大使(電報)

国際交通会議ニ於テ国際河川協約ヲ東洋ニ適用ノ問題等ニ付日中両国ノ協力ヲ中国委員要

## 望ノ件

第二四〇号

(二月二十一日接受)

交通總会支那委員章祐(Jsang ou)ノ笠間ニ内話シタル所

ニ依レバ支那政府ガ今回ノ會議ニ付特ニ日本側ノ支持ヲ希望スル所以ハ国際河川ニ対スル一般的協約ヲ東洋方面ニ適

用スルハ支那ノ好マザル所ニシテ出来得可クンパ黒竜江ヲ始メ支那ノ利益ノ関スル限りハ各箇別ノ協約ニ基キ現状維持ヲ希望スル次第ナリ日本モ多数ノ国境河川ヲ有ス可ク會議ニ於テ日支相争フガ如キ事ハ可成避ケ會議前ニ右ノ点及租借地ニ於ケル河川及港湾ニ関スル点等ニ付予メ懇談ヲ遂ゲ置キ度ク會議ニ於テハ日支ノ意見ハ全然一致セルモノトシテ相互支持ヲ得度キ次第ナリ云々ト語レリ

案スルニ国際河川協約ヲ東洋方面ニ及ボスハ客年御訓令ノ次第モ有之モ却テ帝国ニトリテハ侵入貿易権ノ利ヲ与ヘ有利ナルガ如ク考ヘラルル處右支那側ノ意見ニ対シテハ如何处置ス可キカ御見込御回示相成度シ

在白公使ヘ転電セリ

ズ依テ該會議ニ於テハ一方帝国万般ノ事情ハ自他船舶、国民、貨物ノ間又ハ對聯盟各國間ニ自由平等乃至機会均等ノ原則ヲ充分実行スルモ何等之ヲ妨ゲザルコト他方該原則ノ益々拡及セラルルコトガ國際平和維持ノ最捷径タルコトヲ顧念シ我ト利害ヲ一致スル國ト協力ノ上右兩原則実現方ニ付出来得ル丈ヶ御尽力相成度シ以下前記方針実現ノ為四協約案ニ關シ交通會議ニ於テ主張スペキ点電報スルニ付貴方ニ於テモ予メ充分御研究シ置カレタシ尚右四協約案以外該會議ニ提出スペキ事項ハ沿岸貿易ノ相互開放其ノ他目下關係方面ト協議中ニ付追て訓令スベシ

(一)専門機關ノ組織案第二条ニ關シ第一回聯盟總会ニ於テ理事会側以外ノ常設交通委員会ノ委員ノ數ハ確定セザルコトナリタルニ付テハ本条ヲ修正スル必要アリト思考ス

ルモ右ハ大勢ニ順応セラレ差支ナシ  
(二)同上案第八条及第九条ニ依レバ締約国ハ本件交通關係ノ條約案ニ付テモ國際労働條約案ノ例ニ準ジ全權委員未調印ノ儘之ガ批准ヲ為スヲ要スルモノト見ユルトコロ此ノ如ク從來ノ條約締結ノ慣例ニ背反スル例ヲ交通條約案ニモ及ボスコトハ國際労働條約案ノ如ク條約ノ明文アル場

六五一 二月二十四日 内田外務大臣 在白国安達公使宛(電報)

## バルセロナ交通会議ニ於テ四協約案ニ関シ主

張スベキ點訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣在白国安達公使宛電報第二七号

国際河川條約案第四条第二項案

第二六号

来三月「バルセロナ」ニ開カルベキ国際交通会議ハ国際聯盟規約第二十三条(註1)号前半ニ規定セル交通及通過ノ自由ヲ確保スベキ一般條約案等ヲ議決セントスルニ在リテ右會議

ガ相当ノ成果ヲ挙グベキヤ否ヤハ延ヒテ国際聯盟ノ効果如何ニ影響ヲ及ボスモノナルガ故ニ帝国ニ於テモ之ニ多大ノ希望ヲ囁スルトコロナリ然ルニ該會議ニ於テ審議セラルベキ主題ト看做スベキ所謂交通四協約案ナルモノノ内容ヲ仔細ニ検スルニ一般通商航海條約ニ依リ保障セラレタル交通及通過ノ自由ノ範囲以上ノ利便ヲ規定スルモノ殆ド絶無ナルノミナラズ稍モスレバ交通自由ノ原則ヲ貫カントスルヨリモ寧ロ利害關係國ノ主張ニ重キヲ置キ締約國民及貨物ニ

対スル保障ハ現行通商條約ノ規定ニ及バザルモノ少ナカラ

合ニスラ種々ノ議論アル今日此ノ際応諾シ難シ依テ第九条ハ国際保健協約案ノ例ヲ襲踏シ交通總会ニ於テ可決シタル條約案ハ聯盟理事会ノ承認ヲ経タル後聯盟事務総長ヲシテ之ニ調印ノタメ聯盟各國全權委員ヲ招請セシムベキ趣旨ニ修正セシメラレ度シ(一月二十二日附条一機密合送第一〇号参照)

(三)自由通過條約案第三二条ニ關シ大正八年本大臣在任大使宛電報講第一〇二号ノ(註2)以テ申進シタル次第モ有之通過税額ニ付テモ第二条末段ノ如キ平等待遇ノ保障ヲ明定シ置カレタシ

(四)同上案第十条(註3)ニ關シ第一項末段 in the absence 以下及第二項全部ヲ削除シタシ尤モ會議ノ大勢ニシテ之ヲ許サズバ第二項ノミヲ復活シテ現存ノ條約中万止ムヲ得ザルモノノミヲ列挙スルコトニ止ムル様御尽力アリタク茲ニ列挙セラルベキ各國ノ條約ニ付テハ予メ請訓相成度シ第一項末段ハ国際河川條約案第四条ニモ關係ヲ有シ又之ヲ存置スルトキハ自由通過條約案ノ価値ヲ非常ニ減少スルヲ以テ是非之ヲ削除シタシ

(五)国際河川條約案前文第二項ニ關シ万(四)ノ趣旨ヲ貫徹ス

ルコト得ズシテ自由通過条約案第十条ノ適用ヲ受ケ例  
ベ松花江ニ於テ愛輝条約トノ関係上所定ノ権利ヲ行使  
シ得ザルガ如キ事態ヲ發生スルノ虞無キニ非ザルノミナ  
ラズ種々疑義ノ余地ヲ生ズルニ付 without prejudice  
to the provisions contained in the Convention on  
Freedom of Transit ナル句ヲ削除セラレ度ク又国際河  
川ニ於ト transhipment ト為シタル後国内河川ニ航入ス  
ルコトハ差支ナキコト勿論ナルベキモ此ノ意味ヲ明白ニ  
スル為 without transhipment ノ次<sup>1</sup> in such water-  
ways ラ挿入シ積換禁止ハ内國河川内ノミ限定スルコ  
ト致シタシ

(内)同上案第一条ニ関シ支流ヲ別ノ河川ト看做ストキハ從来  
ノ国際慣例ニ違反シ且ツ例ヘバ松花江ノ如キモ国内河川  
トナルニ付其ノ天然的ニ遡上シ得ベキ部分ハ全部之ヲ国  
際河川トナスコト可然ト思惟セラルニ付テハ此ノ点ニ  
付精々御尽力相成度少クトヤ交通総会準備書類第六十七  
頁所載ノ英吉利及白耳義委員等ノ妥協案ヲ支持セラレタ  
シ

(註<sup>5</sup>)

(内)同上案第四条ヲ削除スルコトト致シ度シ若シ會議ノ大

勢之ヲ計サズバ末尾<sup>(註<sup>6</sup>)</sup>第十七条ノ趣旨ヲ明確ニスル為  
unless otherwise provided by the existing treaties  
with any third power ト附シ第一項トシテ別電ノ通り  
規定セシメラシ別電ノ趣旨ハ特殊国際河川ノ閉鎖ハ  
沿河国一致ノ同意アルヲ根本条件トセルモノナルニ付  
旦閉鎖セル後ニ於テモ其ノ内一国ガ開放ヲ欲セバ原則ニ  
立戾リ右開放ノ意図通告三ヶ月後ニハ自動的に開放セラ  
ルベキヲ規定セルモノナリ又明治二十九年日清通商條約  
締結ノ際支那委員ハ會議錄上ニ於テ将来露国ニ於テ同意  
スルトキハ松花江ヲ開放スルコト異議ナキコトヲ聲明セ  
ル沿革アルニ付該聲明ノ趣旨ニ從ヒ将来帝国ニ於テ黒松  
二江開放ニ付露國ノ同意ヲ取付ケ次第該兩河ハ自動的に  
開放セラルベキヲ明確ニシ置カントスルニ在リ

(八)同上案第十六条ニ関シ沿岸貿易ノ定義殊ニ沿岸貿易ト積  
換トノ関係ニ付交通総会準備書類第八十五頁ニ説明之レ  
アル處右ハ重大ナル事項ナル故條約本文中ニ規定シ置ク  
必要アリト認ム少クトモ途中積換ヲ為スモ外國ニ仕向ケ  
又ハ外國ヨリ仕向ケラル貨物ハ沿岸貿易ヲ構成セザル  
事 (日英通商航海條約第二十一一条第一、三項参照) 本条

## 第二項トシテ附記スルコトト致シ度シ

(九)同上案第十七条ニ関シ該条ガ余リ狭義ニ解セラレ沿岸貿  
易開放ヲ条約ヲ以テ許セルガ如キ場合ヲモ除外ベル趣旨  
ヲ明確ニスル為 such, for instance, as the abolition  
of all dues and charges ナル句ヲ削除シテ自由通過条  
約案第十一條ト同様ニ規定スルコトト致シ度シ

(十)国際鐵道條約案第四条第一項末尾<sup>(註<sup>6</sup>)</sup> subject to the  
above-mentioned principle of equality ト附記シ以  
テ輸出入品賃率ニ対シテセラ上記均等待遇ノ原則ヲ遵守ヘ  
シキ並規定シ置クロト致シ度シ

本電別電ト共ニ在英仏大使ニ為参考転電シ在伊及在米両大  
使ニ郵送アリタシ

註<sup>1</sup> 一月二十一日内田外務大臣發在英林大使在仏石井大使宛条  
一機密合送第一〇号 (交通協約案ノ批准問題ニ關スル条約  
局第一課作成ノ調書送付ノ件) 省略セリ

2 自由通過条約案第三条ハ通過税ニ関スル規定ナリ  
3 外務大臣宛第四四号ノ註三参照  
4 国際河川条約案第十条ニ付テハ前掲二月十七日安達公使発  
電

As regards waterways not defined as internation-  
al in virtue of the said Article, they further declare  
1. ベネヤロナ国際交通会議ニ關スル件 大田

their intention of being inspired by the same principle  
and of applying it as far as possible in each partic-  
ular case; it being understood, on the one hand,  
that henceforth, and without prejudice to the pro-  
visions contained in the Convention on Freedom of  
Transit, there shall be no discrimination whatever  
between the High Contracting Parties on account of  
the flag flown, as regards through traffic in imports  
and exports, without transhipment, and that, on the  
other hand, this paragraph does not preclude the  
establishment of public services for towage or other  
forms of traction carried on as monopolies.  
右文中 the said Article ルハ国際河川条約案第一条  
ラ指ス又文中 the same principle ルアルハ前文第一項ニ  
云フ国際聯盟規約第二十三条<sup>6</sup>号ニ基ク交通ノ自由ノ原則  
ヲ指ス

5 國際河川条約案第四条ニ付テハ前掲二月二十一日小幡公使宛  
条機密合送第一三号附屬書二参照

6 國際河川条約案第十七条ハ本条約ガ航行ノ自由ニ關シ本條  
約規定以上ノ便益ノ許与ヲ禁止スルモノニ非ザル旨ヲ規定  
セルガノナリ

7 國際河川条約案第十六条左ノ通  
This Convention does not in any way affect the  
right of carrying out the local transport of passengers  
and goods between ports situated under the sovereignty  
or authority of one and the same State.

# 11 ベルヤロナ国際交通会議ノ開スル件 大正11年6月11日

七八八

○自由通航条約案第十一條、自由通航、付自由通航条約規定  
以上ノ便益ヲ与フルハ差支無キ並（尤モ一切ノ締結國）均  
等ノ待遇ヲ与フルヲ要ス）ア規定ヤルモノナリ

## 9 國際鐵道条約案第四條第一項末尾左ノ通

This stipulation, however, must not be construed  
as either preventing the establishment of local tariffs  
on a different basis from import and export tariffs,  
or as affecting in any way the question of combined  
rail and sea tariffs.

## （元 ■）

11月11日田外務大臣就任由國公使宛電報第117號  
國際河川條約案第四條第一項

## 第117號

It is understood, however, even in cases where restriction on the free navigation of an international waterway is imposed under the reservation contained in the preceding paragraph, any of such co-riparian States or of such States represented on its International Commission may, at any time on three months' notice given to the other co-riparian States or to the said Commission, revoke its consent to such restriction,

## 扣11必數ナル資本電報ノ件

### 第111号

貴電第四四号ニ閱シ

（甲）各種ノ鐵道統計、付一九一〇年曆年末ノヤノハ間ニ合シ兼ヌルヲ以テ以卜一九一四年度及一九一九年度ノモノヲ

電報スベク國有鐵道ノ分（一九一四年度一九一九年度）私有ノ地方鐵道ノ分（同上）ノ順序ニテ数字ヲ排列セリ

〔鐵道線路（a）五、六八六哩 六、1101哩 1、四四五哩 11、1000哩 （b）七四一哩 八三三哩 五四哩 六〇哩

〔車輛數（a）11、411哩 1110輛 1151輛 五

1五輛 （b）六、四三四、四七九哩 九、7311、一九四哩 1、七八11哩 （c）四11、7011哩 五1、〇六七輛

三、九五11哩 六、五11長哩

〔運輸數量（a）五七、三1178、八六七哩 七七、11111、

〇五八哩 六、四三四、四七九哩 九、7311、一九四哩

（b）11、六1111、七四11、一一六人哩 七、九四11、六11

11、三九六人哩 三1111、八110、五1六人哩 七四六、

三1111、长1111人哩 （c）11、九八11、七九八、四八一哩

and thereafter the waterway in question shall be open to the vessels of all the High Contracting Parties in accordance with the principle of the freedom of navigation laid down in the present Convention.

大正11年11月11日 内田外務大臣より 在白国安達公使宛（電報）

## 回報ノ件

### 第110號

在仏大使發本大臣宛電報第1140号ニ関シ貴官ハ往電第一六号殊ニ同電ノ趣旨ニ依リ支那委員ト適宜御応酬相成度尚當方ニ於テヤ「ベルヤロナ」交通會議ニ於テ日支相争フガ如キハ可成避ケ度キ意向ナルヲ以テ曰下在支小幡公使ヲシテ黒龍江及松花江問題ニ付両國間ニ予メ了解ヲ成立セシムル為支那政府ト交渉ヲ開始セシメツツアリ

右在仏大使ニ転電アリタシ

大正11年11月11十八日 内田外務大臣より 在白国安達公使宛（電報）

## ベルヤロナ交通会議ニ於テ我國ノ交通状態報

八〇九円 (d) 5% - 7% 六 5% 四 8% (e) (地方  
鉄道ニ付テハ不明) (一九一四年十一月対一九二〇年九月)

(機関車二三割二) (軌条一六割八) (継目板一〇割〇)

(ボールト一二割五) (犬釘一六割一) (座鉄二〇割〇)

(信号機二三割三) (聯動機一九割一) (双動機一八割三)

(橋桁材料一八割九) (銑鉄一一割三) (銅線五割五) (枕

木二八割二) (チーク八割一) (鉄線一八割二) (米国産

松三一割八) (セメント一八割九) (f) 労銀ノ騰貴率(地

方鉄道ニ付テハ不明) (従事員総計) 一一四、九五八人

一六三、〇一三人(一人一ヶ月平均給料) 十九円〇〇 五

十二円〇六

(乙) 空中輸送ノ発達ニ関シ 我国ニ於テハ未タ業トシテ空中  
運送ヲ當メルモノナシ

(丙) 山東鉄道經營ノ現状ニ関シ

(1) 列車ノ現在ニ於ケル運転回数左ノ如シ

(定期旅客) 青島濟南間二往復 (定期混合) 青島濟南間一  
往復、坊子濟南間五往復、張店博山間四往復 (不定期貨物)

一九一四年独逸時代ノ運転回数左ノ如シ

青島濟南間一往復

(定期旅客) 青島濟南間二往復 (定期混合) 青島濟南間一  
往復、坊子濟南間五往復、張店博山間四往復 (不定期貨物)

一九一四年独逸時代ノ運転回数左ノ如シ

コト困難ナル場合ニハ少クモ決議又ハ勧告ノ形式ニ依リ之

ガ採択ヲ見ル様精々御尽力相成リタシ殊ニ右ノ中沿岸貿易  
相互の開放ノ如キハ仮ニ之ガ成立ノ見込ナキ場合ニ於テモ  
此ノ種會議ニ於テ帝国政府ノ態度ヲ宣明シ置クコト適當且  
必要ナルニ付會議ノ席ニテ発表方取計相成リタシ

(1) 相互的基礎ニ依リ沿岸貿易ヲ開放スルコト並ニ仮ニ右様  
条約案成立セザル場合ニモ沿岸貿易ニ関シ各國ガ留保シ  
得ベキ範囲ヲ成ルベク限定スペキ協定ノ成立ニ努ムルコ  
ト

(2) 船舶ノ噸數ニ関スル測度法及満載吃水線 (Load Line)

法ニ関シ各國ニ於テ其ノ標準ヲ同一ニセザル為被ル不利  
及不便ヲ救済スル目的ヲ以テ之ヲ國際的ニ統一スルノ措  
置ヲ講ズルコト

(3) 蘇士及巴奈馬運河ニ於テ適用シツツアル特殊ノ船舶噸數

測度法ヲモ國際的ニ統一セル一般測度法ニ依ラシムルコ  
ト

尚上記(2)及(3)ノ専門事項ニ付テハ安達書記官ニ於テモ余リ  
熟達シ居ラザル由ニ付朝岡等ヲシテ倫敦郵船支店ニ付我主  
張擁護ニ必要ナル材料ヲ準備セシメラレタク又満載吃水船

ト

(旅客急行及普通) 青島濟南間各一往復 (混合) 青島濟南  
間一往復、張店博山間二往復 (貨物) 青島坊子間四往復、  
坊子張店間六往復、張店濟南間三往復

(3) 海陸ノ連絡ニ付海上ニ於テハ日本内地方面トノ連絡ハ郵  
船、商船及原田汽船ニ依リ又滿州及上海方面トノ連絡ハ満  
鉄ノ大連青島上海航路及大連汽船航路ニ依リテ行ハル陸上  
ニ於テハ日支間ニ大正六年山東及津浦両線間ノ貨車互通ニ  
関スル仮協定締セラレシモ未ダ実施ニ至ラズ

(3) 貨客ノ運輸上日本人、支那人及其ノ他ノ外国人間ニ何等  
ノ区別的待遇ナシ

(丁) 自動車運送ノ発達ニ関シテハ追而電報スベシ

六五四 二月二十八日 内田外務大臣ヨリ  
在白国安達公使宛 (電報)

沿岸貿易ノ相互的開放、船舶噸數測度法ノ國際的統一等ニ關シバルセロナ交通会議ニ提案

方訓令ノ件

第三三号

往電第二十六号前文末尾ニ關シ帝国政府ノ意見トシテ左記

事項ヲ正式ニ會議ニ提出シ条約案トシテ之ヲ可決セシムル

レ

法ハ本邦ニ於テモ制定スルコトナリ目下議会繫属中ナリ  
本電為参考在仏英大使ニ転電シ伊、独、蘭大公使ニ郵送ア  
レ

六五五 三月一日 内田外務大臣ヨリ  
在白国安達公使宛 (電報)

バルセロナ交通会議ニ於ケル我方主張ノ重点

二付任國政府ノ諒解ヲ得ル様訓令ノ件

第三七号

往電第二六号(2)(4)及(4)並第三三号(1)ヲ以テ申進ジタル件ハ

「バルセロナ」交通會議關係事項中帝国政府ニ於テ最モ重  
ヲ置クトコロナルニ因リ交通會議ニ於テ右諸点ニ付責任國  
政府代表ノ支持ヲ得ル様予メ責任國政府ノ注意ヲ喚起シ置  
クノ措置ヲ採ラレ同時ニ右各項ニ對スル責任國政府ノ意見  
聞合ハセラレ其ノ結果回電アリタシ

本電大臣ノ訓令トシテ在英仏伊蘭西大公使ヘ転電アリタ  
シ

往電第二六号第二七号及第三三号ヲ在西公使ヘ第二六号及

第二七号ヲ在蘭公使ヘ転電アレ

六五六 三月三日

在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## 聯盟理事会ニ於テバルセロナ交通会議議長ガ

## 米国等ノ参加勧誘ノ為交通会議開催延期ヲ提

## 議ノ件

第三二二号

(三月五日接受)

当地西班牙大使ガ理事会ノ為催シタル晩餐会ニ來合セタル「バルセロナ」交通会議議長「アノトー」氏ハ理事会ニ計ルベキ緊急用件アルニ付時間ヲ与ヘラレタント請求シ昨二日早朝理事会ハ秘密会ヲ開キ「アノトー」氏ノ提議ヲ聞キタル處「ア」氏ハ「バルセロナ」會議ニ参列方先ニ米国及加奈陀ニ案内セル處米国ハ断り来リ加奈陀ハ未ダ回答ナキモ「ジエネヴァ」總会ニ於テ「ローウェル」氏ガ北美大陸ノコトハ歐州ノ干渉ヲ受クルヲ欲セズトノ談ニ微スルモ多分招集ニ応ゼザルベク墨西哥ニ対シテハ一日理事会ノ決議ニ依リ案内ヲ発セルモ到底間ニ合ハザルベク要スルニ貿易及航海上重要ナル北米全部ハ来ル會議ニ代表セラレザルコトトナルベク右ハ夫自身ニ於テ遺憾ナルノミナラズ「マンダ」問題ニ関スル米国ノ態度ニ参照スルモ此際米国及北米

## 政府代表ハ支持スル意向ナル旨談話ノ件

第六八号

(三月七日接受)

貴電第三七号ニ閲シ

白国政府代表者ニ談話シタルニ国際交通ニ関スル当国ノ根本方針ハ自由開放ニ在リ大体ニ於テ我主張ニ一致スルカ故ニ飽迄本邦ノ主張ヲ支持スヘキ考ナルカ専門委員等トモ協議ヲ為シ最後ノ決定ヲナシ「バルセロナ」ニ於テ本使ニ内告スヘシト答ヘタリ

在英、仏、伊各大使及在蘭、西各公使ニ転電セリ

六五八 三月十日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

中国代表ノ国際河川条約案第四条ニ関スル意  
向ニ關連シ我方ノ中国政府トノ交渉ノ狀況問

## 合ノ件

交通第五号 (三月十一日接受)

安達ヨリ

支那代表章祐度々來訪其懇談ニ依レハ今回ノ交通総会ニ際シ支那ハ最モ黒竜江問題ニ重キヲ置キ国際河川条約案第四条ノ存置ヲ絶対必要トスルノミナラス黒竜江ヲ本条約ノ適

用範囲ニ入ルルコトニ付テハ露国ノ現状混沌タル今日支那

ニ於テハ全然之ヲ後日ノ協定ニ留保スルノ外ナシト會議ノ席ニ於テ声明スル様訓令ヲ受ケ居ル由ナル處右ニ関シ北京政府トノ交渉如何相成リタリヤ折返シ御回電アリタシ

六五九 三月十日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

国際河川ヲ二百噸以上ノ船舶ノ航行ニ適スル  
水路ニ制限スル伊国案ハ我国ニ不利トナラザ

## ルヤ問合ノ件

交通第六号 (三月十一日接受)

安達ヨリ

国際河川タル要件ノ一トシテ伊太利ハ「ボー」川ノ関係上二百噸以上ノ船舶ノ航行ニ適スル水路ノミニ制限セントス希望ノ由(準備書類第六九頁六及七行参照)就テハ右希望実現セシムルトセハ黒竜江及松花江ノ航行上我国ニ不利ヲ來スコトナキヤ伊国トノ交渉上至急回電アリタシ尚吃水ニ依リテ帝国政府ヨリ何等カ主張セントセハ何程迄ノモノトスヘキヤ為参考併セテ回電ヲ請フ

一一 バルセロナ国際交通会議ニ關スル件 六五八 六五九

六六〇 三月十一日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

第一回交通総会ニ於テ英國代表ハ交通協約案  
ノ即刻調印ヲ希望セルガ協約調印ノ形式ニ闕  
スル我主張ノ貫徹シ得ザル際ノ態度ニ付請訓

ノ件

別電 同日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛

電報交通第八号

第一回総会ニ於ケル経過要領

交通第七号 (三月十二日接受)

一、今十日第一回総会ニ於ケル経過要領ハ別電交通第八号ニテ御承知ノ通ナル處右會議ノ席上英國代表ハ同國政府ニ於テ(不明)会會議ノ結果各國ノ同意ヲ得タル協約案ニ直チニ調印スル希望ヲ有シ居リ既ニ其為必要ナル全權ヲ受ケ居レルニ付各國代表モ之ニ贊同シ可成速ニ調印全權委任状ヲ本国政府ヨリ取付ケラレ度旨演述セリ

二、右英國代表ノ表明セル希望ハ單ニ本日ノ(不明)ニ於ケル演説中ノ一部トシテ述ベタルニ止リ各國政府ノ之ニ対スル態度ハ今直チニ察知スルコトヲ得ザルモ本件ハ其内会

議ノ問題トナルベシ  
三、本件ニ闕シテハ閣下発在白公使宛電報第二六号訓令中(二)ノ趣旨ニ依リ既ニ当地ニ於テ関係大国代表ト内交渉ヲ始メ居リ尚本件ガ愈々正式ニ討議ノ目的トナリタル場合ニハ右御訓令ノ趣旨ニ依リ本代表ニ於テ帝国政府ノ意見ヲ發表スル考ナリ

四、本代表ノ察スル所ニ依レバ本件ニシテ右御電訓ノ趣旨ヲ貫徹シ得ザル場合ニ於テ或ハ結局協約案ノ趣旨通りdraft conventionニ調印ヲ要スルコトナルヤモ知レザル處右ノ場合ニ於テハ本代表ハ結局我主張ノ貫徹シ得ザルヲ理由トシ調印ノ拒絶ヲ為スベキヤ若シ又場合ニ依ツテ大勢ニ順応シ調印ヲナスモ可ナリトノ見込ナレバ予メ右調印ノ為ニ必要ナル全權御委任状御下付方予メ御詮議置相成度(別電)

三月十一日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第八号

第一回交通総会ニ於ケル経過要領

交通第八号 (三月十三日接受)  
國際交通総会ハ三月十日「バルセロナ」市會議事堂ニ於テ開会午前ハ西班牙首相ノ兎変ニ対シ弔意ヲ表スル為議長スル意味ヲ述ベタリ今回ノ會議ニハ三十八ヶ國ノ代表者列席セリ將又會議ハ明日ヨリ直チニ午前午後二回開会四條約案其他ノ討議ヲ始ムルコトトナレリ

尚上記議長ノ演説及答辞安達副議長ノ出席セル九日ノ「アントー」方ニ催サレタル私的打合会ニ於テハ初メハ單ニ英仏伊三国ニ留ムベキコトニ議長ヨリ提議シタル際安達副議長ヨリ亞細亞ヨリ一ヶ国演説セシムベキヲ主張シ結局亞細亞及南米ヨリ一國ヲ認ムベキコトニ確定セラレタル處今十日ノ本會議ニ於テハ南米ノ代表者間ニ一致ヲ見ズ為ニ南米ニ於テハ數ヶ国ヲシテ演説セシメ外ニ白耳義ニモ演説セシメザルヲ得ザルニ至レ右ノ事情ナルニ付前記ノ如ク日本ガ亞細亞諸国ヲ取纏メテ代表的演説ヲナセルハ議場一種ノ惑ヲ惹キタルガ如ク議長及副議長並ニ白耳義代表トモ安達感ヲ惹キタルガ如ク議長及副議長並ニ白耳義代表トモ安達

「アントー」弔意ヲ述ベタル後直チニ休会シ正午再開在仏西班牙大使「キノネス」ノ歓迎ノ辭ニ次デ「アントー」ノ答辞アリ午後議長ノ開会演説ニ次ギ西、英、仏、「ウルゲー」、白、伊、日、智利、エッコ、伯刺西爾ノ各代表委員ヨリ答辞ヲ述ベタリ右ノ内本代表ハ予メ支那、波斯、印度ノ各代表ト協議ノ上亞細亞ヲ代表シテ總会ノ成功ヲ希望スル意味ヲ述ベタリ今回ノ會議ニハ三十八ヶ國ノ代表者列席セリ將又會議ハ明日ヨリ直チニ午前午後二回開会四條約案其他ノ討議ヲ始ムルコトトナレリ

六六一 三月十二日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)  
黒竜江問題ニ闕シ交通會議中國委員ノ意向ヲ  
通報及北京ニ於ケル中國側トノ交渉ノ成行問

合ノ件

第一二七号

黒竜江問題ニ闕スル支那側委員ノ意向ニ付今般在「バルセロナ」安達公使ヨリ別電ノ通申シ來リタル處帝国政府ニ於テハ一条一機密送第一三号ヲ以テ申シ進ジタル通り國際河川條約案第四条ノ無修正存置ニ異議アルノミナラズ黒竜江ニノミ世界ニ類似ナキ特例ヲ認ムルハ支那門戸開放ノ一般原則ニモ扞格スルモノト思考スルニ付支那委員ノ意見ニハ本件ニ関シ予メ日支間ニ満足ナル特別ノ協定成立セザル限り

絶対ニ応ジ難シ就テハ本件御交渉ノ成行至急御回電アリタ  
シ

註 別電第一二八号ハ前掲在バルセロナ松田代表委員三月十日発

内田外務大臣宛交通第五号ノ全文ナリ

六六二 三月十二日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

船舶ノ噸数測度法及滿載吃水線法ノ國際的統

一ヲ我方ガ交通会議ニ提案セントスル理由等

#### 問合ノ件

交通第一〇号

(三月十四日接受)

安達ヨリ

貴電第三三三号(1)ニ関シ御訓令ニ基キ倫敦郵船支店ニ資料蒐集方照会シタル処同社ニ於テハ右測度法及吃水線法ニ関スル各国ノ実況ヲ調査スルニ足ル資料持合セナキ旨ヲ申出テ且我国ハ「ロイド」ノ規定ト同一ノ標準ニ依ル測度法ヲ採用スルヲ以テ直接我国船舶トシテハ特ニ蒙ル不利不便ナキ旨回答アリタリ就テハ右測度及吃水線ノ標準ヲ國際的ニ統一スルハ因ヨリ各国共通ノ利益ナルヘキモ特ニ我国トシテ之ヲ主張ス可キ何等カ特殊ノ利益又ハ事情等アラハ予メ

心得置キ度キニ付折返シ御回電アリタシ尚現在「ロイド」規定ト異ナル標準ノ噸数及吃水線測定法ヲ実施スル国名及是等諸国ノ規定ト「ロイド」規定トノ差異ヲモ合セテ折返シ御回電アリタシ

六六三 三月十三日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

交通総会第三回及第四回ニ於テ總會議事方法ニ關シ幹部会

(一)先ツ議長「アノトー」ヨリ總會議事方法ニ關シ幹部会(Bureau)ノ起案ニ係ル左ノ諸項ヲ提議シ異議ナク可決スイ、總會ニ於テ先ツ諸問題ノ大綱ニ付討議ヲナシタル上其ノ詳細ナル審議ハ總會ヲ其儘全員委員会ノ資格トナシタル議場ニ於テ之ヲ行ヒ更ニ之ヲ總會ノ決議ニ附スルコトロ、議長ハ總會ノ議長トナリ各副議長ハ其ノ技能ニ応ジ当該全員委員会ノ議長トナル但シ分科会ハ自ラ其ノ議長ヲ選定スルコト

#### ノ件

交通第一一號

(三月十五日接受)

交通總会第三回及第四回三月十一日午前及午後開会

(二)次テ總會ハ巴里ニ於ケル組織委員ノ起草ニ係ル交通及通過總會並同常設委員会ノ組織案(聯盟準備書類原案ヲ「ゼネヴァ」總會ノ決議ト符合セシムル為修正セルモノ)ノ審議ニ入ル  
ハ、總會ハ各問題ニ付報告者及副報告者ヲ選挙スルコトニ、Final texts 起草ノ為起草委員ヲ(脱)委員ハ議長副議長當該報告者及必要ニ応ジ法律専門委員ヲ以テ組織スホ、議事日程ハ議事規則、組織案、諸種協約案即チ通過、河川、鉄道、港湾ノ順序トシ其間相当ノ時ニ運輸ニ関スル一般決議ヲ審査スルコト  
尚代表代理及専門委員ハ何レモ報告者トナリ得ルコト又總會ニ於ケル発言権ハ代表(専門委員ヲ含ム)ノミ之ヲ有スルモ總會之ヲ欲スルトキハ政府ノ任命セザル専門家モ亦發言シ得ルコトトセリ並修正案ハ書面ニテ予メ書記局ニ提出シ各代表ニ配布スルコトトセリ

(三)次テ總會ハ巴里ニ於ケル組織委員ノ起草ニ係ル交通及通過總會並同常設委員会ノ組織案(聯盟準備書類原案ヲ「ゼネヴァ」總會ノ決議ト符合セシムル為修正セルモノ)ノ審議ニ入ル

イ、第一条第三項専門委員ノ數 three experts especially

云々トアルヲ單ニ experts トナシ three 及 especially

ヲ削除ス

ロ、第一条第一項末段委員ノ數ヲ聯盟國ノ三分ノ一云々ト  
(註)

一 バルセロナ國際交通會議ニ關スル件 六六三

波蘭代表ヨリ第二条末項ノ前段中 may invite ト shall invite ト修正スペントノ案ハ採決ノ結果右ノ趣旨ニテ起草委員ニ附託ノコトニ決ス

ハ、第三条ハ之ヲ削除シ代リニ「ゼネヴァ」総会決議第二ヲ其ノ儘同条トシテ規定スペントノ英國代表ノ修正案ニ對シ仏國ノ留保意見アリ結局本件ハ次回ニ譲ルコトシ散会セリ

(三)前記第二条討議中端無ク提起セラレタル問題ニシテ参考トナルベキ要点左ノ通

イ、諮詢委員会ノ委員数ノ規定ニ関シ同委員会ノmember (脱)タルヲ要スルヤトノ質問ニ対シ議長ハ聯盟ノmember タルヲ要スト答へ又「エストニヤ」「ラトニヤ」「リツニアニヤ」「ジョルジヤ」ハ専門機関ノ事業ニ参与スル点ニ於テハ聯盟国ト同一ノ地位ニ取扱ハルベントノ「ゼネヴァ」総会ノ決議ノアルニ拘ラズ右委員会ノ委員タルヲ得ザルヤトノ質問並ニ「エストニヤ」代表ガ自國ノ票決権ノ有無ニ付議決ヲ迫リタルニ対シ議長ハ之等諸国ハ討議ニ参加スルヲ得ルハ勿論ナルモ少クトモ委員ノ數ヲ規定スル計算ノ基礎タル所謂 Members of League

居レリ

本件ニ関シ英國専門委員「ハアスト」ノ本會議ニ於ケル主張ニ依レハ英國政府ハ労働協約ニ所謂條約案ノ形式ハ全然之ヲ廢止シ今回ノ會議ニ依リテ議決セラレタルモノニ対シ各国委員ハ本国政府ヨリ調印ノ全權ヲ速ニ取寄セ調印ヲ為スヘク且調印ヲ為シ得サル國ノ為ニハ常設國際司法裁判所規約ノ例ニ依リ議定書ヲ作成シ置クヘシト主張セリ(英國外數ヶ國委員ハ既ニ調印ニ關シ全權委任ヲ所持シ居レリ)尤モ瑞西専門委員ニシテ当初ヨリ交通問題ニ關係セル知名ノ法学者「ワロトン」ノ内話ニ拠レハ聯盟総会ノ本件ニ関スル議決(聯盟出版議決集第十四頁(c)一ノ一) à élaborer トアルハ單ニ條約案ヲ本總会ニ於テ議決シ其ノ結果ヲ聯盟理事会ニ報告スヘキモノニシテ調印ヲ為シ若クハ調印ニ關スル形式ヲ本會議ニ於テ定ムルコトハ前記聯盟總会決議ノ予期セサル所ナルヲ以テ本會議ノ權限ヲ逸脱スルモノナリトノ見解ナリ

就テハ本件討議ノ起草委員会ノ構成ハ議長副議長幹事長ノ外多分「フロマジヨウ」「ハアスト」並本代表其他一二名ノ知名ノ法学者ヲ網羅スルコトトナルヘク從テ同会ニ於テ

中ニ算入スルコトヲ得ズト答ヘタリ  
尚往電第八号冒頭ニ交通總会第一回及第二回會議ト追加ス在英仏独伊各大使及在蘭白西各公使ヘ転電セリ

註 第二条第二項末段委員ノ數トアルハ交通及通過常設委員会ノ委員ノ數ナリ第二条ハ全部右常設委員会ノ組織ニ關スル規定ナリ

六六四 三月十四日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

#### 交通關係条約ノ調印手続ニ關スル我方提案ヲ

#### 交通總会ニ於テ審議シ起草委員会ニ附託ノ件

交通第一二号(至急)(三月十六日接受)  
三月十二日午後第六回會議ニ於テ組織條約案第九条ノ討議ニ際シ本代表ハ予テノ御訓令ニ基キ本條ヲ保健協約案ノ趣旨ニ訂正シタキヲ提議スルト同時ニ予テ英國委員其他トモ打合セノ上場合ニ依リテハ同一目的ヲ達スル為常設國際司法裁判所規約調印ノ例ニ依リ一定ノ調印期間ヲ定ムルコトニ譲歩スヘキ旨ヲ述ヘタル結果本件ハ大多数ヲ以テ起草委員会ニ附議セラレタルニ付多分十六七日頃同委員会ニ於テ慎重ニ審議ヲ尽シ其ノ結果ヲ總会ニ報告スル順序トナリ

ハ先以テ帝國ノ主張トシテ保健協約案ノ例ヲ採用スヘキコトヲ主張シ若シ容レラレサレハ反対ノ御訓令ナキ限り司法裁判所規約議定書ノ例ニ折合フ積ナリ  
在仏大使ヘ転電セリ

六六五 三月十四日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

#### 交通會議伊國委員提出ノ國際河川ノ定義ノ修

#### 正案ニ付請訓ノ件

交通第一三号(三月十六日接受)

往電第六号ニ關シ伊國委員ハ會議ニ於テ正式ニ國際河川協約案第一条修正案ヲ提出セルガ右ニ依レバ國際河川タルノ要件ニ追加スルニ一年ヲ通ジ百五十日以上ニ亘リ二百噸以上ノ船舶ガ一箇ノ動力ニ依リ海ヨリ遡リテ航行シ得ルモノタルニ限ラントスルニアリ右ハ前電申進メタル外可航日數ノ要件並ニ曳船ニ由リ航行スル河川ヲ排除セントスルモノニシテ同時ニ国内河川ニ就テモ協約前文ノ精神ヲ適用スルモノニ付テハ同一ノ要件ヲ必要トスル主旨ニ出デタルモノナルガ之ニ對スル政府御意見至急御回電請フ

六六六 三月十五日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### 交通総会第五回会議ニ於テ交通及通過ノ総会

#### 並常設委員会組織案第三条ヨリ第六条迄討議

ノ件

交通第一四号

(三月十七日接受)

三月十二日午前交通総会第五回会議開会

前回ニ引続キ組織案第三条ノ討議ニ入ル

(一) 仏国代表ハ前回英國代表提出ノ修正案ハ該委員会ニ一種ノ權限ヲ与フルモノニシテ此ノ如キ修正ハ各國ノ任務(不明)シムルコトナル故各國ノ批准ヲ要スル協約中ニ規定スペキモノニシテ單ニ本會議ノ決議ニ過ギザル議事規則中ニ規定スペキモノニ非ズ之レ仏国ノ留保セザルヲ得ザル所ナリト説明シ又第四条ニ對スル英國代表ノ修正案モ他ノ數個ノ修正案ト共ニ頗ル「テリケート」ニシテ議事遷延ノ虞アルニ付之ヲ修正委員ニ附託センコトヲ提議シ且仏国代表ハ第四条ノ如キ議論多キ条項ハ該規則中ヨリ削除シ之ヲ常設國際裁判所ニ委ネテ可ナリト主張シ議長ハ第三条及第四条ヲ小委員会ニ附託センコトヲ提議シ其委員トシテ副議委員ニ指定シ散会セリ

在仏大使ヘ転電セリ

六六七 三月十六日 内田外務大臣ヨリ  
在バルセロナ松田代表委員宛(電報)

交通會議ニ於テ可決ノ條約案調印手續問題ニ  
關シ問合ノ件

第二号

貴電第七号(四)ニ関シ

往電第二十六号(二)ノ趣旨ハ要スルニ未調印ノ條約案ニ関シ直ニ批准ノ手続ヲ執ルコトハ從來ノ條約締結ノ慣例ニ反スルヲ以テ何等カノ方法ヲ以テ此ノ点ヲ救濟シ調印後批准ノ

手続ニ出テ度キ當方ノ意向ニシテ必シモ國際保健協約案

一一 バルセロナ國際交通會議ニ關スル件 六六七 六六八

長「ラウドン」並ニ英、仏、日本、白耳義、波蘭各代表都合五名ヲ指名シ之ニ英、仏、伊、葡萄牙等提出ノ修正案ノ攻究ヲ附託スルコトニ決ス

(二) 第五条ハ英國代表ノ委員附託説ニ對シ伊国代表及勃牙利代表等ノ修正案提議アリ更ニ和蘭代表ノ委員附託賛成アリ又伯刺西爾代表ヨリ前記小委員会中ニ南米ハ全ク代表セラレ居ラザルヲ指摘シ南米ヨリモ委員ヲ出サンコトヲ主張シ結局第五条ハ第三条及第四条ト共ニ前記小委員会中ニ更ニ伯刺西爾ヲ加ヘ都合七名トナシタル小委員会ニ附託スルコトニ決ス

(三) 第六条第一項末段 and will deliberate 以下ハ不必要且ヨウケンニ付之ヲ削除スヘシトノ英國代表ノ提案通過ス同上第一項總会日程送達期間 Three months ハ遠隔ノ國ニ取り不足ニ付之ヲ in sufficient time ト修正シ之ヲ第六条ヨリ第七条中ニ移スペシトノ英國代表提案可決ス同条末項ハ無意味ニ付削除スペシトノ英國代表ノ修正案ニ對シ「チエックスロバキア」及「ユーロスラブ」代表ノ原案維持説及白伊両国代表其他議長ノ削除説等紛糾シ議長ノ委員附託説ト決セラレ更ニ白國代表ヨリ總会召集方ニ就キ

ノ例ヲ踏襲セムコトヲ固執スルモノニアラザルニ付關係各國ニ於テ今回ノ交通會議ニ於テ議定シタル條約案ヲ其ノ儘約トシテ調印スルコトヲ可トスルニ決セバ貴官ニ對シ一般國際會議條約調印ノ例ニ準ジ全權委任状ヲ下付スルコト敢テ異議ナキモ三分ノ二ニテ可決シタルモノハ其ノ贊否ニ拘ラズ帝國全權ニ於テ調印スルヲ要スルガ如キ仕組ナラバ同意シ難シ尤モ右ノ如ク採用セラレタル條約案ヲ直ニ條約トシテ調印スルトキハ交通機関ノ組織ニ関スル一般規則案第八条(b)ニモ予見シ聯盟總会ノ承認セル五月十九日羅馬聯盟理事会ノ決議ニ依ル理事会ノ支配權ヲ行使スルノ機會ナキコトトナリ聯盟附屬専門會議ノ性質ニ扞格スルコトナルベシト思考セラルルトコロ右ハ主義上差支ナキ次第ナリヤ本点先づ研究ノ上回電アリタシ

六六八 三月十六日 在中国小幡公使ヨリ

バルセロナ交通會議ノ議題タル國際河川案  
案第四条ノ削除又ハ修正方ニ付外交次長ニ交渉ノ件

八〇一

(三月十七日接受)

貴信条一機密送第二三号御訓令執行方意外ニ遲延誠ニ申記  
無キ次第ノ処実ハ本件大部ノ書類涉獵ノ為相当日数ヲ失シ  
若クハ顔總長病氣等ノ為会見スルヲ得ズ遲延セル次第切ニ

御諒察ヲ乞フ顔總長ハ尚病氣ニ付三月十六日次長ニ面会御  
来訓ノ趣旨詳細ニ説明第一ニ第四条撤回方ヲ要求シ万ー右

承認不可能ノ場合ニハ第二我修正添加ノ案ニ同意ヲ求メタル  
處次長ハ早速交通部ト協議ノ上兩三日中ニ回答ニ及ブベ

シト答ヘ愛暉條約ノ効力存続スル間ハ支那トシテハ黒竜、  
松花両河川ノ開放ヲ實行スルヲ得ズト述ベタルガ故ニ本使

ハ愛暉條約ノ存続スルガ故ニ第四条ヲ撤回シ現状ノ儘ニ置  
キ他日露國ニ正当政府ノ實現シタル後協定ヲ遂ゲ得ベキヲ  
以テ差當リ本条ヲ決定シ置クノ必要無ク兎モ角第四条ノ撤  
回ハ愛暉條約ト何等關係無キ筋合ナル事ヲ縷述シ置ケリ  
之ヲ要スルニ支那政府特ニ交通當局ハ予テヨリ我船舶ノ黒  
竜、松花江溯航ニ甚深ノ注意ヲ払ヒ既ニ度々抗議ヲ提出シ  
來レル事實ニ顧ミ支那政府ガ第四条挿入ヲ提議セルハ充分  
深キ考慮ト鞏固ナル決心ヲ以テ為シタルモノト認メラル  
ガ故ニ第四条ノ撤回ハ勿論我修正ニモ同意スマジト察セラ  
ル兎モ角先方回答暫時御待ヲ乞フ

### ルニ依リ同時討議セラル

先づ本代表ハ條約案ナル形式ハ批准ニ關シ困難ヲ感ズル國  
アルベキ事並本法改正案ノ形式ハ保健協約案ニ付聯盟總會  
ニ於テ既ニ採用セラレタルモノナル事ヲ説明シ条文ノ文句  
如何様ニテモ可ナレドモ我改正案ノ趣旨ニ合致スル様改正  
アリタク之ガ為ニハ常設司法裁判所協約ニ於ケル形式ハ好  
箇ノ一例タルベキ事ヲ指摘シ安達副議長ハ「ゼネバ」ニ於  
テ右裁判所協約ノ起草者タリシ關係上更ニ之ヲ敷衍説明シ  
次テ英國専門委員 Sir Cecil Hurst ハ條約案ナル形式ハ勞  
働總會ニ於ケル特殊事情ニ鑑ミ講和條約第四〇五条ニ於テ  
初メテ作成セシ新形式ニシテ右特種事情無キ本總會ニ適用  
スベキ理由ナキノミナラズ右形式ハ會議ノ決定ヲ最終的ノ  
モノト為シ得ザル困難アリ又批准ニハ國際法上一定ノ意義  
アリ之等ヲ考慮シ右形式ハ今回ノ總會ニ於テ廢止スベキモ  
ノニシテ本邦ノ提案ハ前記困難ヲ排除スル上ニ於テ極メテ  
妥当ナルモノ故英國委員等ハ同種改正案ノ字句ニ拘泥セザ  
ルベキ旨ヲ述ブ右ニ対シ葡萄牙委員ハ仏國委員ノ支持ヲ得  
テ條約案ナル新形式ハ元事務簡捷ノ精神ニ基クモノニシテ  
該精神ハ大ニ鼓吹スベキモノナルガ右形式ニ伴フ實際上ノ

### 交通總會第七回會議ニ於テ交通及通過ノ總會 並常設委員會ノ組織案第六条ヨリ第十一條迄

#### 別電 同日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通 ヲ審議ノ件

右組織案第六条第七条第九条第十条修正案  
第一七号

#### 交通第一六号

(二月十八日接受)

十二日午後第六回會議開催左ノ通組織協約案ヲ討議ス

一、第六条 起草委員等ヨリ本条末項ノ字句ヲ別電交通第  
一七号(註1)ノ通ト為スベキ提報告アリ全会一致之ヲ可決ス

二、第七条 英國委員ヨリ第一項ヲ別電(註2)ト改メ第三項  
included 以下ヲ reported to the Council with a view  
to inclusion in the agenda of a future Conference ト  
改ムベキ提案アリ形式ノ問題故別段表決ヲ採ラズ通過ス

三、第八条及第九条 (註3) 會議前英國委員ヨリ第八条ニ付(註4)  
of an international convention ト改ムベキ提案シ本代  
表亦予テ其御訓令ニ基キ第九条1920 ム chairman トノ間  
ニ別電(註5)ノ通挿入方提案シ置キタルガ右ハ緊切ナル關係ア  
リ通過セリ

更ニ本条末段ニ關シ伊國委員ハ聯盟員ノ真ノ多數ヲ保証ス  
ル為メ更ニ “but in order for the vote to be valid the  
presence of two-thirds of the members is necessary”  
ナル字句ノ留保ヲ提議シ瑞西委員ノ質問アリタル為緊要ナ  
ラザル決定ラナスニ当リ不必要ニ制限ヲ加フル虞ナカラシ  
ムル為三分ノ二ヲ半數ヨリモ一票多キ數タル “one half  
plus one” ト改メタリ右ニ対シ瑞西及葡萄牙委員ヨリ多數  
決ノ意義ハ聯盟總會ニ於テ既ニ決定セル事項ナリトノ反対  
アリタルノミナラズ英國委員ハ列席聯盟員數ニ付此ノ如キ  
制限ヲ設クル時ハ会場ヨリ遠隔ノ地ニ在ル聯盟員ノ損スル

六六九 三月十六日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

関係上実行不可能な結果を生ずべきを以テ多数の関スル制限ハ事実会場ニ於テ投票ヲナスモノ付加フキヤノナリト主張シ結局伊国委員ハ其改正案ヲ“however for the vote to be valid one half of the members present at the Conference plus one must partake”と修正ハ且議長より多數決リ開スル聯盟総会ハ決定ハ单一（不明）関係ノ決定ノミリ開スルモノ故其他ニ就テハ討議ノ余地アリトノ説明アリ同案通過ス

（註<sup>o</sup>） 第十一条 英国委員ハ一部集会ノ精神ニ反対ヤタルモノハ字句ニテハ全会一致ヲ得ベキ必要有リ実行不可能ナルヲ以テ本条ハ全部之ヲ削除スベシト主張シ之ニ対シ「チャーロ・スロバキア」委員ハ（不明）地域ニ開スル事項ニ就テハ一部集会ハ極メテ緊要ナルモノ故字句ノ修正ヲナシタル上本条ヲ存置スベシルナシ總局智利委員ノ修正通

“partial meeting of the Conference”と“partial Conference”と改メ且ツ本条末段“on the unanimous vote”以テヲ削除シテ本条ヲ存置スルモノハ決ベ追テ討議ノ原案ハ「ヤネバ」聯盟総会ノ決議ニ基キ準備書記載ノ協約案ニ変更ヲ加ヘタルモノナリ右変更ノ重要点ハ

別<sup>o</sup>電報ヘ  
在仏大使へ転電セリ

在仏大使へ転電セリ

註一 第六条ハ交通会議召集ニ關スル規定ナリ  
註二 第七条ハ交通会議ノ議題ニ關スル規定ナリ  
註三 第十八条ハ交通会議ノ決定ヲ（註）聯盟各國ニ依リ批准ヤハルベキ a draft international convention又ハ（註）國際聯盟總會附議ヤハルベキ決議案ノ何シカノ形式ハベルモノト規定ベ

4 第九条左ノ通  
Within a period of one year after the adoption by the Conference of a Draft Convention or of a Recommendation, subject to the rights of control of the Council and of the Assembly of the League as defined in the Resolution of the Council, dated 19th May, 1920, the Chairman of the Permanent Committee shall invite all the Members of the League to notify the Secretary-General on the measures taken by them as a result of such adoption.

5 第十条末段ハ議決ニ必要ナル票数ニ關スル規定  
6 第十一条ハ國際聯盟國ノ一部分ニ依ル交通會議開催ニ關スル規定  
（註） 11月十六日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第十七号  
交通及通過ノ総会並常設委員会ノ組織案第六条第七条第九条第

#### 十條修正案

交通第十七号 別電

（註）第十八号（註）

1. The Conference expresses the wish to see the Assembly in its next session modify the resolution of December, 1920, in such a way that a Conference on Transit and Communications shall be called together *ex officio* at the request of one-third of its members.

2. Subject to the provisions of the resolution adopted by the Assembly of the League of Nations on 8th December, 1920, on the relations between Technical Organizations and the Council and the Assembly of the League, any additional question which the Conference decides by the unanimous vote of the representatives present to examine forthwith shall thereupon be included in the agenda.

3. The draft convention shall be submitted to the Council of the League of Nations who shall invite through the Secretary-General each of the inter-

ested Governments proceed to the signature by their plenipotentiaries and as regards the recommendation.

4. In case in which the Council of the League of Nations have not appointed a Chairman, the Conference shall elect its own Chairman.

Matsuda.

長門 11月十七日 在バルヤロナ松田代表委員会（電報）

校讎公認忠臣蔵撰ノ國際河川タル類生

#### 第四号

交通第六号及第十一号（註）

（註）國際河川タル要件ニ付テハ在白安達公使宛往電第116号ノ又ノ通り成ルベク其ノ範囲ヲ拡張スルモノト取定メハノ度キヤ伊国案ノ主義ニ依リ纏ル見込ナルニ於テハ伊国案中11項廟ニ在ルヲ吃水一「マー」半以上ノ船舶が航行シ得ルヤハト改メ且ツ「1箇ノ動力ニ依リ海モリ迺リ」云々ハ削除シタル上之ノ同意シ差支ナシ  
右後段ニ関シテハ河口又ハ河川ノ途中ニ於テ吃水深キ船舶モリ吃水浅キ船舶ニ積換ヲ要シ又時ニシテ曳船ノ必要アル

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 六七一 六七二

八〇六

場合ヲ予想セルモノナリ（在白安達公使宛往電第二十六号ノハ参照）尤モ百五十日以内云々ノ制限ハ大シテ反対ナシ（二）二百噸以上ノ船舶ハ黒竜江ニ於テハ「スレテンスク」ニ至リ得ルモ松花江ニ於テハ「ハラル賓」ニ迄遡リ得ルニ過ギズ吃水二「フィート」以上ノ船舶ニ付テモ同様ナリ然ルニ日露密約ニ依ルモ日本ハ吉林迄ノ航行権ヲ有スルニ付二百噸案ヲ変ジ吃水ノ制限ヲ一「フィート」半ト改メ度ク又黒竜江ニハ満水期ニ於テスラ航洋船ハ吃水十呎内外噸數千噸位ノモノニ限り「ハバロフスク」迄遡上シ得ルコトトナリ居ルモ事実上ハ「ニコラエウスク」ノ上流僅カノ地迄遡航スルニ過キサルニ付積換ヲ許スコトヲ明確ニシ置クコト必要ナリ（在白安達公使宛往電第二六号ノハ参照）

六七一 三月十七日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

中国ノ黒竜江松花江閉鎖ノ主張ニ對スル仏國

ノ態度ニ付仏國公使館書記官ノ談話報告ノ件

第二二三三号 往電第二二二号ニ關シ三月十六日仏國公使館ニ於ケル宴会

ノ節本使ヨリ「レヂエー」ニ對シ由來支那ニ於テハ揚子江

右御参考迄

六七二 三月十七日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

バルセロナ交通會議ニ於ケル我方主張ノ重點

二付仏國政府ノ意見問合ノ件

第四〇三号 在白公使宛貴電第三七号ニ關シ十二日仏國政府ニ申入レタ

（三月十九日接受）

（三月十七日接受）

（三月十九日接受）

ル處十七日同國聯盟局長ハ条約案批准ノ形式問題ニ關シテハ全ク我レト所見ヲ同ジクスルモ他ノ諸点ニ關シテハ相互主義ニ非ザレバ承諾シ難ク「バルセロナ」仏國代表者ヘハ右ノ趣旨ヲ以テ明十八日訓令ヲ与フル答ナリト答ヘタリ「バルセロナ」ヘ轉電了

六七三 三月十八日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

交通總会第七回及第八回本會議ニ於テ自由通

過協約案ノ一般討議ノ件

交通第一八号 （三月二十日接受）

第七回及第八回本會議十四日開会自由通過協約案ノ一般討議ヲ為ス会議ノ劈頭總会ノ副議長「ルードン」（Loudon）ヨリ協約案ノ全般ニ亘ル説明ヲ為シ次テ支那、智利、「チエック、スロバキヤ」、洪牙利、仏蘭西、白耳義、波斯、塞爾比亞、印度、「コロンビヤ」、瑞典、羅馬尼、「ラトビヤ」、壞地利、「フィンランド」、丁抹、「エストニア」及「ブルガリヤ」ノ順序ニテ各國委員ヨリ夫々通過自由ノ必要並通過問題ト自國トノ密接ナル關係ヲ述ベ本代表ハ本案ニ付特ニ一般的ニ提議スベキモノナク且既ニ第一回本會議ニ於テ

一一 バルセロナ国際交通會議ニ關スル件 六七三

（白耳義）本協約案ハ被通過國ノ權利擁護規定不充分ナリ

ト云フ

(塞爾比亞) 性質上世界的ナル本協約案ノ討議ニ参加セザル国アルヲ遺憾トス

(印度) 仏領及蘭領殖民地ト印度トノ交通ニ闕シ自由通過ニ制限ヲ加フヘキ事情アリ(理由ハ後日述ブル由)

(ラトビア) 同国ハ荒廃地方ノ特例ヲ適用セラルベキモノナリト云フ

在仏大使ニ転電セリ

六七四 三月十八日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議第一回全員委員会ニ於ケ  
ル自由通過協約案討議ノ状況報告ノ件

交通第一九号 (三月二十日接受)

十五日午前「ルーラン」議長ノ下ニ自由通過協約案全員委員会第一回ヲ開キ討議準備ノ関係上前文ノ討議ヲ後廻シトシ第一条ヨリ討議ヲ始ム概要左ノ通

一、仏国委員ハ客年馬徳里郵便会議ノ協定ト衝突ヲ避クル為 mail and postal parcels ナル文字ノ削除方ヲ提議ス右ニ対シ瑞西委員ハ「マ」府協定ハ一部のモノ故右文句ヲ削除セバ此種物品ニ対スル自由(脱)アリトノ理由ニテ反

シ尚議論ノ末結局仏国委員ノ妥協的提案タル事態変更ヲ生スヘキ breaking bulk ヲ除外スルノ意味ヲ議事録ニ記入スルコトニ印度委員モ賛成ス

五、右ノ外会議ノ劈頭支那委員ハ距離遠隔ノ為原案以外即チ各種改正案ニ付本国政府ノ訓令ヲ仰ク暇ナキ故右改正案ニ基ク決議ニ対シ同国政府ハ当然批准ノ義務ヲ負フモノト解シ得サル旨ヲ声明セリ又英國委員其他ヨリ用語ノ修正ニ關スル提案アリシカ議長ハ此種提案ハ直ニ起草委員会ニ掛クヘキ旨宣言ス

在仏大使ヘ転電セリ

六七五 三月十九日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

国際河川協約案第四条削除問題ニ闕スル我方

ノ意向電報ノ件

第一三九号

貴電第二二二号ニ闕シ

(一) 貴電中段第四条ノ撤回ハ愛暉条約ト何等ノ関係ナキ筋合ナリト支那側ニ説明セラレタルニ関シ右ハ貴見ノ如ク支那ニ於テ第四条ヲ削除セル国際河川協約ヲ批准スルモノ今後露

對ヲ唱ヘ葡萄牙委員ハ第十条ト関係スルモノ故同条ノ討議迄本件ノ討議ヲ延期スヘシト主張シタルモ結局大多数ノ贊成アリ削除ハ「マ」府會議ノ事業ト牴触スルヲ避ケル為ニシテ之カ為本品ニ対スル通過自由ノ保障ヲ失フモノニアラサルコトヲ議事録ニ明記スルコトヲ承諾ス

二、仏英両文ノ差異ヨリ生スル疑義ヲ除ク為 territoriesノ次ニ and territorial waters ナル文字ヲ附加セントスル伊国委員提案ニ対シ英國委員ハ事極メテ「デリケート」ニシテ且重大問題故右ニ付分科会ヲ構成アリタシト述ヘ米国委員モ賛成ノ結果英、仏、伊、智利、希臘ニテ之ヲ作ル三、仏国委員ハ baggage ガ一般貨物ト特異ノ性質ヲ有スルニ鑑 persons ノ次ニ特ニ右文字ヲ加フヘキコトヲ提議シ全員ノ賛同ヲ得

四、印度委員ヨリ通過ノ際交通方法ノ変更アル場合breaking bulk ヲ許スコト妥当ト認ムル故 or change トアルヲ due to change ト改ムヘキコトヲ提議シ希臘委員ハ交通方法ニ変更ナキ場合ニ於テモ breaking bulk ヲ許ス場合アルニ依リ此ノ如キ制限的字句ノ使用ヲ不可トスル旨反対

国ニ於テ愛暉条約ヲ楯トシ之ガ開放ニ反対スル限り該協約ヲ黒竜江及松花江ニ適用シ得ザル次第ナルハ明カナルモ右ニ付支那ニ於テ必要ナリト思考セバ交通会議ニ於テ第四条削除ノ際議事録等ニ依リ本点ヲ明確ニシ置クコト差支ナカルベシ尤モ帝国ニ於テハ今後適當ノ時機ニ露國ヲシテ国際河川協約ニ加入セシムルカ又ハ支那トノ間ニ於ケル愛暉条約ヲ修正スベキコトヲ同意セシメ以テ黒竜江等開放ノ目的ヲ達シ度キ意向ナルニ付右将来ニ於ケル帝国ノ立場ニ障害ヲ來タサザル程度ニ説明シ置カレタシ

(二) 尤モ前記方法ニ依リ露國ガ黒竜江等ヲ開放セムトスル場合ニ支那ニ於テ異議ヲ唱フルヲ得ザル義務アルハ一条一機密送第二十三号所載ノ通ニ有之而シテ右ハ支那ノ負ヘル義務ハ国際河川協約ニ参加スルト否トニ拘ラズ日本トノ条約締結當時ノ議事録ニ依リ決定セルモノニ付本点ハ支那ニ於テ国際河川協約ニ参加スルト否トニ依リ何等ノ変更アルニ非ズ然ルニ之ニ反シ支那ニ於テ飽ク迄第四条挿入ヲ固守シ以テ永ク黒松兩河ノ開放ヲ絶対ニ不可能ナラシムルハ前記日本ニ対シテ負ヘル條約上ノ義務ニ違反スルモノト言ハザルヲ得ズ以上為念

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 六七六

八一〇

六七六 三月十九日

内田外務大臣ヨリ

在バルセロナ松田代表委員宛(電報)

商船ノ積量及吃水線ニ関スル規則ノ国際的統

一ノ必要ナル事情ヲ電報シ交通会議ニ本件我

方提案ノ方式ニ付訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣発松田代表委員宛第九号

同右本邦側提案ノ方式

第八号

貴電第一〇号ニ関シ

(一) 安達公使宛往電第三三三号(二) 商船ノ積量及吃水線ニ関スル規定統一ノ必要ナルコトハ夙ニ各國ニ於テ認ムルトコロニシテ從來屢々万国議院商事會議(客年春巴里開催同會議決議第五参照)其ノ他ノ国際會議ノ問題トナリ殊ニ後者ニ関シテハ一九一三年英國主張ノ下ニ国際會議ノ開催ニ付各國ヲ招請シタル等ノコトアリシモ歐州大陸諸國ニ於テハ英國ト其ノ法系ヲ異ニシ居ル為容易ニ之ガ実現ヲ見ルニ至ラズ之ガ為現今各國ニ於テハ相互ノ間ニ互認ノ取極ヲ為シ以テ當該國法ニ基キ積量及吃水線ノ改定ヲ為スヲ免除スルコトトナリ居ルヲ常トスルモ右様取極ハ必ズシモ容易ニ成立ス

(二) 帝国ニ於テハ大正三年法律第三十四号改正船舶積量測度法及安達公使宛往電第二二九号報告船舶滿載吃水線法ニ由リ何レモ英國法ニ準拠シ居リ前者ニ付テハ既ニ英國等トノ間ニ積量互認ノ取極成立シ後者ニ付テハ本年十月頃之ガ実施ヲ見ルベキニ付実施ヲ俟テ英國等トノ間ニ互認ノ交渉リ居レリト思考ス

(三) 以上ノ如ク積量吃水線ニ関シ之レガ統一ヲ計ルノ必要ハ主トシテ英國法系ト大陸法系トノ差異ニ基クモノナルニ付本件我提案ノ目的ヲ貫徹スル為メニハ先以テ英國ト充分隔意ナキ協議ヲ遂ゲ右我提案ノ為前記英國トノ互認取極ノ成立ニ付幾分タリトモ支障ヲ生ゼザラシムコト必要ナルトヲ開始スル積リナリ

第九号 別電

同時ニ本交通会議ニ於テ直ニ之ガ統一ニ関スル條約案ヲ議スルコトハ専門委員ノ欠乏其ノ他ノ為メ甚ダ至難ナルベシト思考セラルルニ付関係省トモ協議ノ上別電第九号方針ノ如ク本件ハ之ヲ交通諮詢委員会ニ附議シ該委員会ニ於テ各國ヨリ専門家ヲ集メ之ガ実現ニ付充分研究セシムル趣旨ヲ決議案等ノ形式ニテ交通会議ニ提案スルコト可ナルコトニ意見一致セリ而シテ右決議案等ト雖モ會議ヲシテ容レシムル為ニハ前記英國委員ト充份協議ノ上英國委員主トシテ之ガ説明ノ任ニ当ルコトヲ引受クルニ非ザレバ到底通過困難ナリト思考スルニ付右御含ミノ上先以テ英國委員ト充份協議相成リ英國委員ヨリ之ヲ提案セシムルコトニ御協議相成タシ尚前記往電第三三三号(三) 巴奈馬、蘇士両運河積量統一ノ件モ該諮詢委員会ノ研究題目ニ包含セラレ差支ナシ

本電別電ト共ニ為参考在英、仏、伊、独、蘭右大公使ヘ転電アレ

(別電)

三月十九日内田外務大臣発松田代表委員宛電報第九号

商船ノ積量及吃水線ニ関スル規則ノ国際的統一ニ付交通会議ニ

本邦側提案ノ方式

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 六七七

八一一

六七七 三月十九日

内田外務大臣ヨリ

在中国小幡公使宛(電報)

松花江航行権問題ニ関スル中國側ノ意向ニ付

在ハルビン石坂陸軍中將ヨリノ情報通報ノ件

第一四一号

極秘

松花江航行権問題ニ関シ左記在哈爾賓石坂中將ヨリノ情報何等御参考迄ニ電報ス

在同地支那海軍司令王崇文ノ談話ニ依レバ(一) 本件問題ニ付

テハ同司令ニ於テ直接関係シ居ラザルモ目下交通部ニ於テ研究中ナル由<sup>(1)</sup>支那商民一般ノ意嚮ハ外国船ノ航行ヲ禁ジ

支那船舶ニ対シテハ總テ之ヲ許スコトヲ希望シ居レルモ支那政府ニ於テハ戊通公司ヲ官営トシ同公司以外ノ船舶ノ航行ヲ禁ズル意図ヲ有スルモノノ如シ<sup>(2)</sup>愛憲条約ニ依リ露国

船舶モ松花江ヲ航行シ得ルコトナリタレドモ右ハ露国ノ横暴ナル時代ニ勝手ナル條約ヲ定メタルモノナルヲ以テ之ヲ取消スニ至ルヤモ計ラレズ<sup>(4)</sup>其ノ理由トスル所ハ該條約ニ松花江トアルハ支那側當局ノ考ニテハ「ハバロフスク」ヨリ拉哈蘇々ニ至ル間ナリシモ露國ハ之ヲ拡張シテ松花江全部ニ及ボシタルモノナルヲ以テ拉哈蘇々ヨリ上流ニハ露國船舶ノ航行ヲ禁止セントスルニアリ<sup>(5)</sup>尚密偵ノ言ニ依レバ以上航行権制限案ハ本年冬ノ新結冰期前ニ至リ政府之ヲ發表スベシトノコトナリシガ同司令ノ談話ニ依リ察スレバ近ク解氷ト共ニ發表スルヤモ測ラレズ<sup>(6)</sup>同司令ハ本件ハ國家ノ方針ニ関スルヲ以テ身海軍ニ在ル者トシテ此ノ如キコトヲ口外スベキ限ニ在ラズ嚴ニ他言ヲ憚ル旨返スモ附言セリ故ニ若シ之ニ関シテ日本側ヨリ漏ルルコトアランカ将来当機関ノ信用ニ影響スルヲ以テ極秘トセラレ度キ旨同

六七八 三月十九日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

本官発在仏大使宛電報第一七号

往電第一五号(本代表宛大臣來電第六号)<sup>(註1)</sup>ニ閔シ黒竜、松花両河開放問題ニ付仏國政府ハ支那側ノ閉鎖主張ヲ支持スル趣ノ處右貴電第九号ト抵触ノ感アルニ付此点ニ付更ニ仏

國當局ノ態度御確メノ上折返御回電アリタシ尚右貴電仏國政府回答文アラバ写至急御郵送ヲ乞フ

註1 三月十八日外務大臣發松田代表委員宛第六号電報ハ前掲小幡公使三月十七日發外務大臣宛第二二三号ヲ轉電セルモノ

2 在仏大使發松田代表委員宛第九号電報ノ内容ヲ示ス記録東京外務省ニ無キモ右ハ前掲三月十七日在仏大使發内田外務大臣宛第四〇三号ヲ松田委員ニ轉電セルモノカト推測セラル

中将附記シ居レリ

黒竜松花両河開放問題ニ付仏國側態度確認方

松田代表ヨリ石井大使へ依頼ノ件

(三月二十一日接受)

交通第一〇号

横暴ナル時代ニ勝手ナル條約ヲ定メタルモノナルヲ以テ之

ヲ取消スニ至ルヤモ計ラレズ<sup>(4)</sup>其ノ理由トスル所ハ該條約ニ松花江トアルハ支那側當局ノ考ニテハ「ハバロフスク」ヨリ拉哈蘇々ニ至ル間ナリシモ露國ハ之ヲ拡張シテ松花江全部ニ及ボシタルモノナルヲ以テ拉哈蘇々ヨリ上流ニハ露國船舶ノ航行ヲ禁止セントスルニアリ<sup>(5)</sup>尚密偵ノ言ニ依レバ以上航行権制限案ハ本年冬ノ新結冰期前ニ至リ政府之ヲ發表スベシトノコトナリシガ同司令ノ談話ニ依リ察スレバ近ク解氷ト共ニ發表スルヤモ測ラレズ<sup>(6)</sup>同司令ハ本件ハ國家ノ方針ニ関スルヲ以テ身海軍ニ在ル者トシテ此ノ如キコトヲ口外スベキ限ニ在ラズ嚴ニ他言ヲ憚ル旨返スモ附言セリ故ニ若シ之ニ関シテ日本側ヨリ漏ルルコトアランカ将来当機関ノ信用ニ影響スルヲ以テ極秘トセラレ度キ旨同

六七八 三月十九日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

本官発在仏大使宛電報第一七号

往電第一五号(本代表宛大臣來電第六号)<sup>(註1)</sup>ニ閔シ黒竜、松花両河開放問題ニ付仏國政府ハ支那側ノ閉鎖主張ヲ支持スル趣ノ處右貴電第九号ト抵触ノ感アルニ付此点ニ付更ニ仏

國當局ノ態度御確メノ上折返御回電アリタシ尚右貴電仏國政府回答文アラバ写至急御郵送ヲ乞フ

註1 三月十八日外務大臣發松田代表委員宛第六号電報ハ前掲小幡公使三月十七日發外務大臣宛第二二三号ヲ轉電セルモノ

2 在仏大使發松田代表委員宛第九号電報ノ内容ヲ示ス記録東京外務省ニ無キモ右ハ前掲三月十七日在仏大使發内田外務大臣宛第四〇三号ヲ松田委員ニ轉電セルモノカト推測セラル

六七八 三月十九日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### バルセロナ交通会議第二回全員委員会ニ於テ

#### 自由通過協約案第一条討議続行可決ノ件

交通第一一號

(三月二十一日接受)

十六日午前自由通過委員会第一回開催前回ニ引続キ第一条ノ討議ヲ為ス概要左ノ通り

(1) 羅馬尼亞委員ハ本條約ニ於テ保障ヲ与フベキ goods ム然ラザル means of transport ト々混同シ又 way-bill 依リ運輸ノ性質表明セラルベキ goods ム然ラザル persons ムヲ混同スル原案ノ欠点ヲ指摘シ其ノ修正ヲ求メタルガ賛成者少ク否決セラル

(1) 波蘭委員ハ other means of transport ハ内<sup>(2)</sup> Locomotive ハ入ル可カラザルハ明カルナム原案説明書第四〇頁<sup>(3)</sup>

ハ Locomotion on water タル towing ナル文字アルハ鑑<sup>(4)</sup>誤解ヲ避ケル為メ vessels ノ次ニ towing on rivers excluded ナル文字ヲ附加セシコトヲ提議セリ右ニ対シ英、仏、白、日、波

会ニ掛ケルヲ妥当トスル旨主張シ結局白、英、仏、日、波

一一 バルセロナ国際交通会議ニ闇スル件 六七八 六八〇

ノ件

六八〇 三月二十日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議第三回委員会ニ於テ白由通過協約案前文第二条第三条第四条討議報告

交通第一二一號 (三月二十一日接受)

十六日午後自由通過委員会第二回開会前文第一条第三条第

四条ヲ議了ス概要左ノ通

(甲)前文

伊国委員ヨリ本協約案第十条<sup>(註1)</sup>ハ聯盟規約第一十条適用ノ為設ケタルモノナルガ之ガ為ニ<sup>く</sup>前文 without prejudice 、次ニ to international convention already existing or which may be subsequently concluded and which in the opinion of the Council of the League of Nations would not be contrary to the spirit of the present convention ナル字句ヲ加フル時ハ第十条ノ必要ナキハ<sup>ミ</sup>ナラズ第十条ノ方法ニ依レバ若シ関係国ニシテ特定条約ノ列挙ヲ怠リタル場合該条約ハ其効力ヲ失フノ虞アリト述べシ處伊国委員ハ本協約案前文ト聯盟規約並本協約案第十条トノ関係明確ナラズ異論多々有ルベキヲ以テ右討議ハ第十条ノ討議迄延

期スルヲ可トスト論ジタル結果結局討議延期ニ決ス本代表ハ右延期ニ同意スルトモニ第十条ノ討議ノ際ニ之ヲ述べキ旨ヲ會議ニ於テ予メ披露シ置ケリ

(乙)第二条<sup>(註2)</sup>

事録ニ此趣題ヲ明記スルニテモ可ナルコトヲ提議シ之ト共ニ英國委員ヨリモ(1)通過監督ノ便宜ヲ受クルモノハ貨物ノ<sup>ニ</sup>ナラズ旅客モ同様ナレハ on goods トアルモ on traffic ト改ムベキコト<sup>(註3)</sup>課金額ノ制限ヲ設クルコト通過自由ノ為メ必要ナシハ英國ヤ原文第六行<sup>(註4)</sup>not exceeding an allowance reasonably required for the purpose ト加フベキコトヲ提案セリ兩国案ニ付討論アリタルモ先決トシテ英伊仏日及羅馬尼亞委員ヨリ成ル分科会ヲ構成シ審議スルニ決ス

(丁)第四条<sup>(註4)</sup>

本条ニ付テモ仏国瑞典等ヲ初メ數個国委員ヨリ各種修正提案アリタルガ討議ノ中心トナリタルハ reasonable ナル文字ニシテ瑞典委員ハ貨率確立方法ハ國ニ依リ差異アリ如何ナル鐵道貨率モ總テノ場合ニ合理的ナルモノナシ依テ reasonable ナルヤ否ハ問題トナリタル特別鐵道ニ付個々ニ決スベク從テ此ノ意味ヲ條文中ニ明ニスベシト云ヒ洪牙利希臘両国委員ハ通過貨物ニ對シテハ内國貨率其モノ又ハ之ト同様ノモノヲ適用スベシト述べ羅馬尼亞委員ハ本件決定ノ標準ヲ國際交通上ノ便宜助成ニ取ルベシト語く種々議論

1 バルセロナ国際交通会議ニ關スル件 六八一

一、仏国委員ハ(1) most convenient 、most ラ削除スルコト(2)便宜ハ實際通過ノ場合ニ於ケルモノニシテ協約調印當日ノモノニ非ザル意味ヲ明カニスル為 for the time being

ナル文字ヲ附加スベキコトハ協約案ニ適合スル様国内立法ヲナスベキコト各國ノ義務ナルト同時ニ国内法制ノ制定ハ各國自由ニ行ヒ得ルモノタルコトヲ表明スル為 shall facilitate ノ前ニ in conformity with its own legislation ナル文字ヲ挿入スベキコトヲ提案セシム白國及「チヨラ」スロヴァキアノ委員ヨリハノ点ハ無意味ニ非ザレバ不当ノ制限トナル虞アリトノ反対アリタル為仏国委員ハ之ヲ撤回シタル結果(1)ハ委員会ヲ通過ス

二、伯刺西爾委員ハ非通過國ノ差別的待遇ヲ防止スル為一項ヲ規定センコトヲ提議セシモ第十条ト共ニ討議スルコトニ決ス

(丙)第三条<sup>(註3)</sup>  
本代表ハ予テノ御訓令ニ基キ他ニ同様ノ規定アルニ依リ本条ニ規定ヲ欠クトキハ反対ノ誤解ヲ生ズル虞アリトノ理由ニテ通過税額ニ付テモ第二条末段同様ノ均等待遇ヲ保障スル辭句ヲ加フベク本會議ニ於テ右解釈ニ異議ナキ以上ハ議

ノ後仏国委員ヨリ各案ノ趣題ヲ融合スル為 reasonable ナル文字ヲ équitable ト改ムベシトノ妥協的提案アリ英國委員モ之ニ賛成シ唯英語ニテハ仏語ノ équitable ॥該当スルモノハ reasonable 故英文中ニハ之ヲ残スコト並 to favour to facilitate ト改ムル方優良ナリトノ注意ヲナシ投票決ノ結果右英仏案ヲ採用スルコトトス但シ瑞典委員ハ伊国委員ノ同意ヲ得テ本条ノ解釈上各國ノ貨率制定權ヲ禁止スルモノニアラザルコトヲ議事録ニ明記スベキコトヲ主張シ委員会ニ於テ容ルル所トナル

在仏大使ベ転電セリ

註1 本協約案第十条ニ就イテハ前掲二月十七日安達公使発外務大臣宛第四四号末尾ノ註三参照  
2 本協約案第11条ハ Regulation and Execution of Traffic in Traffic ॥闕スル条文ナリ  
3 第三条ハ通過税(Duties) ॥闕ベル条文ナリ  
4 第四条ハ通過ノ料金(Charges) ॥闕スル条文ナリ

六八一 三月二十一日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
自由通過協約案第十条第二項既存条約中例外  
コナスヤノニ付名國ノ届出就中中國側ノ記載

# 一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 六八二 六八三

八一六

## 一 関スル件

交通第二三号 (三月二十二日接受)

通過自由協約案第十条第二項ニ基キ既存条約中例外ヲナスモノニ関シ既ニ書記局ニ対シ届出ヲナシタルハ「チエコ、スロヴァキア」、支那、和蘭、瑞典、諾威ニシテ右ノ内支那ハ一八五八年愛璉条約第一条一八八一年露清国境確定及通商条約第十八条一八五八年天津条約(?)条(本条約ノ規定ハ英國以外ノ条約ニモ類似ノ規定アル旨申添アリ)ヲ記載シ居レリ

在仏大使ヘ転電セリ

六八二 三月二十二日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

### バルセロナ交通会議ニ於ケル自由通過協約案

審議ノ際ノ中国委員ノ発言ニ付通報ノ件

第一四七号

「バルセロナ」交通会議ニ關シ

(一) 本月十四日ノ本會議ニ於テ自由通過条約案ノ一般討議ヲ為シタルガ其ノ席上支那委員ハ本条約ヲ特別事態ノ國家ニ適用スルニ際シ生ズベキ困難排除ノ為特別小委員会ヲ設ク

六八四 三月二十三日 在ハルビン松島總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### 松花江航行問題ニ關シ陸軍側ノ得タル情報報

告ノ件

第四四号

(三月二十四日接受)

松花江航行問題ニ關シ陸軍側ノ得タル情報ニ依レバ支那商民一般ノ意向ハ外国船ノ航行ヲ禁ジ支那ニ船籍ヲ有スル総

テノ船舶ニ之ヲ許スコトヲ希望セリ但シ支那政府ニ於テハ戊通公司ヲ官営トシ同公司以外ノ船舶ノ航行ヲ禁ズル意圖アルモノノ如シ而シテ愛璉条約ニ依リ支露両国ニ船籍ヲ有スルモノハ航行シ得ルコトトナリタルモ之レ露国ノ横暴ナル時代ニ勝手ニ極メタルモノナリトテ之ヲ取消スニ至ルヤモ知レズ其理由ハ該條約ニ松花江トアルハ支那側當時ノ考ニテハ「ハバロフスク」ヨリ拉哈蘇々(松花江黒竜江トノ合流点)ニ至ル間ナリシモ露国ハ之ヲ拡張シテ松花江全部ニ及ボシタルモノナルヲ以テ拉哈蘇々ヨリ上流ニハ露国船ノ航行ヲ禁止セントスルニアリ

在支公使ヘ転電セリ(長春經由三月二十三日午後五、五〇)

ベク又本条約案ト既存条約トノ調和ヲ計ル為列國ノ援助ヲ得タキ旨述ベタルニ対シ議長ハ前者ハ条約案議了後ノ問題ニシテ後者ハ既ニ原案ノ予想セル所ナリト注意セリ

(二) 十五日ノ同条約案ニ関スル全員委員会ニ於テ支那委員ハ距離遠隔ノ為原案以外各種改正案ニ付本国政府ノ訓令ヲ仰グ暇ナキ故右改正案ニ基ク会議ノ議決ニ対シ同国政府ハ当然批准ノ義務ヲ負フモノト解シ得ザル旨声明セリ

右御参考迄

六八三 三月二十二日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

東支鉄道通過問題ハ露国正当政府樹立セラル  
ル迄自由通過協約ヨリ除外スル様中國委員提

案ノ件

交通第二五号

(三月二十四日接受)

自由通過協約案第十三条ニ基キ支那委員ハ協約「プロトコル」中ニ東支鉄道通過問題ハ同国政府ガ鐵道協約ヲ締結シ得可キ露国正当政府樹立セラル迄一時本協約ヨリ除外セラルベシトノ字句挿入方提案ス

在仏大使ヘ転電セリ

六八五 三月二十三日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### バルセロナ交通会議自由通過協約案第十条審

議ニ付請訓ノ件

二付請訓ノ件

別電 同日松田代表委員発内田外務大臣宛交通第二七号

自由通過協約案第十条ノ修正案

交通第二六号

(三月二十四日接受)

自由通過協約案第十条ハ十九日分科会ニ附セラレ各國ノ意見ヲ斟酌シ更ニ討議基礎案ヲ作成スルタメ少數ノ起草委員ニ附託セラレ二十一日午後五時別電第二七号ノ案委員会ニ附議セラレタリ本代表ハ御訓令ノ趣旨ニ基キ既存ノ条約ニ付テハ列記ヲ主張シ将来ノ条約ニ付テハ本条約ノ規定ニ反スルモノハ締結スルヲ得ザル旨主張シタルモ容レラレズ本會議ニ於テ別ニ意見ヲ述ブベキ旨留保シタリスクテ右案ハ同日午後五時半ノ総委員会ニ附議セラルルニ至レリ依テ本代表ハ更ニ御訓令ノ趣旨ニ基キ別電第一項トシテ從来ノ条約中効力ヲ維持スベキモノヲ審査シテ列記シ将来ノ条約ハ本条約ノ規定ニ反スルモノハ之ヲ締結スルヲ得ズトノ別

電第三項ノ前段ノハ存スルコトヲ主張シタリ本件ハ分割會ニ於テハ勿論各國委員ニモ交渉シ頻リニ其賛成ヲ求メタルモ會議ノ大勢ハ依然トシテ全然之ニ反対ノ意見ヲ有シ到底英國ノ主張ヲ容レザルノミナラズ準備書類ニ依リテモ御承知アルベキ通各國各々實質的利害關係アルヲ以テ日本ノ主張ノ如キ單純ナル理論ノミニテハ到底會議ノ容ル所トナラザルハ論ヲ待タズ討論終結投票ノ結果結局帝國及ビ「ボリビヤ」ニ|國ノ外二十七ヶ國ノ多數ヲ以テ委員会ハ別電ノ通可決セリ其間英國委員ハ條約列記ノ代リニ有効約ヲ聯盟書記局ニ登録スベシトノ案ヲ提出シ仏國委員ノ反対アル等百方主張緩和ノ途ヲ求メント努メタルモ遂ニ適當ナル妥協案ヲ発見スルニ至ラザリシ次第ナリ又本案ノタメニ主トシテ出席セル仏國委員一人「セリュイス」氏ノ如キハ日本ノ主張ノ正義ヲ認ムルモ實際上ニ賛成スルヲ得ズトノ旨ヲ本代表ニ懇話セルコトモアリ右票決ハ仮議事規則ニ基ク決議ナルモ會議ノ大勢ハ今後ト雖到底御訓令ノ趣旨ヲ容ルベクモアラズ本代表ニ於テ此際之ヲ固執スルハ反テ大局上不利ヲ來ス虞アルニ付本會議ニ於テハ右反対ヲ撤回シ結局別電ニ賛成スル方得策ト思考セラル尤モ其間何トカ

## 交通第一七号 別電

(11月11日接収)

The conventions, agreements and treaties, concluded between the Contracting States in regard to transit before the..1921, are not abrogated as the result of the present Convention, subject to the provisions of Article 19 of the Covenant.

In pursuance of the above provision, the Contracting States undertake either at the expiration of these agreements or as soon as circumstances permit to introduce into any agreements thus maintained in force which may conflict with the terms of the present Convention, such amendments as may be necessary to bring these agreements into harmony with its terms so far as the geographical, economic or technical conditions, in the countries or regions which are the subject of these agreements, allow of this being done.

The Contracting States further undertake not to conclude any conventions, treaties or agreements in future which might conflict with the terms of present

シテ可成ク我ニ有利ナル方法ヲ講ズベキモ右ノ点至急御承認ヲ得タシ尚右ノ結果トシテ御訓令(前段ノ点モ勿論往電第113号ノ通り支那ハ当然愛埠條約ヲ通過自由ノ例外トシテ第十条ノ適用ヲ受ケシムル趣旨ナルノミナラズ河川協約案第四条ヲ黒龍江ニ適用スル趣旨ニ関シテハ準備書類調査七十一頁ノ説明ヲ固執スベク他ノ列国モ同様ノ条約ヲ認メシムル精神ナルニ付到底會議ノ賛成ヲ得難シト考ヘラル又沿岸貿易開放論其他特ニ御訓令セノ如キ趣意ノ論ヲ本會議ニ提出スルハ其處ヲ得ザレバ却テ吾ニ不利ヲ招ク虞アリ元來右ノ如キ件ハ今回ノ會議トハ少シク趣ヲ異ニスルモノナルニ依リ適當ノ機会ヲ俟ツノ外ナカラント思考ス帝國委員ニ於テ會議ノ内外ニ全力ヲ尽シ右ノ主張ヲナス見込ナルハ勿論ナルモ結局大勢ノ到底之ヲ許サザル場合ニハ之ニ順応シテ可ナル可シト思考ス就テハ右御詮議ノ上之レ亦折返シ御回訓ヲ請フ

在仏大使ヘ転電セリ

(別 ■)

11月11日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第一七号  
自由通過協約案第十条修正案

Convention unless it can be shown that there are geographical, economic or technical reasons which might, in exceptional cases, justify a departure from them. Moreover, the Contracting States will be entitled when drawing up future agreements to conclude regional ententes regarding transit in conformity with the principles of the Convention.

在仏大使ヘ転電セリ

六八六 11月11日 内田外務大臣宛(電報)

印度、印度支那及西非利加ニ於ケル仏、葡西  
國ノ殖民地、領土及保護領ヲ自由通過協約  
由範囲外ニ置ク提案ニ關スル件

交通第一八号 (11月11日接収)

11月11日ノ自由交通委員会ノ席上印度委員ヨリ印度ニ於ケル仏西國ノ殖民地ニハ多數ノ土人困散在シ税關其他ノ取締モ存在セザルヲ以テ到底本協約ヲ適用シ難キニ付協約案第111条ニ準シ之ヲ本協約適用範囲外ニ置キ印度ト是等諸邦ノ間關係ハ特殊条約ニ依リ協定スルコムニシ度キ並提案

シ大体委員会ノ同意ヲ得ベキ模様ナリ仏蘭西モ亦同様ノ理由ニテ印度支那及在亞弗利加仏、葡萄國ノ領土及保護領（地中海沿岸地方ヲ除ク）ニ付同様ノ例外ヲ設ケ度旨提案セシガ該案ノ成否見込未ダ不明ナリ而シテ右両案ヲ一括審議スル為印度、英、白、仏、葡、西、支那、伊、日、加、伯刺西爾ノ十一ヶ國委員ヨリ成ル分科会ヲ構成セラル在仏大使ヘ転電セリ

六八七 三月二十三日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

**第九回本会議ニ於テ交通總会及常設委員会ノ  
組織案第三条乃至第五条ニ關スル分科会報告**

**議了及議事規則審議ノ件**

交通第一九号

十七日午前第九回本会議開催左記二項ヲ議了ス

一、組織協約案第三条、第四条及第五条ニ關スル分科会ノ報告

仏国委員ヨリ右分科会ノ結果ヲ報告ス即チ同分科会ハ

Internal Organization ノ問題ハ「ゼネヴァ」ニ於テ既ニ

決セラレ又司法的性質ノ紛争ハ常設國際裁判所ノ関係事項

（三月二十五日接受）

告シ全会一致ニテ分科会提案ヲ通過ス但英國委員ヨリノ注意ニ基キ専門的調査委員ハ任期満了後モ新委員ノ選任アル迄旧委員ニ於テ執務スルモノナリトノ字句ヲ議事録ニ附記スルコトセリ

**二、議事規則**

議事規則總委員會長「フエラリス」（副議長）ハ議事規則

案ノ提出ト共ニ該案ハ聯盟總会決議及本總会ニ於ケル組織協約案ノ討議ニ付聯盟總会及「ブラッセル」財政會議ノ慣例ニ則リ起草セルモノニシテ主要点ハ總会ノ構成、事務局

ノ構成、總会ニ於ケル会合及専門委員会ノ組織ナリト説明シタル處波蘭委員ハ其ノ第六条及第十三条ノ規定ニ依レバ事務局ハ聯盟員以外ノ代表者ヲ委員会ノ委員ニ指名シ得ベシト非難セシガ議長ヨリ聯盟委員ニアラザル總会出席者モ既ニ總会ノ承認ヲ經テ票決權以外ニ付聯盟委員ト全然同一ノ權能ヲ有スルノミナラズ議長又ハ事務局ハ如何ナル場合ニ於テモ總会ノ承認ナクシテ委員会ノ構成ヲナシ得ザルモノナリト説明シ波蘭委員之ニ満足ノ意ヲ表ス次イテ英國委員ハ組織協約案ノ確立ヲ見ル迄本規則案ヲ暫行的規則トシテ其儘実行センコトヲ動議シ一同之ニ賛成ス

追テ議事規則ハ確定次第郵報スビ  
在仏大使ヘ転電セリ

六八八 三月二十四日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

**バルセロナ交通会議第十回本会議ニ於テ議事**

**規則案議了第四回自由通過委員会ニ於テ協約**

一一 バルセロナ国際交通会議ニ閲スル件 六八八

タリ此兩点ヲ除外スル方針ニテ審議ヲ為シイ第三条原文ガ

聯盟總会ノ Advisory Committee 与ヘタル權限ト異ナルモノアルニ依リ之ニ適合スル様一般的ニ規定ヲナシ（四）第四

条ニ付テハ紛争解決方法ヲ司法的ニ改ム即チ友誼的方法ノミニ限定シ且審議ノ為聯盟委員ノ主權ヲ害セザルコト並専門的調査委員ノ選定方法ヲ自由ニナスクトヲ期シ又其第七

項ニ付テハ一般的慣習ニ從ヒ Advisory Committee ノ意見發表ノ場合審議關係國名ヲ表示セシムルコト第八項ニ付テハ紛争当事國ヲシテ解決方法ノ考究ニ關与セシメザルコトノ趣旨ヲ以テ修正ヲ為シハ又第五条ニ付テハ決定ノ価値ハ審議者ノ員數ヨリモ寧ロ其質ニ依リ決スルモノナルノミニラズ三分ノ二ノ多數主義ヲ維持セバ決定ヲ得ザル實際上ノ不都合（脱）half plus one 主義ヲ執ルコトトセル旨報

告シ全会一致ニテ分科会提案ヲ通過ス但英國委員ヨリノ注意ニ基キ専門的調査委員ハ任期満了後モ新委員ノ選任アル迄旧委員ニ於テ執務スルモノナリトノ字句ヲ議事録ニ附記スルコトセリ

**二、議事規則**

議事規則總委員會長「フエラリス」（副議長）ハ議事規則

**案第三条議了ノ件**

**別 電**

同日松田代表委員發内田外務大臣宛交通第三二号

自由通過協約案第三条修正案

交通第三一号

（三月二十六日接受）

十七日午後第十回本会議及第四回自由通過委員会開催概要左ノ通

（一）本日午前ノ会議ニ引続キ議事規則案ノ逐條討議ヲ為シ全部議了通過ス主タル原案改正左ノ通

（イ）仏国委員ハ諮詢機關ノ関スル限り聯盟總会ノ決議ニ依リ聯盟委員以外ノ者モ聯盟委員ト同一ノ權能ヲ有スルニ依リ總會構成ニ關シ第一条中兩者ノ間ニ差異ヲ設クル第二項及第五項削除方ヲ提議シタル結果本條全部ヲ Sir Cecil Hostie, Hostie, Reveiland, Kaeckenbeck 及本代表ノ五名ヨリ成ル起草委員會法律顧問ノ審議ニ附スルコトニ決ス（ロ）瑞西委員ヨリ總會ト専門委員会トノ關係不明ノ点アル故 Agenda 作成ニ於ケル第三条ハ分科会ヲ作り更ニ審議スベシトノ提案アリ結局起草者ニ於テ再考スルコトニ決ス（ハ）蘭國委員ヨリ總會ノ會議ニ於ケル第十条ニ付議題ヲ起草委員會及事務局ノ審議ニ掛ケ得ルコトヲ明記スヘシトノ提

案アリ通過ス

(丙)白国委員ハ「ゼネバ」総会ニ於テ列席員中中途脱退セル者アリタルニ鑑々會議表决数計算ノ基礎ヲ定ムル第十一條

第四項中ニ单ニ會議列席者トアルニ會議当初ノ列席者ト改ムヘキロトヲ提議シ通過ス

正委員会

自由通過協約案第三条分科会(往電第111号(丙))ノ結果ヲ英國委員ヨリ報告ス即チ同条ヲ別電第111号ノ通改正ベヘキロト並曳船ニ関スル羅馬尼亞改正案ハ寧ロ第十条ニ關聯スルモノ故審議ヲ其際為スヘキロト述フ右ニ対シ議長ハ右分科会改正案ヲ通過スルロト並曳船問題ヲ更ニ前記分科会ニ附託スルロト(希望ニ基キ審査員ヲ加フ)ニ議場ニ諮リ其ノ通可決ス塞爾比亞委員ヨリ本条原案末段削除ノ理由ヲ質問ヤルニ英國委員ヨリ日本提案採用ノ当然ノ結果ナリト説明シ其ノ満足ヲ得

在仏大使ヘ転電セリ

(別  
電)

三月二十四日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛電報  
交通第111号

### ト協約案第五及六条審議ノ件

交通第三三三号 (三月二十六日接受)

十八日午前自由通過委員会第五回開催協約案第五、六条ヲ

議了ス概要左ノ通

#### 一、第五条

英仏伊委員ヨリ夫々次ノ点ニ付提案アリ討議ノ結果全条ヲ

仏、瑞西、白耳義、英、日、葡、「ウルガイ」、希臘、「チ

ヒコスロヴァキア」、伯刺西爾、支那ノ十一ヶ国委員ヨ

リ成ル分科会ニ附託ス

(イ)英國提案ノ主要点ハ

甲)health ノ次ニ morals ノ加フルロト

(乙)英文原案八行田ヘ transit ノ次ニ and that persons in

transit are in a position to complete their journey

ナル文字ヲ加ヘバ通シ切符又ハ旅行継続ニ必要ナル金員ヲ有セズ又到着國ガ明白ニ入國ヲ禁シ居ル如キ場合

ノ transmigrants ノ防止スルロト

(丙)本条ノ末尾ニ本協約ガ聯盟ノ指揮ノ下ニ阿廿武器等

(北海協定違反ノ魚類ヲモ含ム)ノ輸出及通過ニ關シ協定スル一般的國際條約ニ影響ヲ与ケザルロトヲ定メ本条

11 バルセロナ國際交通会議ニ關スル件 六八九

自由通過協約案第三条修正案

交通第111号 別電

(三月二十六日接収)

Persons, luggage, goods, vessels, coaching and goods stock or other means of transport in transit shall be exempt from any special duties or charges in respect of their transit, including their entry or exit; nevertheless, on this traffic in transit there may be levied duties or charges intended solely to defray legitimate expenses of supervision and administration incurred on account of such transit. The rates of any such duties or charges shall correspond as nearly as possible to the expenses which they are intended to cover; and such duties or charges shall be applied under the conditions of equality defined in the preceding article.

在仏大使ヘ転電セリ

Matsuda.

六八九

三月二十四日 在バルセロナ松田代表委員発内

田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議第五回自由通過委員会

及第九条ノ規定シタル聯盟員以外ノ行動ニ付規定ヲナス

ロト

(イ)仏国提案ハ

甲)仏文現案 végétaux ノ次ニ soit pour raison de loyaute commerciale ナル文字ヲ加フルロト

乙)國際水路ハ国内水路ヨリモ自由タルベキヤハ故 customs seal ノトニ水路ヲ航行スル船舶ニ依ル通過ノ場合

ノ本条ヲ適用セザルロトヲ明記スルロト

(イ)英國提案ハ

plants ノ次ニ or with the view to protecting state-monopolies ナル文字ヲ加フルロト(ナニ<sup>ノ</sup>反対多シ)

#### 二、第六条

本条ニ付テハ字句関係等仏国委員ヨリ提案サノ起草委員会ニ附託セハレタル外大ナル議論ナク通過ス

在仏大使ヘ転電セリ

(註一) 第五条ハ衛生公安其他ノ理由ニ依リ人又ハ物ノ通過ヲ制限シ得ルロトノ規定ナリ

2 第六条ハ自由通過協約ニ加入シ居ラザル國ノ人及物ノ通過ニ關スル規定ナリ

六九〇 三月二十四日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## バルセロナ交通会議第六回自由通過委員会一

## 於テ協約案第七条乃至第十二条討議ノ件

別電 同日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第三

五号

仏國側主張ノ第七条修正案

(三月二十五日接受)

自由通過委員会第六回十八日午後開会協約案第七条乃至第十二条ヲ討議ス概要左ノ通

## 一、第七条

仏國委員先ヅ原案ハ自衛権発動ノ結果協約全部ノ効力停止ヲ為シ得ルモノト解釈セラルルノ虞アル処性質上右ハ自衛権発動正当範囲内ノミニ関シ協約一部失効ヲ來スニ過ギザルモノ故別電第三五号ノ通り書換ユルコト妥当ナリト主張シ伊国委員ハ重大利益中ニハ平時ニ於ケル国防上ノ利益ヲモ包含スルモノナルヲ明示スベキコトヲ提議セリ之ニ対し白国委員ハ何ガ自衛上ノ利益ナリヤ定ムルノ困難アルヲ理由トシテ本案ノ存置ニ反対シ又蘭国委員ハ本案ハ第五条ト密接関係アルガ故ニ第五条ノ分科会ニ於テ同時ニ審議ス

英仏委員ヨリ先ヅ本条ハ前文ト緊切ノ関係アルヲ以テ両者同時ニ審議スペク且本件ハ重大事項故分科会ニテ篤ト審議スルコトトシ先ヅ概論的討議ヲ為サンコトヲ提議ス之ニ基キ各國委員交々所見ヲ述ブ本代表モ御訓令ニ基キ予メ提出セル第一項 in the absence 以下及第二項全部削除ノ我提案ニ付説明ヲ為シ該案ニ依リ初メテ通過自由主義ノ徹底ヲ見ルベキコト並聯盟規約第二十三条ニハ多少ノ留保アルモ講和會議ニ於ケル右第二十三条成立ノ精神ニ鑑ミレハ右削除ハ妥当ナルコト等ヲ述べ且本条ト密接関係アル第五条ヲ分科会ニテ先ヅ審議スベキコトヲ主張セリ幾多討議ノ末仏國委員起ツテ諸説ヲ分類スルニ三種アリ第一説(伊・智利等)ハ既存条約絶対尊重説ニシテ右ハ聯盟規約第二十三条ノ解釈広汎ニ過ギタル結果ニシテ且法理ニ基カザル單純ナル事実論ナリ第一説(日本)ハ之ニ反シ既存条約中本協約ニ抵触スルモノ全部ヲ廢棄セントスル説ニシテ理論ニ過ギ聯盟ノ認メタル地理上及歴史上ノ特殊関係ヲモ無視スルモ

ticular or general measures which each of the High Contracting Parties might be obliged to take in case of national emergency affecting the safety of the vital interests of the country, it being understood that the freedom of transit shall be observed as far as possible. Matsuda.

六九一 三月二十四日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## バルセロナ交通会議第七回自由通過委員会一

## 於テ協約案第八第九第四ノ各条討議報告ノ件

三、第八条及第九条ハ準備ノ関係等ヨリ討議ヲ後廻シトシ又第十一条及第十二条ハ第十条ト密接関係アル故之ト共ニ

同一分科会ニ附議セリ  
在仏大使ヘ転電セリ

## (別電)

(三月二十四日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第三五号)

仏國側主張ノ第七条修正案

交通第三五号 別電

(三月二十六日接受)

Exceptional derogations can be conceded to the provisions of the preceding articles by virtue of par-

1-1 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 六九一

# 1-1 バルセロナ国際交通会議の閣スル件 六九一

八一六

此点ニ付明確ナル規定ヲ必要レスト云ヒ結局本条ハ白、  
西、仏、伊、日、蘭、瑞典、瑞西、「チハッコスロヴァキア」及  
「ウルガイ」ノ十ヶ国ヨリ成ル分科会ノ審議ニ附スルコト  
ニ決ス (註2)

1-1、第九条  
議論ナク通過  
(註3)

三、第四条  
(註3)

本条審議ノ為更ニ設ケラレタル分科会ヲ代表シ仏国委員ヲ  
リ種々羅馬尼亞修正案ヲ基礎トスル附託事項審議ノ結果ヲ  
報告ス即チ(a)曳船問題ハ結局本条ニ之ヲヤ包含セシムル意  
味ニテ英文原案三行目 routes ノ次ニ exploited (物的要  
素ノ輸送ノミヲ意味ス) ナル文字ヲ加フルコトニ決シ(b)搭  
載船舶ノ船籍ニ基ク載貨ニ対スル税金其他ノ規定上ノ差別  
的取扱ノ問題ハ寧ロ經濟問題ナルノミナラスニ関スル議  
定カ将来海上關係ノ協定ニ累ヲ及ホスノ虞ヲ避クル為茲ニ  
討議スルヲ止メ(c)一國領土内ノ一点ヨリ他点ヘノ航路ヲ其  
國船舶ニ留保スルノ問題モ本条ノ関セサル所ナルヲ協約末  
文ニ附記スルコトトシ(d)尚又本条施行期間ハ第二〇条ト共  
ニ決ス(キモノナルヲ議定セル)報告アリ討論ノ末之ヲ可

決ス  
在仏大使へ転電セリ

註1 自由通過協約案第八条左ノ通

The stipulations contained in the present conven-  
tion shall be valid in time of war, in the greatest  
measure compatible with the rights and obligations  
of belligerents and neutrals.

2 皿田潤過橋協案第九条左ノ通

The present Convention does not impose on any  
of the High Contracting Parties any obligation which  
would conflict with its rights and obligations as a  
Member of the League of Nations.

3 第四条ハ通過ノ料金(Charges)ニ關スル條文ナコ

六九一 二月一十四日 在バルセロナ松田代表委員(註3)

バルセロナ交通会議第八回自由通過委員会ニ

於テ分科会(註3)提出ノ協約案第五条修正ヲ可

決ノ件

別 電 同日在バルセロナ松田代表委員(註3)

電報交通第三八号

右第五条修正

## 交通第三七号

(二月一十六日接受)

二十一日午前自由通過委員会第八回開会聯盟事務總長副代  
理ヨリ第五条分科会ノ結果別電第三八号ノ通同條修正ノ趣

旨ヲ報告セリ (修正理由左ノ通) 討議ノ未其儘可決

一、分科会ハ商業的誠実ノ主義ヲ承認シ第三項ヲ通過ス

1-1、国家的独占ニ付テハ独占ヲ承認スルノ必要アルト共ニ

通過自由ヲ承認スルノ必要アルニ依リ分科会ハ原則トシ

テ独占主義ノ承認ヲ示ス為单ニ第一項ニ別電第一ノ如キ

文字ヲ加フルコトヌベ

1-1' 稅關監視ノトニ於ケル船舶ノ航行ニ關シテハ國際間ニ

於ケルヨリ広キ自由主義ヲ承認スルト共ニ討議ハ國際河  
川協約案討議ノ場合ニ譲ル

四、經由移民ノ件ハ之ヲ採用

五、「moral」ナル文字、[Health or security] ナル文字

ニ包含スルヤノト解シ別ニ挿入セヤカルコトヌベ

在仏大使へ転電セリ

註 第五条ハ前掲松田代表二月二十四日発外務大臣宛交

通第三八号末尾ノ註一参照

(原電)

1-1 バルセロナ国際交通会議の閣スル件 六九一

view to prevent the infringement of rights of industrial, literary and artistic property, false making, false appellations of origin or other methods of unfair commerce.

在仏大使へ転電セリ

六九三 三月二十四日 在バルセロナ松田代表委員会  
内田外務大臣宛(電報)

### バルセロナ交通会議ノ運営状況及議事進行振

#### 二 閲シ報告ノ件

(三月二十七日接受)

去ル十日ヨリ当地開催ノ會議経過ハ累次ノ電報ニテ御承知(脱)連日午前十一時ヨリ午後八時迄開会ノ外ニ小委員会起草委員会法律家委員会等頗ル頻繁ニ開カレ居リ昨二十三日ヲ以テ第一協約案(自由通過)迄ノ大体ヲ議了セリ明二十五日ヨリ二十九日迄五日間「パーク」祭ノ為休会シ三十日ヨリ再開ノ筈ナリ今二十四日「アノトー」議長ノ議場ニ詰レル所ニ依レハ會議ハ四月十日ヲ以テ終了スル見込ニテ各般ノ議事ヲ進メ度各國委員一層ノ努力ヲ希望セリ右ハ議場一般ニ歓迎セラレタリ又第三協約案タル國際河川案ハ二

### 閲スル我方ノ措置方ニ付訓令ノ件

#### 第一四号

##### 貴電第二六号及第一七号ニ閲シ

(一)自由通過協約案第十条ニ付テハ既定方針ニ依リ精々御尽力アリタク若シ大勢上止ムヲ得ザル場合ニハ貴電第二七号別電案ニ同意ヲ与フルト共ニ會議録等ニ於テ本条挿入ノ為被通過國トノ間ニ存スル條約等ニ依リ帝國ノ有スル権利ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノト解セラルベキニ非ザル趣旨ヲ記録ニ止メ置クコトトシ以テ黒松江ニ對シ帝國ノ有スル條約上既得ノ地位ヲ確保スルノ措置ニ出ア置カレタシ(本点ニ閲シ松花江開放ニ閲シテハ往電第一二号ノ経緯アリ黒龍江ニ閲シテハ日清通商航海條約ノ解釈上少クモ支那ノ閲スル限り之ヲ開放セザル可カラザルコト(一月七日附条一機密合送第一四号及二月十八日附条一機密合送第三二号ノ通り)尚成ルベクハ前記別電前段terms so far as the geographical ムノ間ニexceptional ヲ挿入シ以テ後段in exceptional cases ハ々及第十条第一項exceptional agreements 等ノ限定的文字ト一致セシムルコトニシタシ

①今回ノ會議ニ於テ沿岸貿易相互開放ニ閲スル條約案ヲ可

十二、二十四ノ両日本會議ニ於テ安達副議長初メ各國委員ノ大体ニ閲スル發言アリ結局同副議長ヲ議長トスル國際河川案特別委員会組織セラレ各國一名ノ委員ヲ出席センマルコムトナリ本代表ハ笠間ヲ指名セリ右委員会ハ三十日ヨリ開会ノ筈(脱)十日第四協約案(鉄道)ノ本會議ヲ開キ本案ハ Sir Francis Dent(副議長)ヲ議長トスル委員会ニ附セラルル筈ナリ就テハ予テ請訓中ノモノ並ニ今後當方ノ注意スヘキ点ヲ此際至急電報アリ度シ尙前記「パーク」祭ノ休会ヲ利用シ各國委員ニシテ「マドリッド」ニ赴ク者ニ対シテハ西國皇帝二十六日宮中ニ於テ夜会ニ之ヲ召サルル筈ノ處安達公使初メ本代表其ノ他一同ハ事務多端ノ為此際右ノ五日ヲ不在トスルコト能ハス依テ同地ニ赴カサルコトニ決セリ他國「テレガシラ」ニテモ同様ノ者可成有之筈ニテ其ノ間各種問題ニ付内交渉ヲ試ムル機會アル筈ナリ右御参考迄申添フ

在英、仏、伊各大使及在日、西公使ヘ転電セリ

六九四 三月二十六日 在バルセロナ松田代表委員会  
内田外務大臣ヨリ

### 自由通過協約案第十条及沿岸貿易開放問題

決セシムルコトハ貴見ノ如ク相当困難ナルコトト承知シ居ルモ講和會議ヨリノ行掛リモアル次第ニ付条約案可決困難ナル場合ニ於テモ一般条約又ハ國別条約ノ形式ニ依リ相互開放ヲ可トスル趣旨ノ決議又ハ勸告案ヲ通過セシムルコトニ英、伊、蘭、白、諾威、瑞典、丁抹、支那及南米諸國等既ニ國法又ハ特別條約ニ依リ沿岸貿易ヲ開放シ居ル國ノ委員ト協力ノ上精々御尽力相成リタン尤モ帝國ニ於テハ今回ノ會議ニ於テ本件ニ對スル各國ノ態度ヲ見極メタル上時機ヲ見テ國別ニ相互開放方交渉スル意図ナルニ付右御含ミノ上少クモ本件ニ閲スル帝國ノ態度ハ會議ノ席上ニ於テ徹底スル様會議録ニ記載其ノ他可然措置ヲ採り置カレタシ尚未國濠州印度其ノ他現ニ日本船ニ沿岸貿易ヲ開放シ居ル國ニカラザルニ付本件ニ閲スル帝國ノ態度ヲ斯ル機會ニ充分ニ宣明シ置クコトハ右反対ヲ牽制スルタメ有利ナル内情アル次第八御含置相成度シ因ニ帝國ニ於テ國法上ノ相互主義ニ依リ之レガ開放ヲ断行シ得ザルハ仏米等ノ如ク本邦船ニ沿岸貿易ヲ開放シ居ラザル國ノ船舶ト雖通商條約上ノ最惠國待遇ニ依リ無条件均霑ヲ為スニ至ルベキガ為ナリ

# 一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 六九五 六九六

八三〇

本電〔〕在英仏蘭伊各大公使ニ参考ノ為転電アレ

註 一 三月二十五日外務大臣発松田代表委員宛第一二号省略セル

ガ右ハ松田代表ノ稟請ニ答ヘ明治三十八年十一月九日開会

ノ滿州ニ開スル日清交渉会議録第七号及滿州ニ開スル日清

交渉談判筆記ヲ電報セルモノナリ右二者ハ共ニ前掲二月十

二日外務大臣発在中国小幡公使宛条一機密送第二三号ノ附

属書一ノ調書中ニ在リ

2

二月七日附条一機密合送第二四号ハ在英仏伊米大使在白公

使ヘ中國ニ於ケル沿岸貿易及内水航行問題調書（前掲二月

十二日外務大臣発在中国小幡公使宛条一機密送第二三号附

属書一ノ調書ナリ）ヲ参考迄送附セルモノニシテ二月十八

日附条一機密合送第三三号ハ在英仏米大使等ヘ右小幡公使

宛条一機密送第二三号写ヲ参考ノ為送附セルモノナリ

六九五 三月二十六日

内田外務大臣モリ

在バルセロナ松田代表委員宛（電報）

第一五号

交通関係協約ノ調印批准手続ニ関スル件

安達公使宛往電第一六号〔〕ニ關シ

帝國ノ意見容易ニ貫徹シ得ザル現状ト我ニ最モ密接ノ関係

アル支那委員ノ態度トニ鑑ミ本邦提案容レザル場合ニハ寧

口英國案ヨリモ石井大使発貴官宛第十号〔〕仏國案ニ依ル議

定書作成案ノ方法然ルベシト思考セラル右為念

六九六 三月二十六日

在バルセロナ松田代表委員モリ

内田外務大臣モリ（電報）

バルセロナ交通会議自由通過委員会第九回

於テ自由通過協約案第五、十、十一、十二条

審議ノ件

別電 同日松田代表委員発内田外務大臣モリ（電報）

五号

同協約案第五条曳船問題ニ関スル修正及了解事項

交通第四四号

（三月二十七日接受）

ル上左ノ文句トコ  
ル上左ノ文句トコ

II (Gouvernement français) ne pense pas pouvoir accepter de donner dès maintenant des pleins pouvoirs à ses délégués et acceptera seulement un Protocole de signature restant ouvert, de façon à se réserver le droit d'étudier les textes définitivement arrêtés par la Conférence avant de donner sa signature.

註 石井大使発松田代表委員宛第十号（石井大使三月二十一日發内田外務大臣宛第四三〇号）ヘ「バルセロナ」交通会議ニ於ケル我方主張ノ重点ニ関スル申入（前掲三月十七日石井大使発内田外務大臣宛第四〇三号参照）ニ対スル仏國政府ノ書面回答ノ要点ヲ電報セルモノナルガ其ノ内交通関係協約案ノ調印批准手続ニ関スル部分左ノ通

一、協約案批准問題ニ關シ日本ト所見ヲ一ニバル眞ヲ述べタ

renece avant de donner sa signature.

内田外務大臣宛第四三〇号）ヘ「バルセロナ」交通会議ニ於ケル我方主張ノ重点ニ関スル申入（前掲三月十七日石井大使発内田外務大臣宛第四〇三号参照）ニ対スル仏國政府ノ書面回答ノ要点ヲ電報セルモノナルガ其ノ内交通関係協約案ノ調印批准手続ニ関スル部分左ノ通

一、協約案批准問題ニ關シ日本ト所見ヲ一ニバル眞ヲ述べタ

renece avant de donner sa signature.

六九五 三月二十六日

内田外務大臣モリ

在バルセロナ松田代表委員宛（電報）

第一五号

交通関係協約ノ調印批准手続ニ関スル件

安達公使宛往電第一六号〔〕ニ關シ

帝國ノ意見容易ニ貫徹シ得ザル現状ト我ニ最モ密接ノ関係

アル支那委員ノ態度トニ鑑ミ本邦提案容レザル場合ニハ寧

口英國案ヨリモ石井大使発貴官宛第十号〔〕仏國案ニ依ル議

定書作成案ノ方法然ルベシト思考セラル右為念

（一）第十一条及第十二条

英國委員ヨリ分科会ノ経過ヲ説明シテ曰ク第十条ニ付テハ諸説紛々タルモ要スルニ已存条約存置説ト其ノ廢止説トノ争ニシテ而モ廢止説ト雖本協約締約国以外ノ国トノ間ニ存在スル条約及地理上經濟上並技術上ノ特種事情ニ基ク条約ノ存続ヲ認ムルト共ニ存置説モ亦機会アリ次第速ニ本協約トノ其他ノ条約トノ調和ヲ計ル方針ナルニ鑑ミ實際上ノ相違点ハ比較的僅少ナリト述べ次テ第十二条ハ原案第十条

ニ融通性ヲ有スル様書改ムルノ必要アリト云ヒ原案第十条

第十一條及第十二条ノ代リニ第十条トシテ往電第一七号ノ条文〔〕又第十二条トシテ原案第十二条〔〕The High Contracting Parties 〔〕 The Contracting States 〔〕改メ且ツ equality 〔〕 applied to 〔〕削除セルモノノ提案シタル

後右改正両条ヲ決議スレバ前文ニ何等ノ変更ヲ加フルノ必要ナカル可シト附言セリ第十条ニ関シ其ノ後ノ討議状況ハ已ハ往電第一六号報告ノ通りニシテ結局右分科会案ハ大多

（別電）

一一 バルセロナ国際交通会議ニ關スル件 六九六

八三一

三月二十六日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第四五号  
自由通過協約案第五条曳船問題ニ関スル修正及了解事項

交通第四五号 別電

**第一** In case haulage services carried on as monopolies should be instituted on navigable waterways em-

The question as to whether and under what conditions  
should be such as not impede the transit of vessels.

tions such services may be established is not being

dealt with in the present Convention.

of vital interest to a country, be it internal transport or transport for the purpose of exportation or importation, may have a temporary priority over transit.

在バルセロナ松田代表委員 田川

## バルセロナ交通会議自由通過委員会第十一回

or part thereof ナル字句ヲ加フ可シトノ英國提案ハ仏國始メ各國委員ノ賛成ヲ得可決セラレタリ次イデ「ボーランド」委員ハ同國ノ関スル限戦争ハ一九一〇年迄継続セルニ依リ一九一八年後ノ被害ニ付キテモ考量ス可シトノ意味ヲ議事録ニ加ヘンコトヲ要求シ承諾ヲ受ク次ニ支那委員ハ往電第二五号東支鉄道ニ関スル例外的提案ノ説明ヲナシ之ヲ本協約末文ニ挿入セんコトヲ求メシガ英伊等ノ注意アリ結局議事録ニ記入スルコトセリ本代表ハ後日ノ為支那ハ露國ノ承諾ヲ条件トシテ本協約ヲ同鉄道ニ摘要セントスルモノナリト解釈スルモノナル旨ヲ表明ス委細往電第五〇号ニ

元報告

仏國委員ハ條約列記ノ後ニ Etc トアルハ漠然タルニ依リ関  
系条約ヲ割離シノコトヲ主張ノ已草委員会ニニ適当ノ事例

ヲ案出スルコトニ決ス  
(註3)

(三)第十五条

本条研究ノ分科会ノ結果ニ付報告委員タル和蘭委員ヨリ別電第四八号修正案提出ノ上説明アリ即チ第一項ハ general clause ノ依ル arbitration 沈 ad hoc compromise ノ基

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 六九七

討議報告ノ件

電報交通第四八号

電報交通第四八号

(三月二十八日接受)

ノ通左概要議討

九二前回委員会二提

チ前回委員会ニ提出セラレタル印度及仏蘭

一八号)ニ付印度委員ヨリ両案ヲ一括シテ分

ク狭ク摘要セシムル為メ其ノ次ニ to the said territory  
反ストノ攻撃アリテ撤回セシガ exception ノ意味ヲ成ル可  
汎キヲ以テ講和条約第三七八条ノ例ニ倣ヒ五年ト改ム可キ  
コトヲ主張セシガ仏国委員ヨリ右ハ聯盟規約第十三三条ニ違  
入リ伊国委員ハ temporarily ナル文字ノ解釈ノ余地余リニ  
ノ分科会構成セラル次イテ再ビ第十三条其ノモノノ討議ニ  
「サイン」シ得ザル可キコトヲ述べ結局往電第二二八号末段  
「(註)」

ク arbitration ラ認ムルモノニシテ又本条項ノ適用セラル  
ル紛争ハ当事者ノ一方ガ本協約ニ違反ノ行為アル為發生ス  
ル紛争ニノミ限ルモノナリ次ギニ第二項ハ國際裁判所ノ  
**Statute**ニ倣ヒ規定セルモノナリ第三項ニ閔シテ聯盟理事  
会ニ先ヅ紛議ヲ申シ出ヅ可シトノ仏國修正案ハ専門委員会  
又ハ國際裁判所ニ此種事件ヲ申出ヅ可シト決定セル聯盟總  
會ノ決議ニ反スルノミナラズ理事會ハ政治的性質ヲ帶ブル  
此ノ種技術的問題解決ノ機関トシテハ不適當ナルヨ以テ委  
員会修正案中ニ採用セザリシ次第ナリト述べ結局委員会修

註1 第十三條ノ原

四庫全書

In conformity with Article 23(e) of the Covenant of the League of Nations, any Contracting Party which can establish a good case against the application of any one of the stipulations of the present Convention on the whole or part of its territory, on

八三

11 ベルセロナ国際交通会議ノ闇ベル件 大九四

八三五

tailed by the application of the said stipulations.

2

原案ノ第十回条左ノ項

The present Convention does not prejudice the application of the Treaties of Versailles, St. Germain, Neuilly etc. between the Powers signatory to those Treaties.

3

第十五条ハ自由通過協約ノ解釈又ハ適用ニ闇ベル紛議ノ解決方法ヲ規定ヤルモノナド

(元

■)

〔三月〕十六日在ベルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛電報

〔交通第四八号

第十五条修正案

交通第四八号 別電

Article 15.

In the absence of any direct agreement between the parties concerned, any disputes as to the interpretation or application of the present Convention shall be brought before the Permanent Court of International Justice, unless by the application of a special convention or a general arbitration clause a settlement of the dispute be effected either by arbitration or in any other manner.

The procedure shall take the form of a request by the Government which intends to submit the dispute to the Court.

Nevertheless in order as far as possible to settle these disputes in a friendly manner, the Contracting States undertake before taking any legal action and having due regard to the rights and attribution of the Council and Assembly, to submit these disputes for an advisory opinion to the body which would be instituted by the League of Nations as the advisory and technical body for the Members of the League in matters concerning communications and transit.

In urgent cases, a provisional opinion may be given recommending any temporary measures, destined more particularly to restore the facilities of free transit which may have existed before the execution of the act or deed which gave rise to the dispute.

在松大使（轄電）

Matsuda.

大九八 〔三月〕十七日 在ベルセロナ松田代表委員

内田外務大臣宛（電報）

ベルセロナ交通会議ニ於テ東支鐵道ニ対スル

自由通過協約ノ闇田ニ闇ベル中國振興團議ノ件

件

〔三月〕十八日接

交通第五〇号

支那委員ヨリ東支鐵道ニ対スル自由通過協約案ノ適用ニ付

今次ノ交通總會ニ提議アリタル次第ハ往電第一五号ノ通ニ

シテ又ハ〔三月〕十三日ノ自由通過委員会第十一回會議席上ノ討議概要ハ往電第四七号ノ通ナルカ更ニ本件ニ關シ詳

細其ノ情況ヲ報告スレハ左ノ通

支那委員ハ協約案第十三条ノ討議中立ッテ前記往電第一五

号提案ノ理由ヲ説明シテ曰ク東支鐵道ハ支那領土ヲ通過シ

露國港湾ニ達スル延長線五百哩ノ鐵道ニシテ國際交通ノ重

要ノ路線ナリ千八百九十六年露支協定ノ結果露支銀行ニ其

ノ建造、管理及運輸ヲ委任ヤルモノナリ露國革命以後ハ支

那政府指揮ノ下ニ同銀行其任務ヲ続行シ來リシヤ必要ナル

責任ヲ負担シ得ベキ確乎タル政府露國ニ設立ヤハル迄ハ

支那政府ニシテ同鐵道ニ付本協約關係ノ全責任ヲ負担シ得

11 ベルセロナ國際交通会議ノ闇ベル件 大九八

八三五

六九九 三月二十八日 内田外務大臣より  
在バルセロナ松田代表委員宛(電報)

**英領印度又ハ仏領印度支那等ヲ全然自由通過**

**協約ノ適用外ニ置クロトハ極力防止スル様訓**

**令ノ件**

第一六号

貴電第二一八号ニ閲シ

英、仏、葡領印度諸土人國相互間又ハ右諸土人國ト直轄殖民地トノ特殊關係ニ對シ自由通過協約案第十三条ニ準ジ例外ヲ設クルコトハ大勢ニ準ゼラレ差支ナキモ英領印度又ハ仏領印度支那等ヲ全然協約案ノ適用外ニ置クコトハ極力防止セラレタシ右急念

シ〇〇 三月二十八日 在バルセロナ松田代表委員より  
内田外務大臣宛(電報)

**バルセロナ交通会議自由通過委員会第十一回**

**ハ於テ自由通過協約案第十六条以下議了二十七**

**報告ノ件**

(三月二十九日接受)

一月二二日午後自由通過委員会第十一回開催協約案第十六条

在仏大使ヘ転電セリ

註一 第十六条左ノ通

Should any one of the High Contracting Parties fail to comply with the findings of the Permanent Communications and Transit Committee, or, if an appeal has been made, with the judgment of the Permanent Court of International Justice, any High Contracting Party may bring the matter before the Permanent Court of International Justice in order to obtain from it a declaration as to the measures which each of the High Contracting Parties may be entitled to take.

2 第二十一條ハ本条約ノ締約國ハ本条約ノ効力発生後十年ヲ経過シタル時ハ本条約ヲ廢棄シ得ル規定ナリ

3 第二十一條左ノ通

At least once in ten years, the Permanent Communications and Transit Committee shall present to the General Communications and Transit Conference a report on the working of this Convention, and shall consider the desirability of placing on the agenda of the Conference the question of its revision or modification.

シ〇一 三月二十八日 在バルセロナ松田代表委員より  
内田外務大臣宛(電報)

11 バルセロナ国際交通会議ニ閲スル件 シ〇一

以下ヲ議了ス

(一) 第十六条、英仏等ノ委員ヨリ第十五条修正ノ結果本案存置ノ必要ナキ旨ノ主張アリ本条ハ削除セラル

(二) 第十七条以下、議長ハ第十七条以下ハ所謂条約締結ノ例文故一括起草委員会ニ掛クヘシト諮リタル處英國委員ハ第二十一条及第二十二条ニ付テハ多少議論アルヘキヲ以テ該委員会ニ掛クル以前一応審議スヘシト主張シ該審議ヲナス(註<sup>1</sup>) 第二十二条ニ付伊国委員ハ本協約ハ新ナル試ミナレハ適用上幾多ノ困難等アルヘキニ依リ五年位ハ一応期限ヲ限ルヘシト云ヒ英仏委員ノ賛成アリテ起草委員会ニ附託セラル但シ右期限ノ起算点ハ少クトモ三箇國ノ批准アリテ実施セラレタルトキヲ以テスヘシトノ英國案考量セラルコトナリ次ニ第二十二条规定ニ付テハ英國委員ハ交通諮詢委員会設立セラレ同委員会ニテ本協約実施ノ監視ヲナスコトナリタル今日最早存在ノ理由無シト謂ヒ仏國委員又第二十条アレハ充分ニシテ本条存置ノ必要ナント述ヘ之ニ対シ「セルビヤ」委員ハ右協約実施ノ成績ヲ調査スル為並ニ将来条文改修ノ機会ヲ作ル上ニ於テ極メテ重要ナル条項ナリトノ反対アリ結局之亦起草委員ニ附託セラル

バ  
ルセロナ交通会議ノ起草委員会法律家委員会及起草小委員会ノ構成ニ付報告ノ件

交通第五三号 (三月二十九日接受)

今次ノ交通總會議事方法ハ往電第一二号等ニ依リ既ニ御承知ノ通りニテ原則トシテ本會議及ビ全員委員会ニテ議事ヲ行ヒ特ニ議論多キ点ニ付テハ更ニ分科会ヲ構成シ以テ議事ノ進行ヲ計リツツアルガ此ノ外尚左記二個ノ委員会設置セラレ總會議事ノ完成ヲ期シツツアリ御参考迄

丁起草委員会

議長、副議長ノ全部並ニ Sir Cecil Hurst, Alvarez (新利) Reveillaud (イ) 聯盟事務局長代理 Attilio 総領事務総長 Haas 及ビ本代表ノ十一名ヲ以テ組織ス

II 法律家委員会  
Sir Cecil Hurst, Hostie (Member of Organization Committee) Reveillaud, Kaeckenbeck (總會法律顧問) 及ビ本代表ノ五名ヲ成ル

III 起草小委員会  
Sir Cecil Hurst, Hostie 及ビ本代表ノ三名ヲ以テ組織

一一 バルセロナ国際交通会議ニ閲スル件 セ〇一 セ〇三

八三八

在仏大使へ転電セリ

セ〇一 三月二十八日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

商船ノ積量及吃水線ノ國際的統一方ヲバルセ  
ロナ交通会議ニ提案スルコトハ英國側意見モ

アリ見合ス旨稟申ノ件

(三月二十九日接受)

國際河川協約案第四条ニ閲スル我方主張ガバ  
ルセロナ會議ノ同意ヲ得ザル際ノ新提案ニ付

貴電第八号ニ閲シ商船ノ積量及吃水線ノ統一方等ヲ本會議ニ提出スヘキヤ否ヤニ付本代表ヨリ英國代表ニ対シ過日懇談ヲ試ミタル處同代表ノ意見ニ依レハ之等ノ提案ハ此ノ會議ト本来ノ性質上異ニスルノミナラス英國代表者ハ本件ニ

閑スル専門委員ヲ帶同シ居ラス又各國代表者モ孰レモ當該問題ニ閑スル専門家ヲ伴ハサルコトト思考スルニ付右ニ閑スル提案ヲ本會議ニ附スコトハ英國代表者ニ於テハ困難ヲ感スル次第ノミナラス仮令提案ヲナストモ本件ニ通曉スル委員少キ本會議ニ於テハ経過ノ如何ニ依リ或ハ反ツテ其ノ目的ノ進捗ヲ害スルカ如キ場合ヲ生スルコトナキヤヲ惧ルルヲ以テ此ノ問題ハ寧ロ他日ノ機会ニ譲リ置ク方目的ヲ達スル為良策ナリトノ意見ナリ右様ノ次第ニテ右ノ見解ハ本

代表ニ於テモ至極尤モノコト思ハルニ付此ノ際提案ヲ見合スコトセリ右ニ御承知アリタシ

在仏大使へ転電セリ

セ〇三 三月二十八日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

國際河川協約案第四条ニ閲スル我方主張ガバ  
ルセロナ會議ノ同意ヲ得ザル際ノ新提案ニ付

別電 同日松田代表委員發内田外務大臣宛電報交通第五六号

右協約案第四条第二項新案

(三月二十九日接受)

國際河川協約案第四条ニ閲シ今日迄ノ會議内外ノ形勢ニ依レバ我國ノ提案タル第四条削減ニ賛成スペント思ハルモノハ希臘、奧地利二國ニ過ギズ殊ニ大國タル英、仏、伊共ニ反対意見ヲ有シ水路問題ニ付テハ有力ナル地位ニアル白、蘭共賛成セザルガ如ク從ツテ微弱ナル希臘一國ノ支持ノミニテハ(希臘ハ平和條約第三百三十二条ノ規定ヲ「ダニューブ」ニ閲シ維持セントスルニ止ル)到底御訓令ノ趣

旨ヲ貫徹スル能ハザルハ往電第一二三号具申ノ通ニシテ第四条削除ヲ最後迄主張スルハ好マンカラザルモノト思ハル翻ツテ同条ニ閑スル御訓令第二項タル「國際河川閉鎖ト雖沿河国ニ開放セラルベキ」趣旨ノ条項ヲ挿入スルコトニ付テモ各國多數ノ賛成ヲ得難キ現況ナリ其理由ハ右第二項ハ沿河国ガ一個ニ限ラル場合ニハ一応各國ニ支障ヲ感ゼシム

ルコト少キガ如キモ仮ニ沿河国数個国ナル場合ニ其意思ノ合致ニ依リ閉鎖セラレタル場合ヲ想像スルトキハ若シ其内ノ一国ガ開放ノ意思ヲ發表スレバ他ノ四國ノ反対アルニ拘ラズ自動的ニ当該河川ハ開放セラル結果ヲ來スコトトナリ多數沿河国ノ利益ヲ單一ナル一国ノ意思ニ依リ動カサン

ムルコトトナルベク各國ノ利害關係上多數ノ賛成ヲ得ル能ハザルノ大勢ナリ尤モ右ハ今後當方ニ於テモ出來得ル限各國委員ノ間ニモ内交渉ヲ為シ帝國ノ主義貫徹ノ為全力ヲ尽スベキハ勿論ノ儀ナルモ万一会議ノ大勢ヲ動カスコト能ハザルニ於テハ黒龍、松花二江ニ於ル帝國既得ノ地位ヲ擁護スルガ為ニハ第四条第一項トシテ別電ノ意味ヲ規定スル様提案スルノ心組ナリ

尤モ該提案スラ各國ノ同意ヲ得ベキヤ否ヤ全然疑無キ次第

一一 バルセロナ国際交通会議ニ閑スル件 セ〇四

八三九

註 外務大臣發松田代表宛第一二号電ニ付テハ三月二十六日外務大臣發松田代表宛第一四号末尾ノ註一参照  
(別電)  
三月二十八日松田代表委員發内田外務大臣宛電報交通第五六号  
國際河川協約案第四条第二項新案

交通第五六号 別電

Il est entendu que les dites Parties Contractantes ne pourront pas invoquer la stipulation ci-dessus pour porter atteinte aux droits existants d'autres pays déclouants des traités, aux ententes diplomatiques ou aux situations de fait reconnues.

Matsuda.

七〇四 三月二十九日 内田外務大臣ヨリ  
在バルセロナ松田代表委員宛(電報)

バルセロナ交通会議自由通過委員会可決ノ自由通過協約第十条ニ関シ修正ヲ可トスル点

## 二付訓令ノ件

### 第一八号

貴電第二十七号及往電第十四号ニ関シ

聯盟規約第二十三条(6)号前段ニ於テハ交通及通過ノ自由ニ關スル原則ヲ掲出シ同第二十条第二項ニ於テハ聯盟國トル以前ニ本規約ノ條項ト兩立セザル義務ヲ負担シタル聯盟國ハ直チニ該義務ノ解除ヲ得ルノ処置ヲ採ルベキヲ規定セルニ付貴電第二十七号ノ如ク現行條約ノ効力存続ヲ規定スルハ之ヲ表面ヨリ見レバ前記聯盟規約ノ違反ト見ラレザルニ非ズ從テ右第二十七号ノ案ハ前記第二十三条前文規定特定ノ地域ニ対シ例外的條約ノ存スル場合ヲ予見シ居ルモノト云フベク謂ハバ第二十七号案ハ規約第二十条ト第二十三条トノ趣旨ヲ折衷シタルモノ換言スレバ第二十条第二項ニ於テ直チニ廢棄スルノ義務ハ特定ノ場合ニ限り如何ニ寛大ニ取扱フベキヤヲ規定セルモノト見ザルベカラズ從テ貴電第二十七号前段ニ於テ Article 19 トアルハ Article 20 ト改ムルカ或ハ Article 19 and 20 ト改メザレバ前記趣旨明

其ノ理由トシテ嚮ニ聯盟總会ニ於テ否決セラレタル國際司法裁判所委員会ノ提議ト類似スルヲ以テ到底聯盟ノ同意ヲ得ガタカルベク且ツ戰爭後幾何モ無ク今日此ノ會議ヲ召集スルハ尚早ナリト論ジ之ヲ他日ニ延期センコトヲ求メ(安達副議長モ右否決事情ヲ説明ス)其ノ他種々討議アリ又議長ノ右兩案ヲ各別ニ採決セントスル提議ハ瑞西代表ノ右兩案ハ相互的ニ両案ノ採用ヲ条件トシテ妥協シタルモノナリトノ反対等アリテ破レ結局白耳義代表ガ折衷案トシテ提出セル決議案末尾ニ in matter of transit ナル句ヲ加フルノ案ヲ採用スルコトナリ本条修正案及決議案可決通過セリ

尚本條約討議ノ際葡萄牙代表質問ニ対シ英國代表ハ鉄道及海トノ間ヲ連結スル微小ナル道路アル特別ノ場合ニ限り道路ニモ適用セラルベキモノナル旨ヲ説明シタリ  
二、第十三条(註<sup>2</sup>) 同条ニ關シ印度委員及仏、葡委員ヨリ往電第二十八号ノ提案アリ之ニ対シ伊太利代表ハ之ニ反対シ印度ノ要求ハ第十条ニ依リ保証セラルベク又同案ハ一般的性質ヲ備ヘザルヲ以テ他ニモ同様ノ除外ヲ主張スルモノアルベシトテ伊太利ノ San Marino 及西班牙ノ Andorra の例

確ナラザルノミナラズ次句ノ In pursuance of the above provision トアルガ意味ヲ為サザルコトトナルベシ右御含ミノ上出来得ベクバ本点修正方併セテ御尽力アリタシ参考ノ為在仏大使ヘ転電アレ

七〇五 三月二十九日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

バルセロナ交通会議自由通過委員会第十一回

於テ自由通過協約案第八条及第十三条審議ノ件

別電

同日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛

電報交通第五八号

自由通過協約案第八条修正案並決議案

交通第五七号

(三月三十一日接受)

本月二十二日午後自由通過協約案委員会第十回會議ヲ開キ前回ニ引続キ同案ノ逐条討議ヲ為ス  
一、第八条(註<sup>1</sup>) 同条修正案ニ關スル小委員会ノ審査報告アリ則チ同条修正案並決議案ヲ別電(一)及(二)ノ通採用センコトヲ提議ス右報告ニ対シ英國代表ハ右修正案ニハ同意スルモ決議案ハ之ヲ引離スコトヲ主張シ英國委員「ハースト」氏ハ

ヲ挙ゲ白耳義代表ハ又中央亞弗利加殊ニ「コンゴウ」ノ事情ヲ説キ亞弗利加ニ対シ本協約ノ適用ヨリ除外スルノ必要無キ旨ヲ述べ仏葡修正案ニ反対シ仏國代表ハ其ノ提案ノ一般的ナルコト及第十条ハ本問題解決ニ不充分ナルコト並 Congo 及 Niger 流域ガ老大且ツ交通不備ニシテ本協約適用ニ便ナラザル旨ヲ説明シ更ニ地理的研究ノ為小委員附託説ヲ提議シ葡萄牙代表又印度及仏國代表ノ提案ヲ支持シ英國代表ハ印度ノ提案ト仏葡両國ノ提案トハ其ノ形式殆ド同様ナルモ其ノ理由ハ全然別個ノモノニシテ印度案ハ單ニ地理的事情ニ依リ本協約適用ガ行政的ニ不可能ナル特殊ノ理由ニ基ヅクニ反シ仏國案ノ亞弗利加除外ハ何等行政的理由ヲ有セズ又印度支那ニ關スル除外ハ重大ナル必要ノ程度ニ止ムルヲ要ストテ先づ印度案ヲ決議シタル上仏葡案ハ右ノ制限ヲ附シテ之ヲ小委員会ニ附託センコトヲ力説シ西班牙モ又亞弗利加ニ殖民地ヲ有スルヲ以テ右ハ今少シク一般的ノ規定ト為ス為之ヲ小委員会ニ附託センコトヲ支持シ支那代表又本案ハ南支那ニトリ關係アリトテ仏領印度支那ガ本條約ノ適用外トナル場合ニ於テ支那ガ仏國ト仏領印度支那ニ關シ通過ノ特別協定ヲ結フ場合ニ於テハ本協定ノ趣旨ニ

従フベキ眞仏國ニ於テ諒承セラレ度キ旨ヲ述べ終ニ議長ハ

印度案ヲ採決ニ附シ之ヲ協約本文中又ハ議定書ノ孰レニ記

載スベキカハ起草委員ニ附託ヤンコトヲ提議シ日本委員ハ

委員附託ヲ支持シ小委員会ヲシテ本協約ニ制限又ハ例外ヲ

設クベキヤ否ヲ審議セシメンコトヲ提議シ本会議ガ動モス

レバ本協約ノ適用範囲ヲ制限セントスルノ傾向アルヲ指摘

シ斯ノ如クンバ通過ノ自由ハ其ノ実効ヲ失フニ到ルベキヲ

以テ各國トモ寛大犠牲ノ精神ニヨリ導カレザル可カラザル

眞ヲ警告セリ然ルニ仏国代表ハ印度案及仏葡案ヲ同時ニ委

員ニ附託ヤンコトヲ主張シ印度支那ハ印度案ノ採決ヲ固執

セル為討議終結セズ結局議長ハ仏国代表ノ妥協案タル両案

ヲ議定書ニ記載セソコトノ提議ニ就キ採決ヲ計リタルモ決

セズ其儘散会セリ

在仏大使ニ転電セリ

註一 第八条ニ付テハ三月二十四日松田代表発内田外務大臣宛交

通第三六号末尾ノ註1参照

2 第十三条原案ハ前掲三月二十六日ノ交通第四七号電ノ末尾

ノ註1参照

(別 電)

三月二十九日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛電

## 始ノ件

(四月一日接受)

本月二十一日午前交通總会第十一回會議ヲ開キ議事方法及

國際河川協約案の大体討議ヲ開始ス

(一)議事方法、委員会及小委員会ノ審議ニ余裕ヲ与フル為自由通過案討議ヲ一時休止シ本日ヨリ國際河川案ニ関シ大体ノ討議ヲ開始シ更ニ各國代表ヨリ専門委員一名宛ヲ選出シテ委員会ヲ組織シ其報告ヲ俟チテ更ニ本會議ニ於テ討議スルコトトシ鉄道案ニ付テモ同様ノ方法ニ依ルベシトノ議長ノ提議異議無ク通過ス

〔1〕本會議、國際河川案ニ付例ニ依リ當該問題ノ担任副議長安達公使ノ演説次テ和蘭及希臘代表ノ演説アリタル後散会セリ其要旨左ノ通

安達副議長ハ全ク日本ノ立場ヲ離レ理事会ニ求ニ依リ「ゼネヴァ」総会ノ精神ニ基キ述べントスルモノナルヲ前提シ

而モ日本ノ國際社會ノ一員トナリタル以來世界的問題殊ニ

「ホロナイ」ノ如キ國際河川ヲ有スル旨ヲ附言シ進ンテ

際河川航行自由ノ理想ニ付巴里及維納會議ノ顧木ヲ詳述シ

一一 バルセロナ國際交通會議ニ關スル件 セOK

交通第五八号 別電

(三月二十一日接受)

1. Amendment. Article 8. The present Convention does not govern the rights and the obligations of belligerents and of neutrals in time of war. With this reservation, the present Convention shall be valid in time of war in the measure compatible with these rights and obligations.

2. Recommendation that as soon as possible the League of Nations shall invite its Members to meet for the purpose of drawing up new conventions intended to govern the rights and obligations of belligerents and neutrals in time of war.

在仏大使ニ転電セリ

セOK

三月三十日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

バルセロナ交通總会第十一回會議ニ於テ議事

ノ進行方法ヲ協議及國際河川協約案ノ審議開

ル国際河川ニハ協約ノ一切ノ条項ヲ適用シ其他爾ク重要ナラザルモノニハ第二条及第三条ヲ適用スルコトヲ明示スルヲ以テ足ルベク之和蘭ノ修正案ノ趣旨ナリト説明セリ

(希臘代表) 本協約案ハ国際河川航行自由平等ノ原則ニ抵触シ現ニ第四条第十四条及第十六条ニ重要ナル制限アルヲ指摘シ殊ニ第四条ハ黒竜江ニ閲スルモノナルガ地方的運輸ニ対シ航行ノ自由ヲ認メザルヲ非難シ国際河川ノ地方的運輸ノ自由ニ閲スル沿革及実例ヲ縷々詳述シ講和条約ノ帰スル所モ亦地方的運輸ノ無制限タルベキ旨ヲ論ジ第四条及第十六条ハ維納条約巴里条約「マンハイム」条約「コンゴー」河条約並講和条約ニ抵触シ從テ国際法ニ違反スルモノナリトナシ沿河国ト非沿河国トニ拘ラズ等シク既定ノ原則ヲ維持センコトヲ主張セリ

在仏大使ヘ転電セリ

七〇七 三月三十日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通総会第十二回ニ於テ国際河川

協約案ノ一般討議続行ノ件

交通第六〇号

(四月一日接受)

八条ノ意味ヲ本協約ニ於テ是認スルコト必要ナリト述ブ  
〔支那〕。本會議ノ結果国際河川制度ガ international rivers of general interest (〔ハイン〕「ダ・リ・カ・ア」) ノミナラス inter-riparian rivers ノモ適用セラルコトナレバ更ニ一步ヲ進メテ各個ノ場合ヲ十分考量ノ national rivers ニモ其ノ適用ヲ拡張スベキモ之ニ反シ本會議ノ結果 international rivers of general interest ノミリ其ノ適用ヲ限定スルコトナレバ右適用拡張ノ問題起ラザルベキヲ以テ本協約案前文中ノ as being understood 以下ハ前記制度ノ意義確定スル迄一時討議ヲ見合ハサレタシト提議スケ獨逸。本協約ヲ以テ国際河川制度ヲ創設(脱)定スルニ当リ注意スベキ点多々アリ即チ一国ノ或一ノ(不明)河川ガ国際化セラルヤ否ヤヲ考慮スペク又々航行自由ノ一般利益ト沿岸国家ノ特殊利益トノ調和ハ特ニ之ニ留意スルノ必要アリ尚又現在ノ状態ニ於テハ河川利用者ガ河川改善費ノ負担ヲ為スコトナレバ是等ニ付深甚ノ攻究アリタシト述ブ

〔国仏国〕。此種協約ノ根元ヲ為ス維納条約ハ單ニ沿岸国間ノ協定ニ過ギザル処今回行ハントスルハ之ヲ拡張シ国際聯盟

一一 バルセロナ国際交通会議ニ閲スル件 七〇七

(1) 伊国。同国ハ啻ニ国際河川自由主義ヲ承認スルノミナラズ国内河川ニ対シテモ大自由主義ヲ出来得ル限り適用スル考ナル旨ヲ述べ協約案及準備調書ニ於ケル河川航行自由ノ意義明確ナラサルノ(脱)アルコトヲ指摘シ仮令海ヨリ接便ナル小舟ヲ以テスルニアラザレバ統航シ能ハザル河川ハ当然本條約ノ適用ヨリ之ヲ除外スベク又航行ノ自由ヲ認ムル結果社会發展上緊要ナル水力利用法(灌溉、水力電氣等)ニ障害ヲ及ボサザル様注意スペシト述ブ

(2) 波蘭。河川通行ノ自由ヲ認ムルト共ニ沿岸国ノ享有スペキ利益ニ付テハ自由通過協約既ニ之ヲ定ムルヲ以テ国内河川並數国ノミニ閲係スル国際河川ニ付非沿岸国ニ沿岸国同様ノ権利特典ヲ与フル必要ナシ仍テ此ノ趣旨ヲ明ニスル為決議ノ形式ヲ以テスルモ可ナルニ付是非維納条約第一ヨリ

員全部ノ利益ノ為全世界河川ノ航行權ヲ設定セントスルモノナリ而シテ該設定ニ付特ニ注意スベキ原則二個アリ即第一、一般的利害關係アル河川ト共通的利害關係アル河川トヲ區別シ後者ニ付テハ関係国間ノミニテ一般協約ニ成ルベク合致スベキ特別協定ヲ作ルコト第一、前記第一種ニ属スル河川ニ閲スル紛議中沿岸国ト非沿岸国ノ争議及前記第二種ニ属スル河川ニ閲スル紛議中沿岸国ノ争議ハ共ニ本協約ノ定ムル争議解決方法ニ依ルコト之ナリト述ブ  
(3) 塞耳比亞。産業狀態幼稚ナル国家ガ其ノ産業ノ發展ヲ計ルコトハ當然ナルヲ以テ国際河川航行權ナルモノハ所謂技術的權利ノミニ限定シ其ノ河川ニ對スル行政權ヲ小舟ニ依ル通商權及該河川ニ瀕スル港ノ改善方法ヲ決定スル權利等ハ之ヲ沿岸国ニ留保シ得ル様規定スベク尚又荒廢地域ニ関スル特例ハ自由通過協約同様之ヲ本協約中ニ規定スルコト緊要ナリト述ブ  
(4) 智利及伯刺西爾。共ニ河川国際化ニ對シ満腔ノ贊意ヲ表スルト共ニ諸国ノ航行自由ト沿岸国ノ特別權利トノ調和ニ付充分ノ注意ヲ払フノ必要ナルヲ説ケリ

(5) 羅馬尼亞。永キ歴史ヲ有シ且國際的ニ重要関係ヲ有スル



松花江航行権ニ関シ支那側ニ於ケル利権回収運動近時劇甚ナルヤニ仄聞致候處黒竜江並松花江航行ノ船舶ニ對シテハ満鉄、東拓等ニ於テ出資關係ヲ有スルモノ多ク孰レモ地方ノ秩序回復ノ日ヲ相待居ル次第ニ有之航行権問題ノ経過如何ニ依リテハ多大ノ影響ヲ蒙ルコトト可相成被思料候ニ付テハ為念右航行権回収問題ノ経過情勢等御回示相成様致度此段及照会候也。

追而曩ニ一月二十七日附条一合送第一一八号「バルセロナ」交通會議ニ提出セラルヘキ各種提案仮翻訳案送付ノ件丙号添付「航行可能水路ノ國際制度ニ關スル條約案第一章國際水路第一条(定義)ノ解釈上松花江ハ(回)ニ規定セル別ノ水路ト認メラレ自然國際水路タル性質ヲ有セサルヤニ被解候処果シテ然ルヤ右ニ對スル貴省ノ御見解一応承知致度候。

七一一 四月一日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通會議第一回國際河川特別委員會ニ於ケル委員長及各國委員陳述報告ノ件

交通第六四号 (四月三日接受)

付勧告ヲ議定スルト共ニ第三種ニ付单ニ所論ノ開陳ヲ為スヘキナリ右趣旨ヲ明確ナラシムル為協約前文中ニ前記分類ヲ掲記スヘク又河川ニ付事理ヲ明確ニシ紛議ノ發生ヲ予防スル為列挙主義ヲ採用スベシ  
三、智利、數国ニ亘ル河川ト雖地理上又水路上格別ノ性質ヲ有シ之ヲ分類スルトキハ(イ)歐州諸国間ノ條約ニ依リ承認セラルル真ノ國際河川(同沿河國ノミニ利害關係ヲ有シ非沿河國ニ對シテ單ニ航行自由ノ利益ヲ与フルニ過キサル河川(在米國際河川))の數ヶ国ニ亘ル unexplored rivers ノ三種トナリ航行ノ自由ハ總テノ河川ニ付シ認ムヘキモ國際化ニ至リテハ其内ノ一部ノミニ對シ行フヘキモノナリ即チ前記第一種ノ河川ニ付テハ完全ニ航行ノ自由ヲ認メ第二種ノ河川ニ就テハ全米會議又ハ沿河國ニ於テ其航行ヲ規律シ第三種ノ河川ニ就テハ關係諸国政府ノミニテ其状態ヲ決定スヘキモノナリ尚本協約ハ国内河川ノ自由航行ニ關スル勧告ヲ決議スヘシ(一日)  
在仏大使ヘ転電セリ。

七一二 四月三日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

一一 バルセロナ國際交通會議ニ關スル件 七一一

三十日前安達副議長主宰ノ下ニ國際河川特別委員會第一回開催委員長ハ劈頭本問題ノ決定ハ新天地ノ開拓ニシテ其ノ議論ニ際シ一方沿河國ノ利益ヲ無視セサルト共ニ他方全人類ノ利益ヲ計ルヘク幾多困難ナル論点アルニ付諸員ハ務メ妥協ノ精神ニ依リ討議ヲ行フヘキコトヲ警告シ且ツ本問題ノ議定方法ニハ定義主義ト列挙主義トアリ巴里會議ニ於テモ其ノ採否ニ付論争アリタル結果最良且ツ實際的ナリトノ理由ニテ定義主義採用セラレタルコトヲ注意セリ次テ各國委員ハ概要左ノ通順次其ノ主張ヲ為セリ  
一、蘭國、事態ノ難易ニ鑑ミ航行ノ自由ト河川ノ國際化トハ區別スヘク河川ハ原則トシテ單ニ航行ノ自由ノミヲ認ムルニ止メ特別重要ナルモノニ限り沿河國ノ承諾ヲ得テ國際化スヘキモノナリ  
二、羅馬尼亞、河川ニハ general interest アルモノ limited interest アルモノ national interest アルモノノ三種アリ第一種ニ付テハ其ノ國際化ヲ企図スヘク第二種ニ付テモ行政監督機関關係ヲ除キ第一種ト同一ノ原則適用ヲ計ルヘキニ反シ第三種ニテハ本會議トシテ干涉スヘカラサルモノナリ即チ本會議ニ於テハ第一種ニ付規則ヲ定メ第一種ニ

### バルセロナ交通會議第十四回本會議ニ於ケル

#### 國際鐵道協約案ノ一般討議報告ノ件

交通第六五号 (四月四日接受)

三十日第十四回本會議開催國際鐵道協約案ノ一般討議ヲナシ本協約關係委員会ヲ主宰スヘキ副議長 Sir Francis Dent 先ツ立ツテ本件關係討議ハ自由通過協約ニ採択セラレタルト同一ノ趣旨ヲ國際鐵道ニ付採用セムトスルモノニシテ且此種精神ハ既ニ一八九〇年ノ「ベルヌ」條約ニ依リ歐州諸國間ニ實施セラルルモノナルニ鑑ミ討議ハ多大ノ日子ヲ要スルモノニ非ザルヘシト述ヘ次テ聯盟事務局ヨリ本會議ノ為特ニ参考人トシテ招聘セル國際運輸事務局副長ノ前記「ベルヌ」條約ニ關スル報告アリタル後各國委員順次概要左ノ通其ノ主張ヲナセリ  
一、伊國、既ニ數国間ニ採用セラルル主義ノ適用ヲ拡張セムトスル本協約ヲ歡迎スルコトヲ述ヘタル後殊ニ前文乃至第三条ノ諸原則ハ既ニ各國間ニ実施セラルル所ナレハ本會議ニ於テハ單ニ義務ノ性質ヲ明確ナラシムルニ必要ナル二三細末ノ明示ヲ計ルノミニテ充分ナリ第四条ハ諸國ノ經濟政策ニ大影響アル極メテ主要ナルモノナレトモ從來ノ形勢

ニ鑑ミ形式問題及合理的例外ノ明示ヲ除クノ外本会議ニテ  
討議セサルヲ可トスト謂ヒ最後ニ国境附近ノ鉄道ノ動力ニ  
電氣ヲ使用スルコト極メテ有用ナレハ該動力供給ノ義務ヲ  
隣接国ニ負担セシムルコト必要ナレハ第三条ノ次ニ一条ヲ  
加フル提議ヲ為セリ

二、瑞西、「ベルヌ」ノ国際運輸事務総局ノ組織及監督ニ

付責任アル同国ハ聯盟規約第二十四条ニ基キ可成速ニ聯盟

員ノ贊同ヲ得テ右事務総局ヲ聯盟ノ指揮ノ下ニ置カムコトヲ

ヲ望ミ第六条ニ修正案ヲ提出スト述フ

三、独逸、「ベルヌ」条約ノ趣旨ハ本協約第一条及第二条ニ規定セラルルノミナラス準備書類第八十八頁(註)ノ次第モアリ依テ本協約締結後モ同条約ハ依然有効ニ存続スヘシ唯同条約ハ戰後殊ニ改正ノ必要増大セリ即チ戰争ニ依ル領土ノ変更及為替相場ノ交調ノ為或種条約ノ改正ヲ絶対的ニ必要トスヘク又貨物ノミニ付規定スル同条約ヲ本協約第二条ト同様旅客及手荷物ニモ適用スル様改ムルノ必要アリ次ニ第三条ノ希望ハ一八九六年及一九〇七年ノ技術的協約ニ依リ既ニ歐州諸国ニ実施セラル所ナレハ本協約中ニ採用スルコト妥当且容易ナルヘキモ例ヘハ「ゲージ」ノ幅員ヲ修正

スルニ多額ノ費用ヲ要スルト一部実行困難ナル点アルヘク又第四条ハ「ベルヌ」条約第十一条ノ既ニ定ムル所ナルモ右条約ハ單ニ國際交通ヲ規律スルニ反シ本協約ハ更ニ進ムテ国内交通迄モ律セムトスルハ頗ル難事ナルヘキヲ指摘セリ

在仏大使ヘ転電セリ

註 独逸委員ノ陳述中準備書類第八十八頁ヨリ援用セル部分左ノ通

The League of Nations will not succeed in its mission by making a clean sweep of all that has gone before, but only, on the contrary, by setting its seal upon every effort which has already been made towards the cause of international co-operation and the achievement of the task now set before the League. It should lend its support to the maintenance, in their integrity, both as regards their methods and their field of activity, of any existing organisations of proven worth, such as that created by the Convention of Bern of October 14th, 1890.

セ一三 四月二一日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議第十五回本会議ニ於ケル

### 国際鐵道協約案一般討議及其他ノ議事ニ付報 告ノ件

交通第六六号

(四月四日接受)

三月三十一日午前交通總会第十五回本会議ヲ開ク

(一) 各国代表提出ノ運輸状態報告要領作製及報告者トシテ副議長「フエラス」(伊太利) 及西班牙代表ヲ指定ス

〔1〕「ユストニア」代表ヨリ聯盟国ニ非ズシテ交通總会ニ招待セラーネタル國即チ「ユストニア」「ハトビヤ」「リツニア」

ア」代表ノ権限ニ關シ先ニ本件ヲ附托シタル法律専門委員会ノ報告ヲ本会議ニ於テ決議センコトヲ提議シ異議ナク可決ス右報告ニ依レバ此ノ点ニ関スル聯盟總会ノ決議ハ單ニ専門機関(Technical organization)ニ於ケル是等諸国ノ取扱振ニ關スル希望ノ表示ニ外ナラズシテ本問題ハ交通會議自体ノ決定ニ委ネタルモノト解ス可キヲ以テ今次交通總会議委員会ニ於テ實際上之等諸国代表ニ發言投票並ニ分科会委員トナル等聯盟國同様ノ権利ヲ認メタルハ正当ナリトナス但シ之レ等諸国ノ権利ハ丁如何ナル場合ニモ participation of the work of the technical organization on transit ノ範囲ヲ越ニ可カラズ〔1〕殊ニ聯盟國ト明示セル場

合ニハ之ヲ認ムルノ限ニ非ザル旨ヲ決議セリ右ニ對シ「ユストニア」代表ハ「ユストニア」「ハトビヤ」及「リツニア」ヲ代表シテ満足ノ意ヲ述べタリ  
〔2〕前回ニ統キ鐵道協約案ニ關スル一般討議ニ入り大体左ノ通リノ諸国代表ノ演説アリタル後同案特別委員会成立ノ報告アリ同委員会ニハ國際河川委員会ト同様ニ諸国ヨリ一名宛ノ委員ヲ出スコトトナリ我方ヨリハ佐竹ヲ出ス右諸国代表ノ為セル演説ノ要点左ノ如シ  
伯刺西爾代表、南米殊ニ自國ノ鐵道事業ガ歐州諸國ト異ナリ未ダ創業ノ域ヲ脱セザル事情ヲ述べ本協約案ヲ大体ノ規定ニ止メ第四条ノ如キハ大体贊成ナルモ特別協約ニ於テ特種ノ場合ヲ設クル意味ニ修補シ一層完全ナラシメントヲ希望シ尚燃料豊富ナル國ハ之ニモシキ國ニ有利ノ条件ヲ以テ之ヲ供給セザル可カラズト主張セリ

西班牙代表ハ同國鐵道事業ニ於ケル何等差別的取扱ヲナサザル旨ヲ詳述シ協約案ニハ大体贊成ナルモ同國現在ノ鐵道ノ軌軌道ヲ変更スルガ如キコトニハ同意シ難キ旨ヲ声明シ尚「ベルヌ」条約加入ニ付目下商議中ナルコトヲ發言セリ

「ユーゴスラヴィア」代表、該案ニハ大体賛成ナルモ各國

ノ重要利益ニ関シテハ留保ヲナス可キ旨ヲ声明シ例ヘバ鉄道運賃ノ如キハ自國ノ裁量ニ一任セザル可カラザル旨ヲ論

ゼリ  
「チエッコスロバキア」代表、新興国ハ「ベルヌ」条約ニ加入シ居ラザルモ其ノ有要ナルコトハ一般ニ認メラルル處

戰後はガ適用困難ノ点アルヲ以テ同條約修正ノ為會議ヲ招集センコトヲ希望シ又ハ今次交通會議力國際運輸上 direct tariff 制定ニ便ナラシムル為諸國運賃率ノ統一必要ナリト論ジ又本協約案ハ余リニ一般的ナル故成ル可ク原則ノ適用範囲ヲ限定シ特別國間ニ特別協定ヲ結ビ地方的協約例ヘバ歐州協約並米利加協約等ヲ締結スル様規定センコトヲ主張シ尚歐州戰後ノ交通情態ニ鑑ミ材料分配ノ必要ヲ論ゼリ在仏大使ヘ転電セリ

七一四 四月四日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

バルセロナ交通會議第二回國際河川特別委員  
会ニ於テ國際河川協約案ノ前文ノ討議ヲ後廻

シトシ第一條討議ノ件

独逸及ビ伊太利委員ハ國際河川ノ定義決定ニ付テハ幾多困難アルベキニ依リ討議ノ順序トシテハ先ツ一國ノ他國ニ對シ負担ス可キ義務ノ範囲等實際問題ヲ定ムル第一条以下各条ノ審議ヲ行ヒ最後ニ前文ノ討議ヲ為スコト妥当ナリト主張シ「チエッコスロバキア」、奥地利、仏蘭西、勃爾牙利、支那及ビ瑞西各委員之ニ賛成シタル結果議長ヨリ議場ニ諮詢前文討議ヲ後廻シトナスニ決ス尙前記諸國中奥地利、仏蘭西、支那ノ三国ハ独、伊提案ニ賛同ヲ表スルニ當リ更ニ左ノ通り其主張ヲ附加セリ

(イ) 壇地利、前文ノ討議ハ必ズシモ最後ニ行フコトトセズ  
条文討議中機會アレバ隨時之ヲ為ス可シ

(ロ) 仏蘭西、一般的利害關係ト制限スペキ利害關係トニ依リ河川分類案ヲ維持ス  
(ハ) 支那、右仏國案ノ分類ニ從ヒ本協約適用ノ範囲ヲ定ムルコトノミハ逐条討議ニ入ルニ先ダチ議定スベシ

(二) 次デ第一條ノ討議ニ入り各國際河川ヲ列挙セントスル主

義ト國際河川ノ原則ノミヲ協約ニ掲ゲントスル主義トノ間ニ再ビ長時間ニ涉ル討論アリ結局意見一致ヲ見ズシテ散会ス双方ノ主張概要左ノ通り

明確ナル列挙主義ヲ主張セルハ仏及ビ羅馬尼亞ニシテ蘭國委員亦協約原案ニ依レバ仮令國際的利害關係重大ナラザル

河川ト雖第一条ノ原則ニ該當スルモノハ總ベテ國際河川トシテ取扱ハルルノ不都合アレバ少クトモ概括的列挙ヲ為ス

必要アリト述べ之レニ對シ原則主義ノ独逸委員ハ列挙主義ノ基準トセラル一般的利害關係トハ果シテ如何ナルモノナリヤト質問シ列挙論者ハ次ノ如ク種々説明セシモ何レモ

充分ナル満足ヲ全貢ニ与ヘズ英國委員ノ如キハ斯ク爭論ノ繼續スルハ要スルニ討論ノ定義決定セラレザル為ナリト云ヒ該定義ヲ先ツ議定スルノ必要ヲ唱ヘタリ

(イ) 羅馬尼亞、委員会ノ設置セラルモノニシテ其利害關係ガ沿河國ノミニ限ラレザル場合ヲ云

(ロ) 伯刺西爾、河川ガ世界各國ニ利害關係アリト云フハ公海ニ於ケル自由通路ノ延長ニシテ各國通商上ノ必要ヲ満足セシムルモノナルニ依ル故一般的利害關係ノ何タ

ルヤハ此經濟的要素ヲ根拠トシテ決定ス可シ

一一 バルセロナ國際交通會議ニ関スル件 七一五

波蘭、河川ノ國際的ナリヤ否ヤハ政治上又ハ經濟上ノ価値ヲ以テ定メ區別スベシ  
尚右第一条ノ討議ニ際シ蘭國委員ハ同条原案ガ自然河川ノミニ付定メ運河ニ付規定セザルノ欠点ヲ指摘セリ  
在仏大使ヘ転電セリ

七一五 四月五日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

バルセロナ交通會議第三回第四回國際河川特別委員会ニ於テ國際河川協約案第一條討議続行ノ件

交通第六八号 (四月七日接受)

三月三十一日午前國際河川特別委員会第三回開会前回ニ引続キ第一条ニ關シ定義主義ト列挙主義トノ可否ニ付壇地利、「ユーゴスラヴィア」、諾威、波蘭各國委員ノ討論アリ  
結局未決ノ儘安達議長ハ仮ニ定義主義ニ基キ第一条ノ討議ヲ試ミルコトシテ散会シ同日午後第四回委員会ヲ開キ右ノ如ク引続キ第一条ノ討議ニ入り日本、奥地利、伊太利、英國、印度、葡萄牙、支那、洪牙利ノ修正案及「ヴェネズエラ」、瑞西、「ユーゴスラブ」、諾威、波斯、獨逸等ノ諸諸提

八五三

## 一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 七一六

八五四

議ノ説明及討論アリ議論百出シテ決スル所ナク本邦委員（笠間出席）ヨリモ予テノ御訓令ノ趣旨ニ基キ國際河川支流ニ関スル修正案ヲ提議説明シ壞地利委員亦同様ノ修正案ヲ提議シテ之ヲ支持シタルモ右ノ有様ニテ結局何レモ未決ノ儘散会セリ

今亞細亜方面ニ関スル諸提議ノ要点ノミヲ不取敢電報スレハ左ノ如シ

印度委員、定義主義ニ賛成ナルモ例外ヲ設クルノ要アルヲ説キ印度領域内ニ仏國及葡萄牙植民地介在スル特別ノ事情ヲ述ヘ「カルカッタ」附近ノ Hugli 河ノ例ヲ挙ケ若シ本協約ヲ適用スルトキハ同河モ亦國際河川トナリ本協約ノ義務ヲ負フコトトナリ不可ナルヲ以テ航行ノ自由ハ之ヲ認ムルモ本協約ヨリ之ヲ除外センコトヲ提議ス

波斯委員、航行河川ノ自由開放、平等待遇並相互主義ヲ希望シテ Chatte-el-Arab 河及之ニ連結スル全部ノ航行河川ノ開放ヲ主張ス

支那委員、瑞西ノ主張タル海ニ接セサル國ノ海ヘノ接近ヲ便ニスル為原案ニ Accessible from the sea トアル。Accessible to the sea ニ改メンコトヲ提議シ又制限的利益ノ國

際河川ニ付テハ沿河國間ノ協定ニ委ヌルコトトシ若シ國際制度ヲ非沿河國ニモ及ホスコトトスルトキハ非沿河國船舶ヲシテ local navigation ヲ害セサラシムル噸數ノ制限ヲ設クル必要アリトシ尚積換ヲ認メス且曳船其他ノ設備ヲ妨ケストナシ又一般的利益ノ國際河川ニ付テハ本協約附屬ノ表ニ列挙スヘキコトヲ提議セリ

在仏大使ヘ転電セリ

七一六 四月五日 増原外務次官ヨリ  
古賀拓殖局長官宛

松花江航行権中國側回収運動ニ關シ情報通報  
ノ件

附屬書 三月二十三日在哈爾賓四王天陸軍大佐発參謀次  
支那側ニ於ケル本件航行権回収運動ニ關シ四月一日附拓庶第五八六号ヲ以テ御照会ノ次第有之閲承

一、客年十一月二十七日在哈爾賓松島總領事ヨリ当初松花江ノ航運ヲ目的トシテ設立セラレタル在哈爾賓戊通汽船公司ノ事業ハ之ヲ官営ニ移スコトト為リ財政、交通及農商ノ三省ニ於テ審議ノ結果二千萬元ノ公債ヲ募集シテ同公司ノ

航路補助ニ充テムトスルヤノ情報アリ其ノ真否確ナラサルモ支那側ニ於テ松花江航行ノ実權掌握ニ汲々タルハ之ヲ推察スルニ難カラサル趣ノ報告アリ

二、客年十二月十七日本省宛同總領事來電ニ依レハ一方在哈爾賓支那航運業者ニ於テモ本件航行権ヲ全然独占セムトシ露支國境河川航行権ノ獨占ヲ確保スルニ於テハ露國領土内ヲ流ル黒龍江ノ航行権（支那ハ條約上此ノ権利ヲ有セサルモ客年ハ事實上之ヲ獲得セリ）ヲ犠牲トスルモ可ナリトノ意氣込ナル趣ニ有之候

三、更ニ越エテ本年三月二十四日總領事カ陸軍側ノ得タル情報ヲ電報越候処右ニ依レハ支那商民一般ノ意嚮ハ松花江ノ航行ハ支那ニ船籍ヲ有スル船舶ニ限り之ヲ許シ外國船ヲ排除セムコトヲ希望シ一方支那政府ハ戊通公司ヲ官営トシ同公司以外ノ船舶ノ航行ヲ禁止スル意圖アルモノノ如シ而シテ愛璉條約ハ露支兩國ニ船籍ヲ有スルモノニ航行ヲ許スモ元來愛璉條約ニ松花江トアルハ支那側當時ノ考ニテハ「ハバロフスク」ヨリ拉哈蘇々（松花江ト黒龍江トノ合流点）ニ至ル間ニ過ギサリシヲ露國ハ之ヲ拡張シテ松花江全

部ニ及ホシタルモノナルカ故ニ該條約ヲ以テ露國ノ横暴ナ

ル時代ニ強要シタルモノナリト為シ之ヲ取消スニ至ルナキヲ保シ難キ氣勢ヲ示シ以テ拉哈蘇々ヨリ上流ニハ露國船ノ航行ヲ禁止セムトシツツアル趣ニ有之

四、尚三月二十九日本省着同總領事來電ニ依レハ果然哈爾賓一新聞ハ北京政府カ露國船舶ニ對シ松花江航行ヲ禁止スルニ決定シタル旨ノ報道ニ接シ為ニ露國船舶業者間ニ恐慌ヲ惹起シ極東共和國政府ハ本件ニ關シ支那政府ニ抗議セムトシツツアル旨ノ記事ヲ掲ケタル趣ニテ支那側本件回収運動益々進展シツツアリ或ハ支那一流ノ論法ヲ以テ無理押ニ本件ヲ實行シ從来露國々旗ノ下ニ松花江ヲ航行シ居タル我船舶業者ニ大打撃ヲ被ラシムルコト無キヲ保シ難キ情勢ニ之有候付テハ當省ニ於テハ事態ノ推移ヲ監視シ居ル次第ノ處貴局ニ於テモ事実確定ノ時ニ際シ執ルヘキ措置ニ關シ御心付ノ点アラバ御通報相成度右回答旁々申進候

尚本件ニ關シ在哈爾賓四王天大佐カ同地稅關長寒業家等ニ就キ調査シタル報告電報写別紙何等御参考迄ニ添付致置候追而「バルセロナ」交通會議ニ提出セラレタル航行可能水路ノ國際制度ニ關スル條約案第一条ニ依レハ御來示ノ通松花江ハ國際河川タルヲ得ス候ヘトモ同條約案ハ未タ

最終的ニ確定セサルモノナルハ勿論同案前文第二項ノ規定ノ次第モ有之尙前記會議ニ於テハ帝国政府ハ國際河川ノ支流モ亦其ノ天然的ニ遡上シ得ヘキ部分ハ之ヲ國際河ヨリ河口ニ至ル間ニ於テ其ノ國際河川カ國境ヲ貫流スル場合ニ於テハ當該支流ヲモ國際河川トナスヘキコトヲ主張居候条右ノ諸点御承知相成度此段申添候

## (附圖書)

三月二十三日在哈爾賓四王天陸軍大佐參謀次長宛電報寫

## 極秘

一月十六日戊通公司内ニ於テ航行権問題ニ關スル會議アリシハ事實ニシテ其決議ニ基キ北京政府ニ航行権回収ヲ建議セシカ同政府ハ本提案ハ必スヤ露國側ニ於テモ之ニ対シ黒龍江上ニ於ケル支那船舶ノ航行ヲ拒絶スルノ処置ヲ執ルヘキヲ以テ直ニ之ヲ採用シ難キ旨回答アリ之カ為露國航行権取消案ノ実現ハ一時挫折シタル觀アリシモ鬱勃タル回収熱ハ転シテ露人名義日本出資運輸業ニ對スル排斥トナリ近ク支那側ハ露國運輸業ノ内容ヲ審査シ日本出資船舶ニ對シテ其航行権禁止ヲ命スルノ意図アリト云フ過般当地支那海軍

司令部ヨリハ該出資船舶ノ現況ヲ問合セタルカ如キ其一班ヲ證明スルモノト云フヘシ

之ヲ要スルニ本航行権問題ハ今ヤ排日化セラレ日支合弁ヲ以テ進ムノ道モ亦前途頗ル暗澹タルモノアリ萬国交通會議ニ於ケル黒龍江國際問題ノ關係ヨリ我國ノ松花江航行権獲得成功ノ望ミ充分ナレハ格別然ラサレハ此際張作霖ト熟議シ本問題ヲ有利ニ解決シ置クノ要アリト認ム

因ミニ當地稅關長ノ談ニヨレハ昨年末某米人モ露國國旗ノ下ニ米國資金ヲ以テ松花江上ニ汽船業ヲ當マントセルカ支那側ノ傾向ヲ見テ之ヲ断念セルモノナリト、日本出資船舶ノ航行禁止案ハ之ト關係ナキヤ引続キ調査ヲ進メントス

ヲ証明スルモノト云フヘシ

七一七 四月六日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

バルセロナ交通會議第五回国際河川特別委員

会ニ於テ國際河川協約案第一条乃至第六條討

議ノ件

（四月八日接受）

一日國際河川特別委員會第五回開催前回ニ引續キ河川協約案第一条乃至第五條ノ討議ヲ為ス概要左ノ通

(一) 第一条、國際河川原則主義ト列挙主義トノ間ニ再び討論

繰返サンタル後 International waterwayノ代リ「Water-way in international concern ナル文字ヲ用ユルコトニ」決議スルト共ニ本条審議ノ為獨、澳、「ブラジル」智利、支那、英、仏、希臘、伊、日、蘭、波斯、葡、瑞西、「チニッコスロバキヤ」塞耳比亞ノ十六ヶ國委員ヨリ成ル分科會ヲ構成ス

〔註<sup>1</sup>〕、河川航行自由ヲ國際河川ノミナラズ其ノ他ノ河川ニモ認ムル為本条ヲ修正セントスル蘭國委員ノ提案及本条ト現在ノ事態トノ差異多大ナルニ鑑ミ即刻本条ノ適用ヲナスコト頗ル危險ナル垂細亞大陸ノ為 Article 16 ナル文字ノ次ニ or failing existing conventions or treaties ナル文字ヲ挿入スベシトノ支那委員ノ提案ハ何レモ其ノ討議ヲ後日ニ讓ルコトトナリ仮リニ本条ヲ原案ノ儘通過ス

〔註<sup>2</sup>〕、壞國委員ハ貨物ノ原產地及仕向地ニ基キ差別待遇ヲ為サザル趣旨ヲ一層明白ナシマル為本条第四行roperty and ムヘ間ニ either from the point of view of their provenance or destination, or from that of the direction of transport ム加くハコトヲ提議シタル結果之ヲ附加シ本条ヲ通過ス英國及智利委員ノ注意ニ依リ其

ノ末段無海岸國船舶問題ハ準備調書附錄三(a)ノ關係アレバ

後日改メテ審議スルコトニ決ス

〔註<sup>3</sup>〕、制限規定タル第十六條ト同時ニ審議スル為本條ノ討議ヲ延期ス

〔註<sup>3</sup>〕、仏國委員ハ本条ノ第三行 existing ナル文字ハ國家ガ當然ニ享有スル權利ト解セラルルノ虞アヘ which

it at present enjoys ヌ改ムルノ可ナルヲ主張シ委員會ハ此主張ヲ容レ本条ヲ通過シ且仏文原案中ノ reasonable ナ

ル文字ヲ自由通過協約案ニ合致スル様翻訳スル為起草委員会ニ掛ク

〔註<sup>4</sup>〕、本条ニ付英國委員ハ第六行 calculated in proportion to ナ又瑞西委員ハ第三行曰 navigable conditions ナ仏文原文ニ該當セズト注意セル結果起草委員会ニ掛クルコトレシ板ニ本条ヲ通過ス

在仏大使ヘ転電セリ

註一 國際河川協約案第一條左ノ通

Subject to the provisions contained in Articles 4, 14 and 16, each of the High Contracting Parties shall accord the free practice of navigation to the vessels flying the flag of any one of the other High

Contracting Parties on those parts of waterways specified above which may be situated under its sovereignty or authority.

2  
國際河川協約案第三条左ノ通

三  
團體冥三協約案第五條左ノ項  
tion for such vessels.  
Administrative measures.

Administrative m

Equality of Treatment.

In the practice of such navigation, and subject to the provisions referred to in Article 2, the subjects, property and flags of all the High Contracting Parties shall be treated in every respect on the basis of absolute equality, no distinction being made between the subjects, property and flags of the different riparian States, including the riparian State under whose sovereignty or authority the part of a waterway in question may be situated, or between the subjects, property and flags of riparian and non-riparian States; it being understood, in consequence, that no exclusive rights of navigation shall be granted on such waterways to companies or to private individuals, and that in so far as concerns the application of the present article the High Contracting Parties shall recognise the maritime flag of vessels belonging to any High Contracting Party not possessing a sea-coast, when they are registered in the one place situated in its territory selected as the port of registra-

On the waterways provided for in Article 1 and situated under its sovereignty or authority, each of the High Contracting Parties reserves to itself all existing rights of issuing regulations and of taking the necessary measures for the general policing of the country by the application of laws and regulations with regard to customs, public health, precautions against diseases of animals and plants, immigration, and the import and export of prohibited goods, it being understood that these regulations and measures, which shall be reasonable and shall be applied on a basis of absolute equality to the subjects, property, and flags of every one of the High Contracting Parties, including the Contracting Party by which they are issued, must not unduly impede the free practice of navigation.

七一八 四月七日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

右儀方傳へ轉雷七

バルセロナ交

**会二於テ國際河川協約案第七及八条討議ノ件**  
**別電** 同日在バルセロナ松田代表委員発内田外務

仏国提出ノ第八条第四項修正案

四月二日國際河川特別委員會第六回會議ヲ開ク

一 搭絶案第七条第一項「支拂ル未蘭ノ修正案貿易原案ハ  
under seal or in custody of customs agent ナル文字ハ

under seal or padlock or in the custody of customs agents ムルノ案ヲ討議ノ上同決シ猶船舶ニ無料宿泊

報告ニ記録スルコトニ決定シ次ニ同条表題 Customs For-

『Liberty of Transit, Customs Formalities』、と並んで

11' 同条末項ノ規定ヲ削除ヘシトニ伊太利委員ノ修正案  
 =対シ議論紛糾ノ結局白耳義、支那、英國、仏蘭西、伊太利、  
 和蘭、波蘭「モーナムラカマ」、「モーナムバロベキア」  
 「カルガイ」ノ十ヶ国委員ヨリ成ル小委員会〔附託ヤハル  
 11' 「モーナムラカマ」委員ヨリ同条第十一行「前項ノ  
 指置ハ此ノ場合モ適用セラル」キヨノ規定ヲ加ヘ亦同  
 条末項ハ新タニ通過協約第三条ノ規定決定スル迄留保ヘ  
 キロト及第六条規定ノ指置ハ通過船舶ニヤ適用スくシカ  
 ノ修正案提出アリ是亦幾多議論ノ末前記小委員会〔附託  
 ヤハル

四 支那松原川ニ黒龍江ニ跨シ同条兼二項第一段 exempt  
 from all customs formalities 云々を證據ハ submit to  
 the control of the customs established at a point of a  
 river forming the frontier ナル文句改メムロトニ提  
 議シ是亦前記小委員会〔附託ヤハル  
 五「モーナムバロベキア」委員ノ通過協約案第五条第  
 11項及二三項ハ税関封印ノト航行スル船舶ニハ適用ス  
 パカラバレノ修正案ヲ提出シ是亦右小委員会〔附託ヤハル  
 右ハ第七条ノ討議ヲ終結シ第八条ノ討議入ル

六 第八条第一項第一項及二三項「対シ羅馬尼委員ヨリ  
 各項トニ沿河國ノ利益ヲ害セタル範囲内制限シ且沿河國  
 ノ課税権ヲ確保セントスル趣旨ノ長文ノ修正案ヲ提出シ自  
 国ノ經濟上ノ利益ヲ他國ノ競争ニ対シ防衛セントスルモノ  
 ナル事ヲ説明スルヤ「タニアーブ」河ノ關係上壤地利、独  
 逸、希臘等ノ委員猛烈ニ反対シ採決ノ結果否決セラル又仮  
 国委員ヨリ同条第一項 droits et charges ノ droits et  
 redevances ニ改メ第三項 Tous droits de douane ou  
 assimilés perçus à l'occasion de l'importation (以下原  
 案ト同様) ニ改メ第四項別電第十二号ノ如ク修正ヤンコ  
 トヲ賛議ハリテ改シ更ニ「カルガイ」委員ノ修正提議アリ  
 ハ議論紛糾ノ結局次回迄ハ妥協案ヲ按出スルロトシシホ散  
 佈ヤシ

在仏大使ヘ転電ヤニ

#### 四一 國際河川協約案第七条左ノ項

##### *Customs Formalities*

The transit of vessels, passengers and goods on international waterways shall be effected under the conditions established by the Convention on Freedom

of Transit, with the following additional provisions:

When the two banks of an international waterway are within the same State, the customs formalities on goods in transit will be limited to placing them under seal or in the custody of a customs agent;

When an international waterway forms the frontier between two States, vessels, passengers and goods passing in transit shall be exempt from all customs formalities, except in those cases in which there are valid reasons of a practical nature for carrying out customs formalities in the part of the river which forms the frontier, but such formalities must not interfere with the facilities of navigation.

The dues provided for and authorised in Article 3 of the Convention on Freedom of Transit shall not apply to the transit of vessels, passengers and goods on international waterways.

2 「同案第十回」トハス「國際河川協約案」ノ署名  
 3 「國際河川協約案第八条左ノ項

#### *Use of ports.*

Subject to the provisions of Articles 4, 14 and 16, the subjects, property and flags of all the High Contracting Parties shall enjoy equal treatment with the subjects, property and flags of the riparian State under whose sovereignty or authority the port is situated,

# 1- ベルセロナ国際河川協約議定書 第110

for imports and exports, shall be equally accorded to imports and exports on the international waterway and the ports referred to above.

(同)

四月七日在ベルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通

第七回印

仏國提出ノ第八条第四項修正案

交通第七回印 別電

(同月九日接取)

Ces droits ne pourront être supérieurs à ceux qui sont perçus aux autres frontières douanières de l'état intéressé sur marchandises de même nature, de même provenance, ou de même destination et toutes les facilités qui seraient accordées par les Hautes Parties Contractantes sur d'autres voies de terre ou d'eau ou dans d'autres ports pour l'importation et l'exportation des marchandises seront également concédées à l'importation ou à l'exportation dans les mêmes conditions par la voie internationale et les ports visés ci-dessus.

Matsuda.

ハ第一条ト密接ノ関係アルヲ以テ是ヲ叢ニ第一条ヲ附託ヤル小委員会ニ附託シ尚同小委員会中「更ニ「ラテンアメリカ」ヨリ二名ノ委員ヲ追加セントヲ提議シ又「ペラグアイ」和蘭「サヌエズヨウ」委員等ハ同条ヲ以テ参加国ニ過大ノ義務ヲ負担セシムルモノナリトテ反対シ其他瑞西「ハーラスラヴィア」奥地利、「アラジル」等ノ修正提案アリ独逸亦同条ニ関スル紛議裁判所構成ノ必要ヲ説キ結局第九条ハ右諸修正案ト共ニ第一条同様ノ小委員会ニ附託シ其小委員中「サヌエズヨウ」及「ボリヴィア」委員ヲ加フルコムニ決ベ

二於ケル国際労働會議ニ於テ決議セル recommendation に基キ国際河川上ノ労働状態ヲ規律セントメ第十条ノ次ニ別電第七六号ノ通新ニ一条ヲ設ケンコトヲ提議シ来リタルニ付其詳細ナル説明ヲ聴取シタル後討議ニ入り會議ノ大勢ハ右提案ヲ本協約中ニ規定スルヲ欲セズ recommendation 及ハ希望トシテ挿入センコトヲ主張シタルニ対シ英國及ビ印度委員ハ本件ハ交通會議ノ権限ニ属セズトテ反対シ結局右提案ハ之ヲ現ニ存スル諸国際河川委員ニ移牒シ可成速ニ之ガ審議ヲ為サンコトヲ求ムルニ決ス  
(大塚理事ヘハ別途報告済)

五、国際河川特別委員会報告者トシテ伯国委員ヲ任命ス在仏大使ヘ転電セリ

註一 第八条ノ可決ヨリ除カレタル一項ニ付テハ後出交通第七

号ノ二ノ項参照

2 國際河川協約案第九条ハ国際河川ノ維持及改良ノ工事ニ關

スル規定ナリ

3 國際河川協約案第十条ハ国際河川ノ航行規則(Regulation of Navigation)ニ關スル規定ナリ

Monopolized Public Services of towage or other means of traction may be established with a view to facilitating navigation, by the unanimous consent of the riparian States or of the States represented on the international commission if one exists.

四、第十条ノ題ハ国際労働事務局ニ付此年七月「サノム」

八六二

110 四月八日 在ベルセロナ松田代表委員発 内田外務大臣宛 (電報)

ベルセロナ国際河川協約案第八、九、十条及国

命ニ於テ国際河川協約案第八、九、十条及国

國際労働事務局ノ提議ヲ審議ノ件

(同) 同日在ベルセロナ松田代表委員発内田外務大臣

宛電報交通第七五号

國際河川特別委員会採扱ノ國際河川協約案第八

条

11 同日在ベルセロナ松田代表委員発内田外務大臣

宛電報交通第七六号

國際労働事務局提議ノ國際河川協約案中ノ一ヶ

條

交通第七回印 (同月十日接取)

四月四日国際河川特別委員会第七回会議ヲ開ク

1、同協約案第八条ニ関シ仏国委員ニ前回詔議ニ関係セル各委員間ニ妥協案成立ヤル旨ヲ報告シ其内一項ヲ削除シ

結局別電第七五号ノ通可決ス

11、第九条ニ関シ智利委員ハ歐州河川ト亞米利加殊ニ「ハーランアメリカ」諸国ノ河川ト同一視スルヲ得ザルヲ以テ同条ノ規定ハ新世界ノ事態ニ適用スル様修正スルコト且同条

## Article 8. Use of Ports.

(四月十日接受)

As regards the use of all the ports situated on any international waterway and subject to the provisions of Articles 4, 14 and 16, the subjects, property and

flags of all the High Contracting Parties shall enjoy equal treatment with the subjects, property and flags of the riparian State under whose sovereignty or authority the port is situated, particularly as regards port dues and charges, it being understood that the goods to which the present paragraph shall apply are those originating in, or proceeding from or to, the territory of one of the High Contracting Parties.

The equipment of ports situated on an internal waterway and the facilities granted to navigation in those ports shall be available for public use to such reasonable degree as corresponds with the free and effective practice of navigation.

levied on imports and exports through the said ports, no difference shall be made by reason of the flag flown by the vessel carrying, or to carry, the goods, whether it be national or belonging to any one of the High Contracting Parties.

In the absence of special circumstances which would adequately justify an exception from this provision, on account of economic needs, these dues must not exceed those which are levied on the other frontiers of the State concerned, on goods imported and exported under the general conditions of the legislation of this State. All facilities which may be accorded by the High Contracting Parties on other land or water routes or in other ports for imports and exports of goods shall be accorded equally to imports and exports under the same conditions by the international route and the ports referred above.

In the absence of special circumstances which would adequately justify an exception from this provision, on account of economic needs, these dues must not exceed those which are levied on the other frontiers of the State concerned, on goods imported and exported under the general conditions of the legislation of this State. All facilities which may be accorded by the High Contracting Parties on other land or water routes or in other ports for imports and exports of goods shall be accorded equally to imports and exports under the same conditions by the international route and the ports referred above.

(別  
電二)

四月八日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通

國際勞動

(四月十日接受)

在仏大使へ転電セリ  
七二一 四月八日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）  
バルセロナ交通會議第八回国際河川特別委員  
会ニ於テ國際河川協約案第七条第八条第四項  
及第十二条乃至第十五条參看ノ牛

international navigable waterways should be as uniform as local conditions permit.

The High Contracting Parties whose territories border upon an international navigable waterway will endeavour, in collaboration with the International Labour Office, and after consulting the organisations of masters and workmen concerned, to conclude agreement relating to the general conditions of labour of persons employed in navigation on the waterways in question, in accordance with the principles laid down in Part XIII of the Treaty of Versailles and in the Draft Conventions drawn up by the International Labour Conferences.

國際河川特別委員會可決ノ國際河川協約案第七条  
(四月十日接受)

報告ハ英國委員ノ報告アリ右ニ對シ議論百出シタルガ採決ノ結果右報告ノ儘通過シ更ニ和蘭委員ヨリ同条第二項中ニ  
after the declaration and after a brief examination +  
ル文句ヲ加ヘンコトヲ提議シ採決ノ結果之亦通過ス結局別  
電第七八号ノ通可決セリ右ニ付注意すべキ点ハ第一項冒頭  
ニ As regards customs formalities ハ加ヘタルハ支那及  
「ヨーロッパヴィア」ノ修正案ヲ加味セルモノニシテ又同  
條表題ノCustoms formalities ハ同条末段ノ規定ニ鑑ミ之

ヲ更ムルノ要トリテハ「起草委員」附託スルロムシ仮

II Transit, Customs formalities ベセルセノナリ尚支那  
委員ノ黒龍江ノ國境税關ノ關スル修正案ニ付シテハ斯ノ如  
ク各条項ニ各特別ノ場合ヲ規定スルハ不可能ナルニ付之等  
類似ノ場合ヲ網羅スベキ一ノ特別条項ヲ設クルヲ可トス  
シテ該修正案ヲ採用セズ

II 第八条第四項修正案小委員会報告ハ英國委員ノ報告ノ  
儘左ノ通可決ス

The State under whose Sovereignty or authority a  
port is placed may withdraw the benefits of the  
preceding paragraph from any vessel of which the  
owner is proved to discriminate systematically against  
the nationals of that State, including companies con-  
trolled by such nationals.

III 第十一条「闇」、「日」「内河」等の委員会第1項  
IIへ shall inspect or cause to be inspected periodically  
the whole course of the waterway and ①通牒スベシ  
②提議アリ異議ナク通過シ同条より右ノ文句ヲ削除シ其  
他ハ原案ノ儘可決ス

## 2 第十一条の解説

The present Convention does not govern the rights  
and obligations of belligerents and of neutrals in  
time of war. With this reservation, the present Con-  
vention shall be valid in time of war in the measure  
compatible with these rights and these obligations.

### 3 第十一条の解説

The present Convention does not impose on any  
of the High Contracting Parties any obligation which  
would conflict with its rights and obligations as a  
Member of the League of Nations.

### 4 第十一条の解説

It must be understood that, subject to any stipu-  
lation to the contrary contained in a special treaty  
or agreement concerning any given waterway, the  
navigation of vessels of war, or of those connected  
with the policing or administration of the river, or  
in general with the exercise of any public authority  
in the name of a sovereign State, is in no way affected  
by the present Convention.

### 5 第十一条の解説

Each of the High Contracting Parties undertakes  
not to conclude with a State which does not adhere  
to the present Convention any agreement relating to

四、第十一(註2)条及第十二(註3)条、原案ノ儘可決ス

五、第十四条(註4)「闇」、「日」「内河」等の委員会第1項  
規定ナキ場合ニハ沿岸國ノ軍艦又ハ非沿岸國ノ軍艦ハ特  
許可アルニ非ザレバ他ノ沿岸國ノ領水ヲ通過スルコトヲ得  
ザル」ノ修正案提出アリ討議ノ結果同条ヲ小委員会ニ附  
託シ其委員ニ伯刺西爾、英國、仏國、「ウルグアイ」各委員  
及聯盟嘱托「オースチ」氏ヲ任命セリ

六、第十五条(註5)「闇」同条ハ自由通過協約案第十条及第十一  
条ノ規定ト抵触スル点アリトノ議論出テ結局同条ヲ右各条  
ト合致ヤシムル為之ヲ起草委員ニ附託スルロムニ決ス  
次ニ伊太利及和蘭委員ヨリ同条ノ次ニ自由通過協約案第七  
条ト同様ニ一國ノ安全及重大利益ニ関スル場合ニハ本協約  
ヲ適用セザル」ノ例外規定ヲ設クシシテノ提案アリ伊太  
利、瑞西、「ウルグアイ」英國、奥地利委員間ニ議論沸騰  
シ結局更ニ本件ニ直接関係ヲ有スル右數國委員間ニ協議ヲ  
重ネ其結果ヲ本委員会ノ報告スルコトシテ散念  
在仏大使ヘ転電セラ

## 三 第十一条の解説

國際河川特別委員会可決ノ國際河川協約案第七条

navigation on an international waterway which would  
be contrary to the terms of the present Convention  
if concluded between High Contracting Parties.

(原文)

国际河川特別委員会可決ノ國際河川協約案第七条

交通第七八節 別電

(因田・十四接致)

Article 7. Transit, Customs Formalities.

As regards customs formalities, the transit of ves-  
sels, passengers and goods on waterways of interna-  
tional concern shall be effected under the conditions  
established by the Convention on Freedom of Transit.  
In cases where transit takes place without tranship-  
ment, the following additional provisions shall be  
applicable.

When the two banks of a waterway of interna-  
tional concern are within the same State, the customs  
formalities on goods in transit, after the declaration  
has been made and after a brief examination, will  
be limited to placing them under seal or padlock or

in the custody of customs agents.

When a waterway of international concern forms the frontier between two States, vessels, passengers and goods passing in transit shall be exempt from all customs formalities except in those cases in which there are valid reasons of a practical nature for carrying out customs formalities in the part of the river which forms the frontier, but such formalities must not interfere with the facilities of navigation.

The dues provided for and authorised in Article 3 of the Convention on Freedom of Transit shall not apply to the transit of vessels, passengers and goods on waterways of international concern, it being understood that vessels in transit may be called upon to provide and to bear the cost of the food and accommodation of customs agents who may be strictly necessary for purposes of supervisions.

在仏大使へ転電ヤ

千一一一 四月八日 在バルセロナ松田代表委員会  
内田外務大臣宛(電報)

テ其ノ適用上就テハ何等差別的ノ待遇ヲ被ルコトナキハ解釈上別ニ疑ノ存セザル所ナリ  
在仏大使へ転電セリ

千一一三 四月九日 在バルセロナ松田代表委員会  
内田外務大臣宛(電報)

### 交通関係諸協約ノ調査手続ニ關スル交通総会 組織案中ノ規定本会議ニ於テ決定ノ件

別電 同日在バルセロナ松田代表委員会内田外務大臣宛  
電報交通第八一号  
右決定ノ組織案第十一第十三条

交通第八〇号

(四月十一日接受)

協約案第一即チ組織協約案第九条ニ関スル帝国ノ提案ハ往電第一二号ノ通予テノ御訓令通批准ニ関スル各國ノ不便ヲ除クノ趣意ヲ以テ保健協約ノ趣意ニ変更シタキ旨提案シ其理由ハ曩ニ委員会ニ於テ説明シ置キタル處各國共同様ノ感マ抱キ居ルモノノ多キ模様ニテ本件ハ其後起草委員会ニ附議ヤタルハ前記往電ノ通ナル處本件問題ノ解決ハ本会議ニ對シ監督ノ地位ニアル聯盟総会客年十二月八日(Contrôle quant à l'intervention vis-à-vis de ses membres)

一一 バルセロナ国際交換会議開会式 千一一

バルセロナ交通会議鐵道協約案委員会ニ於ケ  
ル同協約案審議経過報告ノ件

(四月十日接受)

交通第七九号

鉄道協約案ニ関スル委員会ハ四月一日ヨリ十日迄五回ニ亘り開会セラレタリ其ノ経過大要左ノ通則チ

第一条乃至第五条ハ多少修正ヲ加ヘテ之ヲ議了シ第七条以下ハ通過自由協約案ニアル規定ト同様ナルニ付其ノ確定ヲ待ッテ之ニ依ルコトナリ而シテ本案ヲ條約トスルヤrecommendation ルスルヤハ右委員会ニ於テ議論決セズ終リ又総会ノ決議ニ待ツコトムシ従ッテ之ニ関スル前文ノ決定ヲヤ総会ノ決議ニ譲ンリ

右委員会ニハ佐竹ヲ委員トシテ出席セシメタリ而シテ右委員会ニ於テハ正報告者トシテ佐竹ヲ又副報告者トシテ希臘ノ「ギリティス」ヲ指名セリ右議了シタル案ハ且下起草委員会ニ回附セラレ総会ノ議ニ附セラルルハ數日ノ内ナルベシ尚本協約案第四条ニ関シテ予テノ御訓令ハ右委員会ニ於テ佐竹ヨリ提議シタルモ該提議ハ同条ノ原則ニ対スル除外ヲ再ビ元ニ戻スガ如キ結果トナルノ故ヲ以テ全委員中一人ノ賛成者ヲモ得ザリシ次第ナリ尤モ右例外ノ如キ場合ニ於

決議及四月九日(L'organisation des Communications et du transit)決議ノ関係上如何ナル形ニ於テ日本提案ノ趣旨ノ本協約案中ニ採用スベキ(脱)文句ニテ之ノ目的ヲ達ベキヤ等ノ点ハ單ニ起草委員会ノ問題タルリ止ラスシテ「アノマー」(不明)カ研究ヲ命シ又「ジュネーヴ」ニアル聯盟事務總長「ムラヤン」氏トモ連絡ヲ取り前記聯盟総会ノ決議ト我提案トノ調和ニ付考究ヲ重ねタル結果終ニ本件組織協約原案第八条(本案ハ今回ノ確定案ニテハ第十一条トナヨリ)ヲ改メ会議ニ於テ提案ノ通過スルニハ出席代表者ノ三分ノ二ヲ要スベク又提案ヲ可決ノ場合ニハ該提案ヲ如何ナル形即チ条約(convention)、決議、勧告ノ三者中ノ何レノ形ニ依ルヘキヤヲ定ムベシ但シ客年十二月九日ノ前記聯盟決議ノ監督ニ服スヘキモノトノ意味ニ之ヲ規定シ所謂 Projet de convention ノ形式ヲ故ニ避ケルノトトヤリ次ニ原案第九条(確定案ニテハ第十三条トナレリ)ヲ改メ会議ノ終了後一年後ニ聯盟事務總長ハ各聯盟國ニ對シ同會議ノ結果ニ對シ當該國ノ与ヘタル結果ニ付報告ヲ求ムベシトノ意味ニ之ヲ規定シタリ而シテ本協約ハ四月六日本会議ニ於テ數國ノ欠席代表者ヲ除ク満場一致ヲ以テ可決

決定セラ案ハ右二条ノ外ハ大体ニ於テ原案ト趣旨ニ於テ異ナルコトナキモ其相違大要ハ別ニ電報スク

尚「アノマー」議長ヲ議長トセル大起草委員会（此会ハ

小起草委員ノ外各副議長聯盟事務局員參集）ニ於ケル内議

ニ依レハ今回確定セル各議案ハ各々條約又ハ決議等ノ形ヲ

以テ单ニシテ案トシテ別ニ最終議定書様ノ文書ヲ作製シ今

回ノ會議ニ右等ノ条項ヲ決議セリトノ意味ヲ記載シテ等各

国代表者調印ヲ為シ以テ之ヲ聯盟ニ報告スルコトニシ聯盟

ニ於テハ監督上之ヲ審査シテ各國ニ調印又ハ採用ヲ求ムル

コトノ段取りト為ス考ナリ從テ往電第七号ヲ以テ予テ上申

シ置キタル全權ノ委任状ノコトハ此際別ニ御詮議ニ及ハサ

ルコトメト御承知アリタク且前記ノ如キ文書ニ調印スルコト

ハ單ニ代表タル資格ニ於テ本官之ニ調印スルニ過キサルセ

ノナリ將又前掲二ヶ条ノ確定条項ハ別電第八一号ノ通ナリ

在仏大使ヘ転電セリ

（附 ■）

四月九日在バルセロナ松田代表委員内田外務大臣宛電報（交通

第八一號

バルセロナ交通会議ニ於テ決定ノ交通總会組織案第十一第十三

条

ures taken to give effect to the decisions of the Conference.

在仏大使ヘ転電セリ

Matsuda.

四月九日 在バルセロナ松田代表委員内田外務大臣宛（電報）  
内田外務大臣宛（電報）

### バルセロナ交通会議交通總会第十六回本会議

#### II 於テ交通通過總会及諮詢委員会組織協約案

##### 可決ノ件

交通第八二号

（四月十一日接受）

四月六日交通總会第十六回本会議ヲ開ク

一、交通通過總会及諮詢委員会組織協約案ニ関シ曩ニ本案

ヲ附托シタル起草委員及法律専門委員会報告者英國委員  
「サー・ヤシル・ハースト」ノ報告アリ議長ハ次イテ一々

朗読セシメテ異議ナキヲ議場ニ問ヒ討議ノ結果若干ノ修

正ヲ加ヘタル上最後ニ本案全部ヲ採決ニ附シタル處十個國

代表ノ欠席ヲ除キ三十一個國ノ全会一致ヲ以テ可決確定セ

リ其ノ既ニ電報セルモノ以外ニ修正ヲ加ヘタル重ナル点左

ノ如シ但シ本協約案「チックリスト」ハ長文ニ付別ニ電報セ

ズ若シ御必要ナラバ其旨御来示アリタシ

交通第八二号 別電  
(四月十一日接受)

Article 12. A majority of two-thirds of votes of

the representatives present is necessary for the final adoption by the Conference of a proposal mentioned in the Agenda. When the Conference has decided in favour of a proposal it must also determine, subject to the rights of control of the Council and of the Assembly of the League as defined in the resolution of the Assembly mentioned in the previous Article,

on the form in which the decision should be embodied, particularly whether recourse should be had to an international Convention, to recommendation for submission to Governments or to a draft resolution for submission to the Assembly of the League.

Article 13. At the expiration of an interval of one year after the closing of the Conference and subject to the rights of control mentioned in Article II, the Secretary-General shall address to each Member of the League a request for the information as to the measures taken to give effect to the decisions of the Conference.

(i) 組織案ト議事規則案トノ間ニ規定ノ重複ヲ避ケル為議事規則案中ノ三条項ヲ削除シ之ヲ組織案ニ移シ新ニ第二条第三条及第四条トンテ規定ス從ツテ原案第二条ハ第五条トナリ以下順次号数ヲ繰リ下グ

(ii) 各条ノ標題ヲ削除ス

(iii) 本原案第一条第四項ヲ削除シ之ヲ第三条ニ移ベ

(iv) 新ニ第二条ヲ設ケ聯盟国ニアラズシテ聯盟總会ノ決議ニ依レバ専門機関ニ参加スルヲ許サレ又ハ交通会議ノ決議ニ依レバ通過及交通機関ニ参加スルヲ許サシタル國ハ特別反対ノ規定ナキ限り交通總会及諮詢委員会ニ於テ聯盟國ト同一ノ地位ニ取扱ハルベキ旨ヲ規定ス

(v) 新タニ第三条ヲ設ケ原案第一条第四項ノ趣旨ヲ規定シ末尾ニ In advisory capacity ノ文句ヲ附加ス

(vi) 新タニ第四条ヲ設ケ聯盟国ニ非スシテ理事会ヨリ交通会議ニ招待セラレタル國ノ代表ハ右第三条ト同様ノ資格ニテ會議ニ参加スルコトヲ得ル旨ヲ規定ス

(vii) 第七条第五項ノ専門委員ノ任期ヲ一年トシ尚新ニ任命アル迄任ニ止ル可キ旨ヲ追加ス

(viii) 第八条ヲ設ケ若シ國際聯盟主催ノトニ通過及交通会議ニ

関スル一般協約成立スル場合ニハ諮問委員会ハ該協約ノ運用並之ガ改正ヲ要スル点ニ付報告スルノ義務ヲ有スル旨ヲ規定ス

(イ) 第十一条(原案第七条) 交通総会ノ議事日程ニ関スル規定ニ付起草委員ノ報告ニ対シ議論沸騰シ再び本件ニ付討議ヲ開始シ其ノ結果更ニ右報告案第二項以下ヲ修正シ結局(一) 聯盟国ハ議事日程ニ議事各項追加ノ請求ヲナスコトヲ得而シテ右事項ヲ議事日程ニ加フルト否トハ交通総会三分ノ二ノ多數決ニ依ルコトトシ又(二)緊急必要ノ事項ハ交通総会自ラ三分ノ二ノ多數決ヲ以テ議事各項ヲ追加スルコトヲ得ル旨ノ規定ニ改ム

(ア) 第十二条及第十三条(原案第八条及第九条)ニ関シテハ往電第八〇号御参照相成タシ

(イ) 最後ニ法律専門委員ノ提議ニ基キ新ニ本協約ノ改正ニ関スル一条項(四) Review Article 16)ヲ設ケ本協約ノ改正

ハ聯盟国代表者三分ノ二ノ多數決ヲ要スル旨ヲ規定セリ

二、尚右協約ト共ニ希望案(Recommendation)トシテ(一) 四ヶ年交通総会ヲ開会セザル場合ニハ諮問委員会ノ更新ニ關シテ聯盟理事会及総会ノ注意ヲ促スコト及(二)歎クトモ聯

盟国三分ノ一ノ請求アルトキハ交通総会ヲ開会セシムル様次回ノ聯盟総会ニ於テ囊ニ議決セル交通総会ノ召集ニ関スル決議ヲ改正ゼンコトヲ希望スル旨ヲ決議セリ  
三、本会ノ劈頭ニ当リ支那委員ヨリ将来開催サル可キ交通総会ノ期日及議事日程ハ支那其ノ他極東諸国ヨリ其ノ代表ヲ送ルニ相当ノ時日迄ニ送達セシムルコトヲ確保ス可キ規定ヲ組織協約案中ニ設クルコトヲ提議シ日本代表亦之ヲ支持シタルニ対シ議長ハ本件ハ先ニ「ジユネーヴ」總会ニ於ケル聯盟予算案ニ関スル決定ト同様右ハ必要ノ時期ニ到達スル様又特別ノ場合ニハ電報ニテ通告スルコトトシ其旨議事録ニ記載ス可シト答フ

事錄ニ記載ス可シト答フ  
在仏大使ヘ転電セリ

七二五 四月十三日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

### バルセロナ交通会議第十七及十八回本会議ニ

#### 於テ交通会議議事規則案ヲ審議可決ノ件

交通第八五号

(四月十八日接受)

四月七日第十七回本会議ヲ開キ予テ委員附託中ナリシ交通會議議事規則案(Rules of Procedure)ヲ討議ニ附シ引続

シ翌八日第十八回本会議ニ於テ右討議ヲ終結シ裁決ノ結果伯刺西爾及ビ哥倫比亞二ヶ国代表欠席ノ外三十九ヶ国代表全会一致ヲ以テ本案ヲ可決決定セリ右欠席代表中伯刺西爾代表ハ後ニ到リ賛成ノ意ヲ表シ他ノ一名ハ過般來病氣中ナル哥倫比亞代表ニ付本案ハ四十ヶ国代表全会一致可決ノコトトセリ右議事規則ハ十八ヶ条ヨリ成リ本会当初ニ於テ採用セル仮規則ト大差無ク其内容亦主義上ノ問題ヲ含マザルヲ以テ「テキスト」ハ別ニ電報セズ只右討議中一二注意スベキ点ヲ挙グレバ左ノ如シ

(イ) 第五条第四項ニ「交通会議ノ結果ニ成レル書類ハ總ベテ聯盟国ニ送附スル以前ニ理事会ニ送附スペク理事会ハPower of controlヲ行使スルガ故ニ云々」ノ規定ニ関シヨリ之ヲ削除スベシトノ異議ヲ生ジ或ハ理事会ハ交通総会ノ召集ヲ為シ又現ニ會議ニ其代表ヲ派遣シ之ニ干与セシメ「ヨーロッパラヴィア」及ビ「チエックラヴァーキア」代表

ト云ヒ或ハ交通會議ハ全然聯盟ノ独立機關ニテ他ノ掣肘ヲ居ルガ故ニ會議ノ結果ニ対シ「コントロール」ノ權能ナシ要セズ等議論沸騰シ幾多ノ小国ハ交通総会ヲシテ成ル可クト云ヒ或ハ交通會議ハ全然聯盟ノ独立機關ニテ他ノ掣肘ヲ理事會ノ掣肘ヨリ脱セシメント努力シ之ガ為始ド半日ヲ費

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 七二六

七二六 四月十六日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### 会ニ於テ國際河川協約案第十六条第十七条審議等ノ件

(四月十八日接受)

四月八日第十回国際河川特別委員会ヲ開ク

一、前回ニ引続キ第十六条沿岸貿易問題ニ付議論紛糾シ波蘭、白耳義、「ルーマニア」智利、奥地利、「ハンガリー」

「ヴァネズエラ」「ウルグアイ」「コロラヴィア」代表等ノ間ニ激烈ナル論争アリタル後結局曩ニ第一条及第九条ヲ附託セル小委員会ニ附託スルコトトシ同委員中ニ「ルーマニア」委員ヲ加フ

二、曩ニ留保セル第十四条ノ文句修正ニ付「ウルグアイ」委員ノ報告アリテ異議無ク通過ス

三、前回ニ於テ起草委員ニ附託セル第十七条ハ日本ノ修正案ト共ニ可決セラレ同時ニ支那ノ修正案ハ第一条及第九条附託ノ委員会ニ附託セラル

四、同日第十八回本会議ニ於テ波蘭ヨリ「コナト」希望案ハ適当ノ時期マテ審議ヲ延期スベシトノ提案出テ之ヲ国際河川特別委員会ニ附託シタル結果踏査ノ上更ニ之ヲ十八箇國委員ヨリ成ル委員会ニ附託シ原案ノ審議ヲ為サシムルコトニ決定ス

在仏大使ヘ転電ス  
註 前回即チ第九回ノ特別委員会ニ付テハ後掲交通第九〇号参照

別電 同日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛  
電報交通第八八号  
自由通過協約第十四条右規定

#### 交通第八七号

(四月十九日接受)

貴電第一六号ニ閑シ四月十一日自由通過案全委員会ニ於テ往電第二八号及第四七号所報ノ分科会報告後伊太利委員ヨリ同分科会ノ決議報告アリ委員会ハ僅少ノ字句ノ修正ヲ為シタル上之ヲ可決シ更ニ之ヲ翌日(十二日)第二十二回本会議ニ附シ結局別電第八八号ノ通自由通過案第一四条トシテ之ヲ規定スルコトニ可決確定セリ右第一四条各項規定ノ理由ヲ約言スレバ左ノ如シ

一、印度ニ於ケル八個ノ殖民地(仏国殖民地五個、葡萄牙殖民地三個)ハ何レモ地域狹少ニシテ且他国領域内ニ介在シ本協約ヲ厳格ニ適用スルトキハ密輸入ノ結果ヲ來シ之ヲ

#### 通第八八号 自由通過協約第十四条規定

交通第八八号 別電 (四月十八日接受)

#### Article 14.

In view of the fact that within or immediately adjacent to the territories of some of the Contracting States there are areas or enclaves, small in extent and population in comparison with such territories, and that these areas or enclaves form detached portions or settlements of other parent States, and that it is impracticable for reasons of an administrative order to apply to them the provisions of this Convention, it is agreed that these provisions shall not apply to them.

The same stipulation applies where a colony or dependency has a very long frontier in comparison with its surface and where in consequence it is practically impossible to afford the necessary customs and police supervision.

四、尚同条ハ前記ノ外類似ノ場合例ベア弗利加ニ於ケル殖民地内ノ特種ノ場合ヲモ予想シテ規定ヤルモノナリ又支那委員ハ仏国委員ト合意ノ上雲南省人ノ通過ニ付テハ當該両国間ニ特別協定ヲ遂グ可キ旨ヲ主張セリ

在仏大使ヘ転電セリ

#### (別電)

四月十六日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛電報交

】一 バルセロナ国際交通会議＝関スル件 セレセ



全条ヲ議ス概要左ノ通

(註<sup>1</sup>) 第十五条 bis 前回委員会ノ終リニ構成セラレタル葡、伊其他ノ数ヶ国委員ヨリ成ル小委員会先ヅ其成案トシテ別電ナラズ此種協約ノ前例ト見做スベキ「ライン」協約ニハ此種ノ規定ナシトノ理由ヲ以テ反対シ次テ各種ノ議論出テタルガ最後ニ「オスチ」ノ妥協案タル States upstream ト riparian States ト改ムルコトニ一決シ本条項ノ挿入ヲ可決ス

(註<sup>2</sup>) 第十六条、本条ノ討議ハ議論紛糾スベキ予想ヲ以テ其審議ヲ最終ニ延期シタルガ愈々討議開始セラルルヤ劈頭笠間委員ハ兼テノ御訓令ニ基キ準備委員以来ノ意見ヲ主張シ此種条項ノ存在ハ該協約ノ価値ヲ毀損スルノミナラズ航行自由ノ原則ニ反シ講和条約ヨリモ退歩セル規定ナリト述べ第(註<sup>3</sup>) 四条及本条ノ削除ヲ提議ス次テ希臘委員又累次ノ条約ニ依リ確立セル河川航行自由ノ原則ヲ本条ニ依リ覆サンコトヲ憂ヒ且聯盟規約ガ其ノ反対ニ航行自由ヲ規定セルコト並ニ該規約ヲ包含スル講和条約ノ他ノ部分タル第三三二一条ハ非

沿河国ニ River coasting traffic の權ヲ留保スル直接規定

アルコトヲ指摘シ本条削除説ヲ主張ス之ニ対シ波蘭委員ハ右両主張ト全然反対ノ精神ヲ更ニ明確ニ表明シ從来條約慣習上 Local coasting の權利ヲ留保スルヲ許サザリシ國際河川ヲモ含ム一切ノ河川ニ付沿河国ヲシテ該權利ヲ留保セシメ得ル様本条原案ヲ別電(註<sup>4</sup>)第一項ノ通り改正スベキコト並同一ノ趣旨ヲ以テ更ニ別電(註<sup>5</sup>)第二項ヲ附加スベキコト

(本項ニ閲スル説明ハ明日ノ會議ニ譲ル旨言明ス) ヲ主張シ智利及「ブラジル」委員亦河川上ノ沿岸貿易權留保主義ヲ唱へ果シテ議論沸騰セル結果「オスチ」ハ本協約案第一条及第九条ノ分科会ニ本件ヲ掛ク可キコトヲ主張シ塞耳比亞及仏国委員ハ該分科会ニ掛ク以前充分意見ノ交換ヲ為ス要アレバ不取敢討議ヲ翌日ニ延期スベシト唱へ結局議長ハ右延期説ヲ採用ス

(註<sup>6</sup>) 第十七条、塞耳比亞委員ヨリ自由通過協約案第十三条ト同様荒廃地域ノ為特典的規定ヲ設クル必要アリトテ別電(註<sup>7</sup>) 通提案アリ「オスチ」ノ注意ニ依リ別条トシテ本協約ニ挿入スルコトニ決ス

次デ支那委員ハ同國ニハ黒竜江以下幾多ノ國際河川アリ之

削除スベキコトヲ提議シ可決ス

(註<sup>8</sup>) 第二十一一条乃至第二十七条、議長ノ発議ニ依リ Protocol clause ニ閲スル此等条項ハ一括起草委員会ニ附託ス在仏大使ヘ転電セリ

註 1 國際河川協約案第十五条ニ付テハ四月八日發松田代表ノ文

通第七七号ノ註五参照

総長

3 協約案第十六条ニ付テハ二月二十四日内田外務大臣發在白

国安達公使宛第二六号電報末尾ノ註七参照

4 協約案第四条ニ付テハ右第二六号末尾ノ註五参照

5 協約案第十七条ニ付イテハ右第二六号末尾ノ註六参照

6 協約案第十八条ハ國際河川協約ハ独逸、奥地利等トノ講和

条約上ノ權利義務ヲ変更スルモノニ非ズトノ規定ナリ

7 協約案第十九条ハ國際河川協約ノ解釈又ハ適用ニ閲スル紛争処理ニ閲スル規定ナリ

8 國際河川協約ノ締約國ガ國際委員会又ハ常設交通通過委員会ノ勧告又ハ常設國際司法裁判所ノ判決ニ服従セザル場合ノ規定ナリ

(別電)  
四月十六日在バルセロナ松田代表委員發内田外務大臣宛電報文  
通第九一号

小委員会提出ノ第十五条案波蘭委員提出ノ第十六条改正案塞耳  
ヲ削除シタル関係上本協約案中ニ之ニ該当スル本条ヲモ  
依リ本条ト密接ノ関係等アル本協約案第一条第九条ノ議了  
ヲ見ル迄一時討議ヲ延期スルコトシ仮国案ヲ採用ス

(註<sup>8</sup>) 第二十一条、英國委員ハ自由通過協約案討議ノ際其第十六

出港料額提出ノ第十七條、一項附加案  
交通第九、一即 別種 (四月十九日擲入)

I. In special cases and for as short a period as possible, exception to the provisions of the principles in preceding Articles may be allowed by virtue of general or particular measures that any of Contracting Parties might be obliged to make, in case of serious events affecting the safety of the State or in case where the vital interests of the country would be involved, it being understood that the principle of freedom of navigation and specially of communication between States situated upstream and the sea should as far as possible be observed.

II. The present Convention must not be regarded as in any way affecting the right of reserving in favour of its own or any other flag the carrying out of local transport of passengers and goods between ports situated under the sovereignty or authority of one and the same State.

甲110 四月十八日 在ベルヤロナ松田代表委員会  
内田外務大臣宛(電報)

國際河川協約案第一條ノ定義中ニ支流ヲ記念  
セハマル我邦ノ成立不可能ノ情勢及我方ノ趣  
置ニ付報知ハサ

交通第九、一即

(四月十九日接受)

國際河川協約案第一条ノ定義中ニ支流ヲ包含セムルノ件ハ兼テノ御訓令ニ従ヒ極力帝国ノ主義ヲ貫徹スルガ為同意見ヲ有スル各國委員ト結束ヲ堅々右第一條ノ審議ヲ担任セル分科会ニ於テハ四月五日仮採決ノ結果帝国ノ主張ヲ可レスルセヨ白、波斯、葡萄牙、希臘、和蘭、奥地利、瑞西及日本ノ八票ニ対シ反対説「チヨウ」、塞爾比亞、仏蘭西、伊太利、伯刺西爾、「ギュネズモ」及支那ノ七票ニシテ、一応帝国ノ修正案ヲ可決セリ然ル、國際河川支流ヲ擧ゲテ國際監理ノトニ置クヨヘ「ダリヨー」河沿河ノ巴爾幹諸國ハ勿論南米名國ニ於テヤ、一國經濟上ノ死活問題ニ関シ若シ此主義ニシテ採用セラレバカ少クトモ前記ノ七国其他羅馬尼亞及前記以外ノ南米名國ハ断ジテ此協約ニ加ハラザル可ク折角今日迄妥協互讓ヲ主ニシテ審議シ来リタル苦心申

Similarly agreements participated in by a part only of the riparian States situated on one and the same waterway recognised as of international interest may be concluded with the object of reserving for the flags of these States, the right to carry out the local transport of passengers and goods between ports situated on this waterway and under the sovereignty or authority of these States.

III. In accordance with Article 23 of the Covenant of the League of Nations any Contracting Party which may bring forward, as a valid reason for the non-application of any of the provisions of the present Convention to all or part of its territory, a serious economic situation resulting from devastations brought about by enemy troops on its soil, during the war 1914-1918, shall be considered as temporarily freed from the obligations resulting from the application of the said provisions to all or part of its territory.

在仏大使<sup>ク</sup>転電ヤニ

Matsuda.

水泡ニ飯スグシトノ反対論甚ダ有力トナリ前記採決ノ際右ノ理由ニテ棄権シタル英國委員ヨリモ再ニ日本政府提案ヲ撤回シ吳ルル様運動シ白耳義ノ如キモ理論上ハ日本ニ賛成シタルニ其結果ガ斯ク重大問題トナル様ニテハ思ヒ返スハ外ナシト云フニ至リ他國ノ委員モ交々日本ノ主張ヲ緩和スル様勧説シ來レルニ付帝國側ニ於テハ請訓ヲ理由トシテ暫ク固執シ居タル處最早本協約ノ他ノ部分ハ審議ヲ終ラントシ協約ノ運命右ノ一点ニ関スルコトトナリタルノミナラバ本案ニ対シ委員会及本會議ニ於テ多数ヲ占ムルコトハ殆ト不可能ナル形勢略明瞭トナリタルヲ以テ去ル十三日分科会ニ於テ帝國ハ列國間ノ互讓協調ヲ重ンズル結果一応修正案ヲ撤回スベシ唯帝國ハ國際河川ノ支流ハ勿論国内河川ニ対シテセバキ万國ニ向ツテ開放スルノ主義ヲ自由平等ノ主義ニ基ツキ万國ニ向ツテ開放スルノ主義ヲ支持スルガ故ニ此主義リシテ若干國ニテセ本協約ニ認メラルルヲ得ベ帝國ハ斷然支流ヲ擧ゲテ國際監理トスルノ主義ヲ拠棄スベキ血ヲ述べ「オスチ」ノ提案ニ基ツキ本協約外ニ一ノ「プロトコル」ヲ作り此「プロトコル」ノ調印國ハ相互主義ニ基ヅキ国内河川(即チ國際化セラレザル支流ヲ含ム)ニ航行自由ノ原則ヲ適用スルノ意見ヲ支持シタ

ル上右修正案ハ「先づ撤回セリ尚右「プロトコル」ハ曰下  
全委員会ニ於テ審議中ニ付起草確定次第追電スベシ將又帝  
國第二案即若干ノ支流ヲ提議中ニ包含セシムルノ主義ハ事  
実上第一案ト何等相違ナク第一案ニ反対ナルモノハ勿論第  
二案ニ反対ナレバ分科会ニ於テモ終始同一視シテ別段区別  
シ居ラザル次第ナリ

在仏大使ヘ転電セリ

七川一 四月十八日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

**自由通過協約案中入国禁止ノ旅客ノ通過禁止**

**条項ノ解釈ニ關シ我方ノ執リタル措置ニ付報**

**告ノ件**

交通第九四号 (四月十九日及二十日接受)

極秘

自由通過協約案第五条第一項入国禁止ノ旅客ノ通過禁止条  
項ハ從來ノ行懸リモアリ帝国委員ニ於テ最モ深キ注意ヲ払  
ヒ居リタル所ナルガ各国ヨリノ提案アリ該提案ニハ文句ノ  
修正(drafting)ニシテ原案仏文 pour des raisons de santé  
ノ前ニアル dans l'un et l'autre cas ヲ削除スル並記載ア

リ次テ本条ハ總全委員会ヲ經テ分科会ニ移サレタリ該分科  
会ニハ巴里以来安達公使ト共ニ本条ノ歴史ニ精通セル笠間  
委員ヲ出席セシメタリ分科会議長ハ英國主席委員 Sir Lle-  
wellyn Hubert Smith ナリ而シテ右第五条ノ分科会ニ於  
テ「スミス」ハ右ノ一句ハ英文ニハ存セズ仏文ニノミ存ス  
ルガ故ニ英文ト文章上ノ調和ヲ保ツ為トテ之ガ削除ヲ主張  
シタルヲ以テ笠間ヨリ右ハ英文ニハ存セザルモ仏文ニハ衛  
生公案ノ理由ヲ旅客禁止ニ密接ニ関連セシムルノ目的ヲ以  
テ態ト挿入シタルモノニシテ之ヲ削除スルトキハ英文ハ鬼  
ニ角仏文ニ於テハ誤解ヲ招ク虞アリト反対シタル処「スミ  
ス」ハ此ノ文句ハアルモナキモ同様ノ意味タルベク存置ス  
レバ却テ後段記載ノ動植物ノ伝染病ノ原因ガ旅客ノ入国禁  
止理由ニモカカルガ如ク読メ甚ダ不都合ナリト主張シ各國  
委員モ同説ナリシヲ以テ笠間ハ原案ノ意味ヲ変更セザルロ  
トヲ条件トシテ右一句ノ削除ニ同意セリ越エテ三月二十一  
日全員委員会 (Commission en séance plénière) ニ於テ右  
条文討議ノ際分科会ニ於テ書記局長「ベース」(Haas) ハ他  
ノ修正ノ説明ト共ニ右ノ文句ヲ削除シタゞべ parce qu'ils  
(les mots) s'appliquent aux marchandises et non pas

aux voyageurs ヲ説明シ次テ將ニ同条ノ採決ニ入ルニ際シ  
希臘委員 Scassi (前記分科会ノ一員) ヨリ此ノ文句ヲ削ル  
トキハ旅客ノ入国禁止ニハ理由ノ制限ナキコトト解釈セラ  
ルル虞ナキヤト質問シタルニ対シ英國委員前記「スマス」  
ハ分科会議長タリン関係上之ニ答ヘテ正ニ其ノ通ナリトテ  
次ノ如ク述べタリ

即チ I think I can reassure the Greek Delegate, by the  
removal of the words, certainly reasons of health as  
provided for, and also any other reason which induces  
a country to prohibit the immigration of particular  
classes of persons, it makes it more general. It does not  
take out any reasons; on the contrary it leaves it to  
the state.

當時議場ニハ安達公使ハ副議長席ニ在リ又本官ハ笠間並ニ  
本邦専門委員ト共ニ各自自席ニ在リタルガ「ベース」ノ為  
シタル報告中ノ前記十数語 (此報告ハ草稿ヲ作ラズ即席ニ  
ナシタルモノニシテ勿論原稿ハ本邦委員ノ手ニ入り居ラ  
ズ) キ将又前記英國希臘両國委員間ノ問答モ皆着席ノ儘発  
言シタル為本件ニ関係ナキ他国委員ニハ問題ノ目的サニ分

的ノ方法ヲ執ルコト

〔第一案ニ関シテハ前記ノ如キ形勢ナルノミナラズ若シ予測ノ通日本ノ希望ト反対ノ解釈ニ決スルトキハ日本ハ本条約ヲ認ムルヲ得ズ從テ他ノ箇条ノ我ニ有利ナルモノアルモリ第一案以外ニ其方法ヲ求メザルベカラズ夫レニハ我解釈ノ妨ゲトナルベキ点ヲ芟除スルノ手段ヲ執ルノ外ナシト一応決定シ之ガ行ハレザル時ハ不得已第一案ヲ採ルコトト決定セリ該手段トハ〔a〕右「ハース」ノ報告中前記仮文文句ヲ〔不明〕ノ文句ニ変更セシムルコト〔b〕前記英國希臘両委員間ノ応答ヲ議事録中ヨリ抹殺スルコトノ方法ヲ講ズルコトトシ爾來此ノ善後策ノタメ安達公使ハ議長及ビ「ハース」ニ懇談シ又笠間ハ英國次席委員ニシテ英國「チレガシオン」ニ於テ本件ヲ担当シ居ル巴里以來懇意ノ Général Mance トシ爾來此ノ善後策ノタメ安達公使ハ議長及ビ「ハース」ニ懇談ニ及ベリ而シテ右 Général Mance トリ笠間ヘノ内談ニ依レバ元来英國ハ巴里ニ於ケル日本側ノ主張ヲ承知シ居ルモ仏文ニ右ノ一句ヲ挿ミタルハ當時ノ日本委員安達公使ト書記局殊ニ「ハース」トノ内談ニ出デ全ク英國ノ与リ知ル所ニアラズ英國トシテハ本条ノ解釈ヲ明白ニシ置クト

一方書記局ニ於テハ議事録中ノ右応答ヲ抹消スルコトハ仮令当事者ノ合意アルモ為シ能ハザル取極トナリ居リ従ツテ何レカ一方ヨリ議場ニ於テ発言シテ先日ノ議事録記載ノ応答ヲ取消スノ外ニハ何等ノ方法ナシトニシテ他ニ名案ナン仍テ安達公使ヨリ希臘委員ニ對シ種々懇談ヲ遂ゲタル處同委員ニ於テハ我ニ非常ノ好意ヲ表シタルモ素リニ前日ノ発言ヲ取消ス理由無ク言ヒ方ノ如何ニ依リテハ同人面目ヲ毀損スルニ依リ種々協議ヲ凝シ又一方「アノトー」議長ニモ安達公使ヨリ内談シ同議長モ大ニ同情シ種々考究ノタリ

結果四月十一日午前ノ総会ニ於テ本案確定文決議ノ際第五条ノ朗讀済ミタル後議長ハ希臘委員ノ発言ヲ誘ヒ同委員ハ本条ノ解釈ハ別ニ「ローマンテーブル」ヲ要セザルニ付先日ノ質問ハ之ヲ撤回ベト述べ〔L'Article est clair. Son interprétation n'appelle aucun commentaire. Par conséquent, je retire la demande d'explication que j'avais faite.〕其通議事録ニモ登載セラレ英國委員モ約束通沈黙ヲ守リ其他ニハ何等ノ発言者モナク第五条ハ通過確定セリ尚右第五条ニ關シテハ討議用ノ為配布シタル条文中 voyagEURS ノ後ニ如何ナル間違ニヤ ou des marchandises ナル三字ガ飛込ミ居リタリ之ハ無論早速訂正改刪セシメタルガ如キ出来事アリ將又安達公使ヨリ「アノトー」議長ニ仏文ノ解釈ヲ相談シタル処同議長モ事態ノ重大ナルニ鑑ミ種々考ヘ仏文ノ語格ヨリ云くべど l'entrée sur ces territoires est prohibée ノ次ニ「ローマンテーブル」ヲ打タザンベ正ニ衛生公安ノ理由ハ日本ノ解釈通 voyageurs ニカカルコト明白ナリトノロトニシテ之ハ何人ヨリ見ルモ正シク間違ナキ意見ト考ヘラレ英國側ニ於テハ起草委員ノ一人「ハースト」ハ反対シタルモ本官ハ更ニ議長ノ特許ヲ得テ前記ノ改刪ノ

文ニハ「ローマンテーブル」ヲ除キテ配布セシメ Général Mance ト議場内ニ於ケル反対ヲ強ク抑ヘテ終リ迄沈黙ヲ守ラシメ以テ兎ニ角本条ヲ通過セシメタリ但シ英文ニハ「ローマ」ハ存スル次第ナリ

右ニテ前記第二案ノ〔B〕ノ方法ハ幸ニモ辛フジテ行ハレタルモ〔A〕ノ方法即チ「ハース」ノ報告中ノ文字ノ改竄ハ表面上如何トモ為シ難キモ安達公使ヨリ同人ニ懇談ノ結果(脱)ノ十数字ベ les mots "Dans l'un et l'autre" ont été supprimés dans le but de mettre le texte français en harmonie avec le texte anglais ノ如ク愈々活版ニテ確定的印刷ノ際ニベ校訂スルローレ口約ニテ念ヲ押シ同人モ含ミ居ル次第ナリ

上記ノ如ク本件ハ今回ノ参列国間ニ於テハ実際上ノ問題トナルコトナク他日米國ガ本条約ニ加入スルコトアル場合ニ始メテ帝国トノ関係上問題トナルベキモノナリ故ニ右ノ場合ニ備フル為トシテハ前記ノ手段丈ニテハ将来ノ為絶対ニ疑義ヲ一掃シ去リタル次第ニハ非ズ英國ノ態度ハ最モ戒心ヲ要スル儀ナルガ兎ニ角仏文ノ解釈上ニテハ充分ニ吾ガ主張貫徹シ居リ且前頭ノ事情ノ下ニ於テハ最善ノ方策ト認メ

右ノ通取計ヒ置キタル次第ナリ本件ハ何レ本邦ニ於テ本協約調印御決定前ニハ笠間事務官モ帰朝スベキニ付詳細ノ事情及攻究ノ結果ハ同人ヨリ親シク開陳致スコトシ取敢ヘズ本件ノ成行茲ニ電報ス  
在仏大使ヘ転電セリ

午III 一 四月十八日 在バルセロナ松田代表委員会  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議第十一回本會議ニ於テ  
自由通過協約案ヲ可決次回本會議ニ於テ最終  
議定書第一部ヲ可決ノ件

別 聞 同日松田代表委員会内田外務大臣宛電報交通第九  
六号  
右バルセロナ交通会議最終議定書第一部

交通第九五号

一、四月十四日第十一回本會議ニ於テ自由通過案 $\wedge$  convention 又 $\wedge$  regulation  $\rightarrow$ 何ントナベくキヤハ問題 $\wedge$ 付法律専門委員長「ヤーヤシル、ハースト」 $\rightarrow$ 報告アリ即チ從来ノ経験其他前例 $\wedge$ 議事録ニ之ヲ記載セリ  
ment $\wedge$ 区分スルノ便益ヲ説明シ且組織案及議事規則案ト

尚同案 $\wedge$ 明記ヤル如ク既 $\rightarrow$ 協約案調印ノ全權ヲ有スル代表ハ直ニ各種ノ協約案其モノ $\wedge$ 調印スルコトヲ得ル次第ナリ  
在仏大使ヘ転電セリ

(附 聞) 四月十八日松田代表委員会内田外務大臣宛電報交通第九六号  
バルセロナ交通会議最終議定書第一部

交通第九六号 別電 (同四十九日及五十日摺取)  
Final Act of the General Conference on Communications and Transit.

The General Conference on Communications and Transit, convened in accordance with the Resolution of the Assembly of the League of Nations, met on March 10th, in the Palace of the Ayuntamiento of the City of Barcelona.

The Conference was charged by a Resolution of the Assembly of December 9th, 1920, with the task of drawing up, under conditions laid down in the Resolution regarding the relations between the Technical organisations and the Council and the Assembly

of the League of Nations, the measures which Members of the League are called upon to take in fulfillment of that part of Article 23 (e) of the Covenant which concerns freedom of communications and transit, as well as the General Conventions on the international regime of transit of ports, waterways and railways referred to in Articles 338 and 379 of the Treaty signed at Versailles on June 28th, 1919, (and to the corresponding Articles of the other Treaties of Peace).

The Council of the League distributed to Members of the League the agenda for the Conference together with drafts which might serve as the basis of its discussions, the agenda and the drafts having been prepared by the Provisional Committee established for the purpose.

The Council of the League nominated as the President of the Conference Monsieur Gabriel Hanotaux and as Vice-Presidents, (names of Vice-Presidents

11 バルセロナ国際交通会議(閣ベル件) 卌III  
右ノ通取計ヒ置キタル次第ナリ本件ハ何レ本邦ニ於テ本協約調印御決定前ニハ笠間事務官モ帰朝スベキニ付詳細ノ事情及攻究ノ結果ハ同人ヨリ親シク開陳致スコトシ取敢ヘズ本件ノ成行茲ニ電報ス  
在仏大使ヘ転電セリ

午III 一 四月十八日 在バルセロナ松田代表委員会  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議第十一回本會議ニ於テ  
自由通過協約案ヲ可決次回本會議ニ於テ最終  
議定書第一部ヲ可決ノ件

別 聞 同日松田代表委員会内田外務大臣宛電報交通第九  
六号  
右バルセロナ交通会議最終議定書第一部

交通第九五号

一、四月十四日第十一回本會議ニ於テ自由通過案 $\wedge$  convention 又 $\wedge$  regulation  $\rightarrow$ 何ントナベくキヤハ問題 $\wedge$ 付法律専門委員長「ヤーヤシル、ハースト」 $\rightarrow$ 報告アリ即チ從来ノ経験其他前例 $\wedge$ 議事録ニ之ヲ記載セリ  
ment $\wedge$ 区分スルノ便益ヲ説明シ且組織案及議事規則案ト

尚同案 $\wedge$ 明記ヤル如ク既 $\rightarrow$ 協約案調印ノ全權ヲ有スル代表ハ直ニ各種ノ協約案其モノ $\wedge$ 調印スルコトヲ得ル次第ナリ  
在仏大使ヘ転電セリ

(附 聞) 四月十八日松田代表委員会内田外務大臣宛電報交通第九六号  
バルセロナ交通会議最終議定書第一部

交通第九六号 别電 (同四十九日及五十日摺取)  
Final Act of the General Conference on Communications and Transit.

The General Conference on Communications and Transit, convened in accordance with the Resolution of the Assembly of the League of Nations, met on March 10th, in the Palace of the Ayuntamiento of the City of Barcelona.

The Conference was charged by a Resolution of the Assembly of December 9th, 1920, with the task of drawing up, under conditions laid down in the Resolution regarding the relations between the Technical organisations and the Council and the Assembly

11 バルセロナ国際交通会議(閣ベル件) 卌III  
右ノ通取計ヒ置キタル次第ナリ本件ハ何レ本邦ニ於テ本協約調印御決定前ニハ笠間事務官モ帰朝スベキニ付詳細ノ事情及攻究ノ結果ハ同人ヨリ親シク開陳致スコトシ取敢ヘズ本件ノ成行茲ニ電報ス  
在仏大使ヘ転電セリ

午III 一 四月十八日 在バルセロナ松田代表委員会  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議第十一回本會議ニ於テ  
自由通過協約案ヲ可決次回本會議ニ於テ最終  
議定書第一部ヲ可決ノ件

別 聞 同日松田代表委員会内田外務大臣宛電報交通第九  
六号  
右バルセロナ交通会議最終議定書第一部

交通第九五号

一、四月十四日第十一回本會議ニ於テ自由通過案 $\wedge$  convention 又 $\wedge$  regulation  $\rightarrow$ 何ントナベくキヤハ問題 $\wedge$ 付法律専門委員長「ヤーヤシル、ハースト」 $\rightarrow$ 報告アリ即チ從来ノ経験其他前例 $\wedge$ 議事録ニ之ヲ記載セリ  
ment $\wedge$ 区分スルノ便益ヲ説明シ且組織案及議事規則案ト

尚同案 $\wedge$ 明記ヤル如ク既 $\rightarrow$ 協約案調印ノ全權ヲ有スル代表ハ直ニ各種ノ協約案其モノ $\wedge$ 調印スルコトヲ得ル次第ナリ  
在仏大使ヘ転電セリ

(附 聞) 四月十八日松田代表委員会内田外務大臣宛電報交通第九六号  
バルセロナ交通会議最終議定書第一部

交通第九六号 别電 (同四十九日及五十日摺取)  
Final Act of the General Conference on Communications and Transit.

The General Conference on Communications and Transit, convened in accordance with the Resolution of the Assembly of the League of Nations, met on March 10th, in the Palace of the Ayuntamiento of the City of Barcelona.

The Conference was charged by a Resolution of the Assembly of December 9th, 1920, with the task of drawing up, under conditions laid down in the Resolution regarding the relations between the Technical organisations and the Council and the Assembly

11 バルセロナ国際交通会議(閣ベル件) 卌III  
右ノ通取計ヒ置キタル次第ナリ本件ハ何レ本邦ニ於テ本協約調印御決定前ニハ笠間事務官モ帰朝スベキニ付詳細ノ事情及攻究ノ結果ハ同人ヨリ親シク開陳致スコトシ取敢ヘズ本件ノ成行茲ニ電報ス  
在仏大使ヘ転電セリ

午III 一 四月十八日 在バルセロナ松田代表委員会  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議第十一回本會議ニ於テ  
自由通過協約案ヲ可決次回本會議ニ於テ最終  
議定書第一部ヲ可決ノ件

別 聞 同日松田代表委員会内田外務大臣宛電報交通第九  
六号  
右バルセロナ交通会議最終議定書第一部

交通第九五号

一、四月十四日第十一回本會議ニ於テ自由通過案 $\wedge$  convention 又 $\wedge$  regulation  $\rightarrow$ 何ントナベくキヤハ問題 $\wedge$ 付法律専門委員長「ヤーヤシル、ハースト」 $\rightarrow$ 報告アリ即チ從来ノ経験其他前例 $\wedge$ 議事録ニ之ヲ記載セリ  
ment $\wedge$ 区分スルノ便益ヲ説明シ且組織案及議事規則案ト

尚同案 $\wedge$ 明記ヤル如ク既 $\rightarrow$ 協約案調印ノ全權ヲ有スル代表ハ直ニ各種ノ協約案其モノ $\wedge$ 調印スルコトヲ得ル次第ナリ  
在仏大使ヘ転電セリ

(附 聞) 四月十八日松田代表委員会内田外務大臣宛電報交通第九六号  
バルセロナ交通会議最終議定書第一部

交通第九六号 别電 (同四十九日及五十日摺取)  
Final Act of the General Conference on Communications and Transit.

The General Conference on Communications and Transit, convened in accordance with the Resolution of the Assembly of the League of Nations, met on March 10th, in the Palace of the Ayuntamiento of the City of Barcelona.

The Conference was charged by a Resolution of the Assembly of December 9th, 1920, with the task of drawing up, under conditions laid down in the Resolution regarding the relations between the Technical organisations and the Council and the Assembly

omitted). It entrusted the secretarial work to (names omitted). The Powers enumerated in the following list took part in the Conference and for this purpose appointed the Delegates named below (names omitted).

The following also took part in the deliberations (names of representatives of four international organizations omitted).

In a series of meetings between March 10 and April (date) 1921, in which the delegates and their advisers were throughout animated with the desire to fulfil to the greatest possible degree the principles of the League of Nations which summoned the Conference and the intentions of their Governments, the Conference prepared and adopted the instruments enumerated below and annexed to present Act:

1. Rules for the Organisation of General Conferences on Communications and Transit and of the Advisory and Technical Committee,

The Conventions will bear this day's date.

Certain delegates of States represented at the Conference, being provided with full powers authorising them to do so, have signed the Conventions and Statutes at Barcelona.

The Powers which have not signed at Barcelona may sign at a later date and the Secretary-General will take all necessary steps for this purpose (names omitted).

In faith whereof the Delegates have signed the present Act.

Done at Barcelona, the (date) April, 1921, in a single copy which shall be deposited in the archives of the Secretariat of the League of Nations and of which authenticated copies shall be delivered to all the States represented at the Conference.

The Conference has also adopted the following Recommendations and Declarations:

Matsuda.

2. Rules of Procedure for Conferences on Communications and Transit.

3. Convention and Statute on Freedom of Transit

4. 5. 6. (follow names of other Conventions)

7. Final Act.

In order to comply with the above-mentioned Resolutions of the Assembly, the Rules for the Organisation of Conferences and the Rules of Procedure as well as the Conventions and Statutes enumerated above will be transmitted to the Secretariat General of the League for all necessary action.

These Conventions and Statutes are intended to form part of the series of Conventions contemplated in Article 338 and 379 of the Treaty signed at Versailles on June 28, 1919, and in the corresponding Articles of the other Treaties of Peace.

The rules will bear the date on which they were adopted by the Conference and copies will be authenticated by the signature of the President.

甲III 四月十八日 在バーラト松田代表(委員長)  
内田外務大臣宛(電報)

交通規則総編(通商上・衡平待遇規則)  
通商上・衡平待遇規則(通商上・衡平待遇規則)

ヘ社

(四月十九日接收)

先づ自由通商案第11条討議ノ際伯國代表ヨリ聯盟規約第11十11条全ハクノ交通及シ通商上ノ「ナラバ通商上ノ衡平ナル待遇」確保ベキ方法ヲ講スニヤ此規定ヲ挿入ヤンコトヲ提議シタルニ於シ小委員会(委員長英國代表)ニ於テヘ本件ハ一方交通總念ノ權限以外ニ屬シ且通商上ノ衡平待遇ヲ決定スベキ一般の原則確立シ居サザンノ「ナラバ又之ガ実施」付キや制裁方法ナキヨシト本件ハ之ヲ聯盟理事會ニ移牒シ財政經濟委員会ヲシテ交通及シ通商諮詢委員會ト共ニ通商上ノ衡平待遇ヲ確保ヘルタメ通商ノ闊ハル便宜ヲ拒絶又ハ制限シ得ベキ条件及シ範囲等ヲ研究セシメシコトヲ「ナラバ」ハスコト及シ右伯國ノ提案ハ参考ノタメ理事會ノ決定スルコトニ議決シタル處四月十一日策) 111回

本會議ニ於テ自由通過案全部可決確定ノ後波蘭代表ハ本件ニ関連シ左記二十二ヶ国代表ノ連署セル一ノ宣言書ヲ朗読シ之ヲ理事会ニ送附センコトヲ求メタリ右宣言ノ要旨ハ即

チ前記小委員会ノ見解ヲ是認シ聯盟理事会及ビ総会ガ交通總会ノ議決セル協約ノ実施ニ當リ相互主義ノ原則適用ヲ支

持シ又規約第二十三条ニ鑑ミ理事会及ビ総会ガ可成速ニ通商上ノ衡平ナル待遇ヲ確保スベキ原則ヲ明定センコトヲ要

求スル旨ヲ宣言スルニアリ右ニ対シ議長ハ之ヲ交通總会ノ

記録ニ記載シ同時ニ理事会ニ送附スペキ旨ヲ答ヘタリ何等御参考迄電報ス

波蘭、葡萄牙、「リスアニア」、「ヴェネズエラ」、瑞西、支那、秘露、「バラグアイ」、羅馬尼亞、智利、「コスタ、リカ」「ハイチ」「チエッコ、スロヴァキア」「キューバ」「ボリヴィア」「コーゴスラヴィア」、伊太利、西班牙、「グアテマラ」、「ホンジュラス」「ラトヴィア」「ウルグアイ」

在仏大使ヘ転電セリ

七三四 四月十八日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ル以上ハ支那ヲ支持スルノ希望ヲ有シ從ツテ帝国側ニ於テ如何ニ主張スルモ此点ニ就テハ何分列國ノ賛成ヲ得難キ有様ナリシヲ以テ河川ノ分科会ニ於テハ可成黒竜江除外ヲ制限的ニ規定スル様運動ヲ為シ支那ノ河川ヲ全部協約外ニ置ク点ハ白、伊、蘭ト共ニ極力之ヲ排斥シ黒竜江ニ關シテハ一般的ニ一国ニ属スル河川ニシテ一国ガ他国ノ政府ヲ承認セズ且其國境監督ノ実ヲ挙グルガ為ニ両國間ニ協定成立セザル間ハ本協約ノ適用ヲ受ケザルコトヲ明記スル條文ヲ設ケ他日支那ニ於テ露国政府ヲ認メ國境監督上ノ協定成立スル場合ハ當然本協約ノ適用ヲ受ケルコトヲ暗示シ置クコトトシ終ニ別電第一号ノ通規定スルコトトセリ

尚委員会及本會議ニ於テ帝國委員ヨリ本条ハ素ヨリ第三國ガ現ニ有スル條約上ノ權利及外交上ノ地位等ヲ妨ゲルモノニアラザルコトト解釈スベキ旨声明シ以テ小村大臣ノ支那ニアラザルコトト解釈スベキ旨声明シ以テ小村大臣ノ支那当局トノ談判ノ地歩ヲ留保シ置ク筈ナルガ右ノ旨ヲ分科会ニ於テ本条ノ第二項トシテ插入セシマルコトヲ主張シタルモ条文トシテハ少シク見当違ヒナルノミナラズ解釈トシテモ正面ヨリ見レバ余リニ明白ナルコトニシテ何人モ之ヲ文トスルノ説ヲ容レズ支那側ハ解釈トシテモ異議ヲ唱ヘタ

別電一 同日在バルセロナ松田代表委員発内田外務大臣  
宛電報交通第九九号  
国際河川協約案中ノ沿岸貿易ニ闇スル規定

接衝経過報告ノ件

二 同右電報交通第一〇〇号  
国際河川協約案中ノ沿岸貿易ニ闇スル規定

交通第九八号 (四月二十日接受)

黒竜江ヲ国際河川ヨリ絶対ニ除外スルノ運動ハ予テ巴里ノ會議以来支那側ノ盛ニ企テタル所ニシテ巴里ニ於テハ河川協約案第四条ハ国境河川特ニ黒竜江ノ場合ヲ予想セルコトハ準備書ニモ明言シアル通ナルガ本會議ニ於テモ支那側ハ引続キ右運動ヲ怠ラズ支那ニ於ケル国際河川ハ所謂特殊条約ニ基ク Treaty port ノ実際ニ鑑ミ到底本協約ヲ適用スルコト能ハザルガ故ニ通過自由案ノ第十条ト同様ナル規定ヲ河川協約ニモ設ケテ支那ノ河川ヲ全然適用外ニ置カントシ仏國其他ノ支持ヲ得テ中々有力トナリ英國ノ如キモ黒竜江ヲ除外セザレバ支那ハ到底此協約ニ加盟セザルベク之ヲ除外スルモ現状以上ニ何国ニモ不利益ヲ与フルモノニ非ザ

ルガ故ニ今回ハ單ニ議場ニ声明シ置クニ止ムベシ尚沿岸貿易ニ闇スル河川案第四条及第十六条ハ帝國ノ主義ニ賛スルモノハ白、蘭、希臘及墺地利ノ四国ニ過キズ仏、伊ハ素ヨリ巴爾幹及南米諸邦モ拳ゲテ反対ヲ唱ヘ妥協折衷ヲ重ねタル結果別電第二ノ如ク決定シ分科会及委員会ヲ通過セリ右ハ第四条及第十六条ニ代ルベキモノナルガ準備調書ヨリモ更ニ退歩セル規定ナレドモ曾テ上申セル通り大勢上委員会ニ於テ右条文第一項第二段 transports locaux の意義ハ帝國委員ヨリ質問シタル結果準備書第八四頁ノ解釈ヲ裏踏スルコトニ異議ナク又第二項末段 sans transbordement の次ノ dans l'edit réseau ハ帝國側ヨリ解釈ノ疑義ヲ避ケル為挿入センコトヲ求メタル結果ナリ右黒竜江及沿岸貿易ノ件共ニ帝國当初ノ主張トハ余程遠ザカリ居ルモ何トモ致方ナキ次ニシテ本會議ニ於テモ略々右ノ通り可決ヲ見ルベシト存ズルニ付別段ノ御訓令ナキ限り右二条ノ規定ニ賛成シ置ク積リナリ尚別電ノ条文ハ更ニ起草委員会ニ附託セラルベク其節ハ字句ニ多少ノ変更ヲ見ルコトアルベシ為念申添フ

在仏大使ヘ転電セリ

（ハルヤロナム）  
通（ハルヤロナム）  
左解釋（ハルヤロナム）  
中備津（ハルヤロナム）  
右解釋（ハルヤロナム）

議國際河川協約案議事録ヨリ抜萃)

to the people

### **transport**

議國際河川協約案議事録（三）拔萃）  
The words *local transport* in this article should be  
interpreted as follows: the words *local transport* signify

四月十

通第九九号

四月十八日在バルセロナ松田代表委員發

假  
交

transport other than imports, exports or traffic in transit, with or without transhipment from one vessel to another, with or without unloading on to a quay, with or without warehousing *en route*. In the latter case, conti-

nuity of transport is not considered to have been interrupted, whilst, on the other hand, any intermediate railway transport would constitute such an interruption. For purposes of clearness, the following three illustrations may be given :—

1. First goods are transhipped in a port, then declared in consumption and, finally, are reforwarded to another port belonging to the same State; this last stage constitutes local transport.
2. Goods liable to customs duty have been "cleared" (*dédouanées*) in a port but not transhipped. Their subsequent transport to another port of the same State does not constitute local transport.
3. Goods liable to customs duty have been

"cleared" and transhipped, but are covered by a through bill of lading; their subsequent transport

國際河川協約案中ノ沿岸貿易ニ關スル規定  
交通第一〇〇号 別電第一

ports locaux des voyageurs et des marchandises importées ou indigénées.

l'au dérogation aux autres préceptes et sans con-  
vention ou obligation contraire:

1. Un Etat riverain d'un réseau navigable naturel d'intérêt international a la faculté de réservier à son propre pavillon le transport des voyageurs et des marchandises chargés à un port placé sous sa souveraineté ou son autorité et déchargés à un autre port placé sous sa souveraineté ou son autorité. L'Etat qui ne fait pas usage de cette faculté peut refuser le bénéfice de l'égalité de traitement en ce qui concerne l'edit transport à tout Etat co-riverain qui en use.

Sur les voies navigables visées à l'article I bis sauf les cas où la liberté complète aurait déjà été proclamée dans un acte de navigation ou bien serait procédée à l'unanimité des Etats représentés dans la commission internationale l'acte de navigation ne laissera aux Etats riverains que le droit de réserver les trans-

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 七三五

ports locaux des voyageurs et des marchandises internationales ou indigénées.

2. Lorsqu'un réseau navigable naturel d'intérêt international, ne comprenant pas de voies visées à l'article I bis, ne sépare ou traverse que deux Etats et que ces deux Etats sont d'accord, ils ont la faculté de réserver à leurs pavillons le transport des voyageurs et des marchandises entre deux ports situés sur ledit réseau à moins que ce transport ne soit accompli entre deux ports non placés sous la souveraineté ou l'autorité d'un même Etat au cours d'un voyage sans transbordement dans ledit réseau comportant un parcours en mer ou sur une voie navigable d'intérêt international n'appartenant pas audit réseau.

au moment de la signature de la présente Convention, tant qu'un accord n'aura pas été conclu entre eux établissant pour la voie d'eau considéré un régime administratif et douanier qui donne à l'Etat contre tant des sécurités convenables.

## 交通第一〇一號 (四月二十一日接受)

往電第七九号ヲ以テ報告ノ鉄道協約案ハ四月十三日ヨリ十五日ニ至ル間四回ノ総会ヲ開キタリ即チ十三日午後ノ総会ニ於テ佐竹ヨリ鉄道委員会ノ経過ヲ報告シ次テ本件ヲ約ト為スヘキヤ「ルコマンダシオン」ト為スノ意見ヲ主張アリ仏國委員ハ「ルコマンダシオン」ト為スノ意見ヲ主張セリ其ノ理由ハ(一)本案第一条乃至第三条ハ希望ヲ定ムルニ過キス第四条ハ貨銀ヲ衡平ニ定ムヘキ義務ヲ規定スルモ此ノ主義ハ既ニ「ベルヌ」鐵道條約ニ於テ多年實行シ來リタルモノニシテ今更之ヲ各國ニ命スルニ及ハズ其他ノ条項ニ至リテハ鐵道條約タル価値少ナシ(二)「ベルヌ」鐵道條約ハ目下改正ノ急務ニ迫リ居ルヲ以テ寧ロ之ヲ速ニ完成スルニ如カス之ニ付テ反対論アリタルモ南米ノ委員ハ南米諸国ノ鐵道ハ未タ幼稚ニシテ目下直チニ國際鐵道條約ヲ必要トセストノ理由ニテ仏國委員ニ賛成セリ採決ノ結果仏國委員ノ意見ニ賛成スルモノ十六票反対十二票棄權五票欠席八票ナリ本問題ハ日本ニ取り差シタル重大ナク主トシテ歐州ノ如キ複雜ナル大陸鐵道關係國ノ重大視スル問題ナルト共ニ本規定ノ内容ハ貧弱ナルニ付強テ條約ヲ主張スルノ要ナシト在仏大使ヘ転電セリ

ルノミ第七条ハ國家ノ安危ニ関スル重大事件又ハ國家ノ重大ナル利害ニ關係アル場合ニハ前数条ニ定ムル規定ニ拘ラス必要ナル处置ヲ為シ得ルコト但シ交通ノ自由ニ関スル原則ハ常ニ之ヲ顧念スルコトノ規定ナリ以上ハ鐵道ニ關スル「ルコマンダシオン」ノ内容ニシテ各國ハ出來得ル限り之カ実現ヲ期スヘキ旨ノ前文アリ

七三六 四月二十日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
バルセロナ交通會議國際河川委員会第十一回  
第十二回ニ於テ國際河川協約案第一、四、九、  
十六条審議ノ件

右協約案改正第一条

交通第一〇二号 (四月二十三日接受)

十五日午前午後ニ亘リ河川委員会第一回及第二回開催セラル概要左ノ通

(一)曩ニ更正セラレ幾多討議ヲ重ねタル協約案第一条第四条第九条及第一六条ヲ審議スベキ分科会ノ結果ヲ同會議長智

一一 バルセロナ国際交通会議三関スル件 七三六

認メ本代表ハ英、白、印度「リスニア」ト共ニ棄權セリ然ルニ右投票ニ付議事規則上單純ナル多數決ニ依ルカ出席代表ノ過半数ヲ要スルカ又ハ三分ノ二ノ多數ヲ要スルカニ付議論分レ法律家委員会ニ於テモ右ニ對シ正當ナル解釈ヲ与ヘ兼ネタリ依テ事務局ハ全員ノ同意ヲ得ンカ為折衷案ヲ提出セリ即チ(一)今後二ヶ年内ニ交通總会ヲ開キ國際鐵道條約ヲ作成セントスル旨ノ決議及(二)本案ハ之ヲ「ルコマンダシオン」ト為スコト之ニ對シ採決シタルニ賛成二十九反対二票ニテ之ヲ可決セリ次テ本案各条ニ付討議シタルニ鐵道委員会可決ノ通可決決定セリ之ヲ「グリーン、ブラック」ノ原案ニ比スレハ第一条及第二条ハ二三ノ字句ノ修正アルノミ第三条第二項トシテ本条ハ鐵道機関及車輛規定ノ重要ナル変更ヲ他国ニ強ユルモノニアラサル旨ヲ規定シ第四条ハ原案第五条ニ相当スルモノナレハ内容ハ第一条乃至第三条ノ希望ヲ實現スル現行條約ナキトキハ接壤国間ニ於テ出来得ル限り之ヲ實行スル為特別條約ヲ定ムヘキ旨ヲ規定シ第五条ハ鐵道貨銀ヲ衡平ニ定ムルコト及旅客貨物ノ取扱ニ付スル「ディスクリミニネーション」ヲ為ササル旨ノ義務ヲ定メ原案ノ冒頭ノ五行ヲ削除セリ第六条ハ字句ノ修正ヲ為シタ

利委員ヨリ報告シテ曰ク同会ノ討議事項ハ各河川ノ地理上經濟上ノ差異及沿河國ノ利益、法制ノ相違等アル為頗ル困難ナル問題ニシテ從ツテ同会ニ於テハ單ニ原則ノ決定ヲ為シ得ルニ過ギズ而シテ幾多議論ノ末(1)國際河川ノ定義ニ付テハ改正第一条(別電第一〇三号)ノ成案ヲ得(2)河川ノ分類ニ付テハ結局仏國案ヲ採用シ改正第一条(a)(後ニ報ズ)ヲ得(3)沿河國ノ権利義務ニ付テハ「ブラジル」委員ノ起案ヲ基礎トセル改正第九条(後ニ報ズ)ヲ得タリシガ(2)第四条ノ沿岸貿易問題ハ遂ニ協定ヲ見ル能ハズ更ニ小分科会ヲ構成セリ(3)又日本提案ノ支流航行自由ノ件ハ往電第九二号ノ通国内河川航行自由ノ件ト共ニ夫々「スペシャル、プロトコル」ヲ議定スルコトニ決セリ(4)尚支那及印度委員ヨリ提案アリタル特別事態ノ特別河川ニ對スル特種規定ノ件ハ本協約ノ末尾ニ掲記セラル(脱)  
(3)次デ国内河川航行自由ニ關スル「スペシャル、プロトコル」ニ付事務總長ハ分科会ニ於テ常設司法裁判所協約ノ場合ニ於ケル先例ニ倣ヒ河川協約調印國ハ必ズシモ調印ノ義務無キニ付テハ共ニ該調印國ニ限り調印ノ権利アルベキ「スペシャル、プロトコル」ノ作成ヲ決議シ右起案ヲ同総

八九五

長及瑞西委員、委嘱セル、依リ両名ハ夫々其草案ヲ作リタ  
ルローラ述べ右両案ヲ提出ス字句ノ修正ハ勿論各國ガ之ニ  
承認ヲ与フル形式及効力並該河川上ノ料金問題等各國委員  
ノ依リ譲議セラルタル末尾ニ角（不明）ノ主義ヲ可決シタ  
ル上綱田決定ノ為支那、葡萄牙、伊太利、印度、「ウルグ  
アイ」ハ五國委員ヨリ成ル小分科会、懸クルコトナレリ  
〔「ローラン」案ハ決定ノ上電報ス〕

次テ前記協約案改正第一条ニ付討議ス波斯委員ヨリ「メヘ  
ボタット」ニ於ケル河川ノ関係上單ナル名称変更ガ河川ノ  
國際的性質ニ影響ヲ与ベザルローラ明確ナハシメハノレ  
又波蘭委員ヨリ國家ガ一時的「国内河川」ノ航行ヲ外國船ハ  
許容セルノ事實ヲ以テ直チニ國際的性質ヲ有スルヤハノ解  
釈ヤハノザルローラ主張シ又瑞西委員ハ講和條約ノ Land-  
locked State ハ沿岸接到權ヲ原案ニ於テ充分保障ヤハル  
テ攻撃シ一部ノ修正案ヲ提議セシガ結局原案通可決ベ  
在仏大使、転電ヤニ

（元 転）

四月二十一日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第1〇三三號

is at present used for ordinary commercial navi-  
gation or is capable by reason of its natural con-  
ditions of being so used,

(c) By ordinary commercial navigation is to be  
understood navigation which, in view of the eco-  
nomic condition of the riparian countries, is com-  
mercially and normally practicable,

(d) Tributaries are to be considered as separate  
waterways,

(e) Lateral canals constructed in order to remedy  
the defects of a waterway included in the above  
definition are assimilated thereto.

2. Waterways or parts of waterways, whether  
natural or artificial, expressly declared as being  
placed under the regime of this Convention either  
in unilateral acts of the States under whose sov-  
ereignty or authority these waterways or parts of  
waterways are situated, or in agreements with the  
consent, in particular, of the said States.

国際河川協約案改正第一条  
交通第1〇三三號 別電  
(四月二十一日接収)

In applying the present Convention the following

are declared to be navigable waterways of interna-  
tional concern :

- All parts which are naturally navigable both to and from the sea of a waterway which in its course, naturally navigable both to and from the sea, divides or crosses different States and also all parts of any other waterway, naturally navigable both to and from the sea, which connect with the sea a waterway naturally navigable which divides or crosses different States.

It is understood that :

- The fact of transhipment from one vessel to another is not excluded by the words navigable both to and from the sea,

- Any natural waterway or part of a natural waterway is said to be naturally navigable if it

在仏大使、転電ヤニ

Matsuda.

アリヤ 四月二十一日 在バルセロナ松田代表委員ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

バルセロナ往電第1〇三三號別紙十  
四回ニ於テ国際河川協約案第一條(a)及第四條

記議報告ヘ

交通第1〇三三號

（四月二十一日接収）

十六日河川委員会第十二回及第十四回開催概要左ノ通  
〔第一條(a) 往電第1〇三三號〕ニ述べタル本条（別電第  
〇五号）ノ討議ハルニ先立チ「リベアニア」委員ハ同國  
ガ講和條約ノ調印國ニマザル等諸般ノ事情ニ基キ本協約  
ノ実施アル場合同國關係ノ「リーマ」河ヲ本条ノ河川ト  
見ズ第一條ノ河川トシテ取扱フヲ希望シ之ヲ報告中ニ記入  
ベキコトヲ求メ委員会ノ承諾ヲ受ク次テ塞爾比亞委員ハ  
第一條在ル場合(5)項以外本条存在ノ必要ナシニ主張シ智利  
及ビ仏國委員ヨリ反対ヲ受け結局本条ハ之ヲ密接ナル關係  
アル第四条及ビ第九条ノ討議セラルル時迄其ノ討議ヲ延期  
スルコトヲ決ス

〔第四条 前記往電〕ノ小分科会が作製ヤル改正第四条ハ

旧第四条及ビ同第十六条ヲ総合規定セルモノニシテ其内容及ビ本委員会ニ於ケル討議ノ状況ニ付テハ往電第九八号及ビ第一〇〇号参照ヲ乞フ  
在仏大使へ転電セリ

註 別電第一〇五号ヲ省略ス第一条(註)ハ左ノ通

#### ARTICLE 1a.

Amongst navigable waterways of international con-

cern, the following shall form a special category with a view to the application of Articles 4 and 9 of the present Convention:

(a) Navigable waterways for which there are International Commissions upon which non-riparian States are represented.

(b) Navigable waterways which may subsequently be placed in this category, in virtue either of unilateral declarations on the part of States under whose sovereignty or authority they are placed, or of agreements made with the consent in particular, of such States.

セ三八 四月一十九日 在バルセロナ松田代表委員(註)

内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通協議ニ於テ港ノ国際制度二回

スル決議案審議ノ経過報告ノ件

別 電 四月二十一日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通  
第一〇七号  
港ノ属スル國ノ主權又ハ權力ノ移転ト決議ノ條項実施  
ノ義務トノ關係ニ関スル英國側提案

交通第一〇六号 (四月二十一日及二十二日接受)

港ノ国際制度ニ関スル決議案(Resolution on international regime for port)ハ四月八日以来審議中ナリシガ同十六日第一十七回本会議ニ於テ採決ノ結果波蘭代表一名ノ反対及ビ「ヨーロッパラヴィア」代表ノ棄權「ウルグアイ」「ヴェネズエラ」「ルクセンブルグ」「コロンビア」ノ四ヶ国代表ノ欠席ヲ除キ三十四ヶ国代表ノ賛成ニテ「ルコンマンダンソン」ノ形式ニ於テ全部可決確定セリ其討議ノ経過大要左ノ通

四月八日第十八回本会議ニ於テ港ニ関スル一般討議ヲ開始シ先ツ安達副議長ノ本案ニ関スル一般的説明演説ニ次ギ葡萄牙、智利、波蘭、日本(沿岸貿易ニ関スル御訓令ノ趣旨ヲ述ブ)和蘭等ノ代表順次當該國主張ニ関スル演説アリテ一般的討議ヲ終結シタル後波蘭代表ヨリ本問題ハ適當ノ時期迄之ヲ延期スベシトノ提案アリ討論ノ末本案ノ審議ノ時

期ヲ決定スルタメ之ヲ国際河川特別委員会ニ附託セリ依ツテ同委員会ハ同日第十回国会議ニ於テ討議ノ末採決ノ結果直ニ本問題ヲ審議スルヲ可トスルコトニ決定シ本案研究ノタメ更ニ十八ヶ国委員ヨリ成ル分科会ニ附託シテ之ヲ審議セシムルコトニ決シ安達副議長自ラ議事整理ノ任ニ当り同分科会ハ十二日第一回国会議ヲ開キ原案ノ逐条討議ヲナシ左ノ通修正セリ

一、本案ノ名称ニ付英國委員(註) International regime for port ポルト to which an international regime applies ネ改メハコトヲ提議シタルモ討議ノ結果否決セラ  
ノ原案ノ儘通過ス

二、前文廿 under authority of the League of Nations ヲ仏國ノ提議ニ依リ削除ス

三、第二条第二項中 and 12 ラ伊太利ノ提議(註)ニ依リ削除ス

四、第三条ニ關シ葡萄牙委員(註)第三(行)ノ suitable measures ヲ such measures as are within its powers ネ改メハコトヲ提議シ又英國委員ヨリ同条表題中(註) and improvement ヲ削除センコトヲ提議シ種々議論ノ上葡萄牙ノ提案ヲ撤回シ英國ノ案ヲ通過ス

一、バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 セ三八

五、第四条(註)葡萄牙委員ヨリ原案ヲ変更シ「一国ハ其ノ港ノ使用及之ニ接近ノ為至当ト認ムル一切ノ工事ヲナシ得此ノ工事ハ港ノ使用及接近上ノ便宜ヲ阻止スルモノナルコトヲ立証セザル限之ヲ中止スルコトヲ得ザル」旨ノ修正案ヲ提出シ幾多議論ノ末伊太利委員ヨリ更ニ右ノ末尾ニ「国防上ノ工事ヲナスコトヲ妨ゲザル」旨ノ規定ヲ追加セんコトヲ提議シ結局右両修正案ヲ合セ採用スルコトニ決ス

六、第七条(註)ニ關シテ日本委員ヨリ同条全部ヲ削除シ別ニ單行協約案トシテ「各締約国ハ相互主義ノ下ニ他國ノ国旗ニ對シ其ノ領水内ノ沿岸貿易権ヲ認ムルコトヲ約スル」旨ノ提案ヲナシタル処議論沸騰シ大多数ノ委員等ハ国際河川ノ沿岸貿易ニ關スル討議ノ際ナシタル議論ヲ繰返シ反対シ葡萄牙委員ハ原案維持説ヲ主張シ大勢我ニ非ナルヲ以テ之ヲ撤回シ又新タニ規定セントスル單行協約案ニ付キテハ再ビ沿岸貿易留保論ヲ繰返シテ委員ノ多數ハ之ニ同意シ難シテナシ又若干ノ委員等ハ本件ニ關スル訓令ヲ受ケ居ラス本件ニ關スル専門家ヲ有セザルガ故ニ之ガ討議ヲナスヲ得ズトテ異議ヲ申立テタルヲ以テ我主張ヲ固執スルノ不得策ト認メ御訓令ノ次第モアリ右提案ヲ會議ノ記録ニ記載シ以テ我

政府ヨリ右提案ヲナシタル事実ヲ証シ各國政府ノ意見ヲ喚起スルニ止メ結局同条ハ原案ノ儘通過セリ（然ルニ同条ハ第十条ト共ニ本会議ニ於テ削除セラルニ至ルガ如シ）

七、第八条<sup>(註5)</sup>ニ対シ葡萄牙ヨリ「港ノ属スル主権又ハauthority」ヲ有スル国ノ生産物ニシテ同国ノ他ノ港トノ間ノ輸出入貨物ニ対シテハ関税ヲ減ズルコトヲ得ル」旨ノ修正案提出アリタルモ之原案ニ包含セラル所ナリトノ「オスチ」ノ説明ニ依リ之ヲ撤回シ又伊太利ヨリ同条中duties - shall be ルノ間ニ「監督及ビ行政上ヨリ生ズル補充的費用ヲ除キ」ナル文字ヲ挿入センコトヲ提議シ國ニ依リテハ local octroi ド消費税ニ対シテモ関税ト同様ノ規則ヲ適用スルコト不可能ナリト説明シ又英國委員ヨリ duties ノ前ニ customs ル加フベシトノ提議アリ何レモ未決ノ儘次回ニ譲り同日午後第一回会議ヲ開キ右討議ヲ継続シ結局(イ)第一行duties ノ次ニ and necessary charges ド加ヘ(ロ)第七行these ル the ド改メ duties ノ前ニ customs ド加ヘ(ハ)fixed on……duties ル削除シホウカド those of the tariffsト改ムルローメニ決ス

八、第九条<sup>(註6)</sup>ニ対シ葡萄牙及ビ英國ヨリ修正案提出アリシモ

ニ逐条討議ノ結果左ノ修正ヲ加ヘタル外前記分科会ノ議決ノ通可決ス

一、本案ノ形式ヲ「レゾリューション」トスルカ又ハ「ルコンマンダシオン」トスルカニ付議論アリ結局後者ニ決ス  
二、各章ノ標題ヲ存シ各条ノ標題ヲ削除ス  
三、第八条ノ「ロカル、オクトロア」及関税ニ付議論ヲ生ジ起草委員ニ附託セラル  
四、第一〇条ニ対シ「ユウガスラヴィア」委員ハ前回ニ於テ否決セラレタル自國ノ修正案ニ付更ニ本委員会ニ於テ裁決ゼンコトヲ求メ裁決ノ結果遂ニ右修正案通過ス

五、第一四、第一五、第一六ノ三ヶ条ハ一二字句ノ訂正ヲ為シタルノミニテ原案通り通過ス

六、英國委員ヨリ前記分科会ニ於テ提議シタル案即チ港ノ属スル国ノ主権又ハ「オーソリティ」ノ移転ト其実施ノ義務トノ関係ヲ明確ニシ置ク要アリトテ別電第一〇七号ノ提議ヲ為シタルガ主権又ハ「オーソリティ」ヲ有スル國ノ義務ヲ明瞭ニスル必要アリトナスニ一致シ之ヲ同報告書ニ記載スルコトニ決ス

尚同委員会ノ報告者トシテ「ウルグァイ」代表ヲ指定セリ

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 セ三八

討議ノ末前者ヲ撤回シ後者ノ一部ヲ報告書ニ記載スルコトトシ同条ハ結局原案ノ儘通過ス

九、第十条<sup>(註7)</sup>ニ対シ「ヨーロッパヴィア」委員ヨリ第一行目ノmay not ノ not ド削除スベシト提議シタル処採決ノ結果否決セラレ結局原案ノ儘通過ス（然ルニ同条ハ第七条ト共ニ本会議ニ於テ削除セラルニ至リタルハ後ニ述ブルガ如シ）

十、第十一条末尾ニ「貨物ノ価額不明ノ場合ニハ Statistical duty ハ従量ニ依ラザルベカラザル」旨伊太利ヨリ提議アリ討議ノ末之ヲ撤回シ結局同条ハ原案ノ趣旨ニテ少シク字句ノ順序ヲ換ヘタルハミニテ通過ス  
十一、第十三条<sup>(註8)</sup>討議ノ末 persons ノ次ニ luggage ド加く mails and postal parcels ド削除シ第一行ノ means ド instruments ド改ム

十二、第十四、第十五、第十六ノ三ヶ条ハ通過案中ノ類似ノ規定ト文句ヲ一致セシムル為起草委員ニ附ス  
十三、第一条、第五条、第六条ハ何等ノ異議無ク通過セリ  
四月十五日第十一回国際河川特別委員会ニ於テ前記分科会ノ議決ニ基キ書記局長「ベース」ノ報告アリ右報告ニ付更ニ

四月十五日午後第一十六回本会議ニ於テ前記「ウルグァイ」代表ヨリ右委員会ノ決議報告アリ茲ニ於テ波蘭代表ハ一ノ宣言ヲナシ本案ニ同意スルヲ得ザル旨及本問題ニ関シテハ同國政府ハ完全ノ自由ヲ留保スル旨声明セリ次テ右報告ノ案ニ付逐条討議ヲ開始シ議論紛糾シタル為翌十六日第二十七回本会議ニ於テ右討論ヲ継続シ結局採決ノ結果前記委員会ノ議決ニ対シ更ニ左記ノ修正ヲ加ヘタル上本案全部ヲ可決確定シタルコト前述ノ通ナリ  
(丁)本案ノ形式ハ法律専門委員ノ提議ニ基キ

Recommandation relative aux Ports soumis au régime international ド改ム

〔丁〕第七条及第八条ニ対シ英國代表ヨリ此ニケ条ヲ全部削除シ新ニ「沿岸貿易ニ関シテハ本規則ヲ適用セザル」旨ノ規定ヲ設ケンコトヲ提議シ報告者「ウルグァイ」代表ノ同意アリ本代表亦同意ヲ表シタルヲ以テ議長ハ右二個条ヲ削除シ第十四条ノ前ニ「本規定ハ之ヲ沿岸貿易ニ適用セザル」旨ノ一条ヲ設ケンコトヲ提議シタル処「ユーロッパヴィア」代表ヨリ右二ヶ条ハ先ニ原案成立ノ際議論ノ結果同國ノ提案ヲ採用シテ規定セルモノナルガ今之ヲ

削除ヤシヌル理由ハ如何ト反問シ原案削除ヲ反対シタルガ英國代表ヨリ右ハ本件ニ関スル議論ノ相違ヲ緩和セントスルニ出テタル事ヲ説明シ「ヨーロッパヴァイア」代表遂ニ承服シ結局右二ヶ条ヲ削除シ更ニ第十三条トシテ「petit cabotage maritime」対スル適用ノ問題ハ本規定ニ包含セザル」眞ニ規定ヲ設クルコトニ決定シタリ從ツテ我提案ノ一部ハ茲ニ貫徹セラレタル次第ナリ

〔第十一條末行ノ前々 le relevé du trafic du port ム修正正セリ  
在仏大使へ転電セリ

註一 第二條第一項ノ原案左ノ憲  
Subject to the provisions of Article 8, 11 and 12, all other dues and charges are prohibited.

2 第二條表題原案左ノ憲  
works of Upkeep and Improvement.

3 第四条ノ表題、Works dangerous to the use of the Port.  
第七条左ノ憲

Subject to any special provisions to the contrary, the State under whose sovereignty or authority the port is situated may, as regards national maritime coasting trade, assimilate the port to its other ports.

5 第八条ハ Customs Duties, etc. ノ規定ナリ  
6 第九条ハ General régime of Free Zones ノ規定ナリ  
7 第十条ハ National Coasting Trade ノ関スル規定ナリ  
8 第十一条ハ Statistical Duty ノ關ヘル規定ナリ  
9 第十三条ハ Transit ノ関スル規定ナリ

## (同)

四月二十一日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第一〇七号  
港ノ属スル國ノ主權又ハ權力ノ移転ト決議ノ条項実施ノ義務ト  
ノ關係ニ関スル英國側提案

## 交通第一〇七号 別電

L'Etat sous la souveraineté ou l'autorité duquel le port est placé ne peut se dégager de l'obligation à laquelle il est soumis d'assurer la mise en vigueur des articles précédents par un arrangement éventuel aux termes duquel il dégagerait une partie de son autorité sur le port à un autre Etat, à une association ou à un particulier.

在仏大使へ転電セリ

Matsuda.

ハリ九 四月二十一日 在バルセロナ松田代表委員ハ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通会議河川委員会ニ於テ国際河川協約案第九条第十条新条等審議ノ件

## 別電

四月二十日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第一〇九号  
河川委員会決定ノ第九条案並印度ノ提案及中国ノ提案

## 交通第一〇八号

(四月二十三日接受)

十七日河川委員会第十五回及第十六回開催其概要左ノ通  
〔一〕第九条、往電第一〇一〇号分科会起草ノ改正案ニ付討議ヲ  
為ス既存ノ河川委員会〔「ターニー」等ノ〕ト本条及第十  
九条トノ関係ニ付議論沸騰セシモ結局英國委員ノ修正意見  
ヲ容レタル上別電第一〇九号第一ノ通全条ヲ可決ス尙原案  
ニハ沿河國ノ定義ヲ定ムル一項アリタルモ英國委員ヨリ右  
ハ各協約全部ニ関係アルモノ故規定ノ場所其當ヲ得ズトノ  
注意アリタル為第一条ノ終ニ記入スルコトメバ

〔二〕第十条、仏國委員ヨリ印度支那ニ於ケル特別事態ニ鑑  
明確ナル留保ノ意見ヲ表明スル為 special agreements or  
treaties ノ次ニ specially in any existing conventions

relating to customs measures, to police and to sanitary  
precautions ナルヲ句ヲ加くハヒムヲ據議シ可決ス

一一 バルセロナ国際交通会議、関スル件 ハリ九

〔三〕新条、仏國委員ハ既存条約ノ存続ヲ確保スル為一ヶ条挿入方ヲ提議セシガ其内容自由通過条約第十条ト異ナル理由  
(支那)「ライアン」河ニ関スル「マンハイム」協約ト本条  
トノ関係(由國)、講和条約第八四五条ト本条トノ関係(独  
逸)等ニ付質問出テタルモ提議者不在ノ為討議ヲ延期ス  
(本条ハ決定次第追電ス)

〔四〕特別条項、特別条項トシテ印度ヨリ別電第二ノ〔〕又支那  
委員ヨリ往電第九九号ノ原案提出セラレ右別電及往電ノ通  
リ可決ス  
此ノ機会ニ於テ支那委員ハ諸外國ト支那トノ間ニ既存条約  
ニ改正ヲ加ヘサル限り本協約第二条及第三条ノ自由、權利  
ヲ尊重スルコト不可能ナルヲ以テ第七条、第八条及第十七条  
ニ付留保ヲ宣明シ之ニ関聯シテ往電第九八号及第九九号  
ノ通笠間委員ト支那委員トノ間ニ討論行ハル

〔五〕前文、事務總長ヨリ其第一項ハ既ニ Separate protocol  
ニ規定セラレタルニ依リ削除センコトヲ主張シ之ヲ削除  
上可決ス  
〔六〕無海港国船籍問題、準備書中ノ本件ニ関スル單獨協約案  
ハ異議無ク通過ス

註 準備書中ノ無海港国船籍問題ニ関スル单独協約案左ノ通

The High Contracting Parties agree to recognise the flag flown by the vessels of any Contracting Party having no sea-coast, which are registered at some one specified place situated in its territory ; such place shall serve as the port of registry of such vessels.

四月二十日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第一〇九号  
河川委員会決定ノ第九条案並印度ノ提案及中国ノ提案

交通第一〇九号 別電  
(四月二十三日接受)

(1) Each of the riparian States is bound, on the one hand, to abstain from any action likely to prejudice navigability or to reduce facilities for navigation, and, on the other hand, to take suitable measures as rapidly as possible to remove any obstructions and accidental dangers to navigation.

(2) If this navigation involves regular upkeep, each of the riparian States is under an obligation

advantageous routes for communication, a riparian State may not refuse to carry out at the request of another riparian State, the works necessary for the improvement of navigability, provided that the latter State offers to pay the cost and also to bear an equitable share of the excess costs of upkeep. Nevertheless it is understood that these works cannot be undertaken as long as the State, on whose territory they are to be carried out, is opposed to them on grounds of vital interests.

(4) In the absence of any convention to the contrary, the State which is bound to carry out the works of upkeep may make free itself from this obligation, if with the consent of all the co-riparian States, one or more of the latter agree to carry them out in its place; as regards works for improvement, the State which is bound to carry them out will be freed from this obligation if it authorises the State requiring such works to carry them out in its place; the carrying out

towards the other States to take such steps and execute such works as are necessary for this purpose on its territory, as rapidly as possible, having regard at any period to the state of navigation, and also to the economic condition of the regions served by the navigable waterway.

each of the riparian States will be entitled for valid reasons to demand from the other States that they shall bear an equitable share in the cost of such up-keep.

(3) In the absence of legitimate grounds for opposition on the part of one of the riparian States, including the State which is territorially interested, based either on the actual conditions of navigability within its territory or upon other interests such as in particular the maintenance of the normal hydraulic conditions, the needs of irrigation, the utilisation of hydroelectric power or the necessity of constructing other more

of works by States other than the State territorially interested, or their participation in the cost of these works, shall be assured as regards the State territorially interested without prejudice to its rights of control and administration in respect of these works and to the prerogatives of its sovereignty or authority over the waterway.

(5) On the waterways referred to in Article I (a), the provisions of the present Article are applicable subject to the terms of the Treaties, Conventions or Navigation Acts which determine the powers and responsibilities of the International Commission in respect of the works.

Subject to any special provisions in the said Treaties, Conventions or Navigation Acts which exist or will be concluded;

(a) Decisions in regard to works will be pro-

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 七三九

ditions laid down in Article 19 below, of any dispute which may arise as a result of these decisions, may always be put forward on the grounds of incompetency or of a violation of the international Conventions which govern navigable waterways. A request based on any other grounds for a settlement under the aforesaid conditions can only be put forward by the State which is territorially interested.

The decision of this Commission shall be in conformity with the provisions of the present Article.

(6) Notwithstanding the provisions of the first paragraph of this Article a riparian State may, subject to any convention to the contrary, suppress a waterway either wholly or in part, provided that all the riparian States or all the States represented on the International Commission, if one exists, agree to such suppression.

As an exceptional case one of the riparian States of a navigable waterway of international interest not

ground that it crosses or delimits zones or enclaves the extent and population of which are small as compared with those of the territories which it crosses and which form detached portions or settlements belonging to a State other than that to which the said river belongs with this exception throughout its navigable course.

2. The present Convention shall not be applicable to a navigable waterway of international interest which has only two riparian States and which separates for a considerable distance a Contracting State from a non-Contracting State whose Government is not recognised by the former at the time of the signature of the present Convention, until an agreement has been concluded between them establishing for the waterway in question an administrative and customs regime which affords suitable safeguard to the Contracting State.

Matsuda.

referred to in Article 1(a), may suppress such waterway if the navigation on it is inconsiderable and if the State in question can prove that it possesses an economic interest obviously greater than that of navigation. In this case the suppression may only take place after the expiration of a year's notice and subject to an appeal on the part of any other riparian State under the condition laid down in Article 19. If necessary, the judgment shall prescribe the conditions under which the suppression may be carried into effect.

(7) Should access to the sea be afforded by a navigable waterway of international interest with several branches, situated in the territories of one and the same State, the provisions of Nos. 1, 2, and 3 of this article shall apply only to the branch or branches considered necessary to give full access to the sea.

第六回

1. A national navigable waterway shall not be considered as of international interest on the sole

内閣官房外務大臣宛（電報）

バカルヤロナ国際水運協定第十八回

第十八回～議論～付報告ノ件

同上 国日在バカルヤロナ松田代表委員宛内閣官

電報交換第11回

新条ノ修正案

（回111接取）

十八回河川委員会第十七回及第十八回開催ノ概要左ノ通

〔本委員会ノ報告書「ハラジン」委員会ノ協約案全部「付  
委員会及分科会」於ケル討議経過ヲ逐条報告ベ其内撤回ヤ  
ル本邦提案ノ関スル点左ノ如シ〕

〔技術問題ノ関スル第一條ノ日本提案、分科会ノ未了決ヤ  
ルノタル後委員会ノ特「ハローロ」作製ヤカルルロ  
ーレタリタルタメ日本委員会ノ撤回ヤルス  
(2)黒龍江關係ノ特別項挿入「関スル支那提案」付第三國  
ノ権利及外交的地位ヲ確保スル為提出ヤルノタル往電第九  
八即日本提案、本条自身ノ当然ノ規定明正ナリユヘ理由〕

テ日本委員ニ依リ撤回ヤハレ同時ニ其ノ次第ヲ本報告ニ掲  
タルコトナベ  
猶第三条ニ付「カルグア」委員ノ注意ニ依リ第三条ハ最  
惠待遇ノコトヲ予想セルモノニ非ザルコトヲ明ニスル為報  
告ノ訂正ヲ為シ又白国及「チャック」委員ハ本會議迄第七  
条ニ関スル報告ニ同意スルヲ留保セリ猶又「ボルトガル」  
委員ハ印度及支那委員提出ノ特殊条項可決セラレタルニ對  
シ右条項ノ協定ガ印度及支那ニ於ケル同國殖民地ノ政治上  
及經濟上ノ地位ニ影響ヲ及ボスモノニ非ズトノ諒解ノ下ニ  
同意ストノ宣言ヲ報告中ニ記入センコトヲ望ミ其ノ目的ヲ  
達ス

〔1〕往電第一〇九号ニ所謂新条ニ付テハ支那委員ハ同条ノ協  
定ガ特殊國ノ現ニ支那ニ於テ有スル特殊權利ヲ拡張スルモ  
ノト解セザルコトヲ附言シ之ヲ議事録中ニ留ムルコトメ  
セリ新条其ノヤノニ付キテハ英國委員ノ修正案(別電第一  
一四〇第11)ヘ形式ニ依リ通過ベ  
〔2〕国内河川航行自由ニ関スル「パローロル」ニ付キテハ蘭  
國委員マリ分科会ノ経過報告アリタル後別電第一(往電第  
11四〇)ヘ草案提出サレ討議ノ末其儘通過ス

〔3〕無海岸國船籍問題ニ付キテハ先日ノ委員会ニテ決定ヲ見  
タル處其ノ形式ヲ宣誓ト改ムルコトナリ從ツル agree to  
to declare to ナ变更ス

在仏大使ヘ郵送セリ

**註** 新条其ノヤノトアルベ前掲交通第一〇八号〔1〕ノ既存條約ノ存  
続ヲ確保スル為ノ一ヶ条ト共ニ仏國ガ提案シタル他ノ一ヶ条  
ヲ declare to ナ  
**(別電)**  
〔4〕四月11日 在ベルセロナ松田代表委員発内田外務大臣宛電報  
交通第一一四号  
國際河川協約ノ追加プロトコル案及仏國委員提案ノ新条ノ修正  
案

交通第一一四号 別電

(四月11日接収)

第一  
The States signatories of the Convention on the  
International Regime of Navigable Waterways signed  
at Barcelona, the representatives of which being duly  
authorised have appended their signatures to the  
present Protocol, declare that, in addition to the free-  
dom of communications granted by them, by virtue

of the Convention on Navigable Waterways consider-  
ed to be of international concern, they grant, subject  
to reciprocity, without prejudice to their rights of  
sovereignty, and in time of peace,  
(a) on all navigable waterways,  
(b) on all naturally navigable waterways,  
which are placed under their sovereignty or authority,  
and which, not being considered as of international con-  
cern, are accessible for ordinary commercial naviga-  
tion both to and from the sea and in the ports situat-  
ed upon these waterways, perfect equality of treat-  
ment to the subjects, property and flags of every State  
signatory of the said Convention as regards the transport  
without transhipment of all imported and exported  
goods.

When signing the Convention the Signatories must  
state whether they accept the obligation to the extent  
indicated under (a) above or only to the more re-  
stricted degree defined under (b).

It is understood that the States which accept (a),  
are bound towards those which have accepted (b) only  
in the condition involved by the latter.  
It is also understood that the countries in which  
a considerable number of ports, situated upon navi-  
gable waterway, have so far remained closed to inter-  
national commerce, may, when signing the present  
Protocol, exclude from its application one or several  
of the navigable waterways defined above.  
The present Protocol, of which both French and  
English texts shall be authentic, shall be ratified.  
Each State shall address its ratification to the Secretary-  
General of the League of Nations, who shall notify the  
other signatory Powers of the ratifications. The rati-  
fications shall be deposited in the archives of the  
Secretariat of the League of Nations.

The present Protocol shall remain open for the  
signature or the adhesion of the States which have  
signed the Convention afore-mentioned or which have

adhered to it.

It shall come into force when the Secretary-General of the League of Nations shall have received the ratification of two States, provided, however, that at this date the said Convention shall have entered into force.

It may be denounced at any time after the expiration of the period of two years after it shall have come into force. The denunciation shall not take effect until two years after its receipt by the Secretary-General of the League of Nations.

The denunciation of the Convention of the International Regime of Waterways of International Concern shall be considered as comprising the denunciation of this Protocol.

If on a waterway of international concern one or more of the riparian States are not parties to this statute, the financial obligations undertaken by a Contracting

ノ余地ヲ残シテ可決セラントタル以上止ムラ得ザルモノト思考セラルニ付本条約ニ対シ帝国ニ於テ今後調印スベキヤ否ヤハ今後条約案到着シタル後充分研究スルコトレシ差シ当リ前記疑義ヲ成ル可ク我ニ有利ニ解セシムル為工全員委員会ニ於ケル「アース」ノ報告中ノ文字ノ改正ハ必ズ之ヲ実行セシメテ英國、希臘両委員間ノ応答ニ関シテハ貴電ノ如ク後ニ至リ希臘委員ニ於テ以前ニ述べタル質問ヲ撤回スル事ニ宣明シ又議事録ニ残スモ前ノ問答ガ議事録ニ残ル以上我ニ不利ナル解釈ヲ下サル余地ヲ残ス点ハ大差ナシト思考セラルニ付出来得ベクバ右希臘委員官幅ノ趣旨ヲ重ンジ本件ニ関スル一切ノ問答ヲ議事録ヨリ刪除セシムル様今一応御尽力アリタシ

本電貴電第九四号ト共ニ在米大使ニ郵送ア

ナイ川 四月二十一日 在バルヤロナ松田代表委員ヨラ  
内田外務大臣宛(電報)

ベルセロナ交通会議第二十八、二十九回本件  
議ニ於ケル國際河川協約案討議ノ概要及修正  
ノ歴史詳細ノ件

同日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通

11 バニヤロナ国際交通会議ノ関スル件 ナイ

State in pursuance of Article 9 shall not exceed those to which they would have been subject if all the riparian States had been parties.

Mastuda,

在仏大使く軽電ヤニ

ナイ I 四月二十一日 内田外務大臣ヨラ  
在バルヤロナ松田代表委員宛(電報)

血虫連通協約案第十五条ノ文節題句ノ件

第十五号

貴電第八九号ノTII関シ第十五条ノ内容御回電アリタシ

ナイ II 四月二十一日 内田外務大臣ヨラ  
在バルヤロナ松田代表委員宛(電報)

血虫連通協約案第五条ニ關シ疑義ヲ成ルベク  
我ニ有利ニ解セシムル為ノ措置ニ付請令ノ件

第十六号至急

貴電第九四号ニ關シ大正八年在仏大使宛往電講第三七八号ニ依リ御承知ノ通帝国政府ノ主張ヲ其ノ儘採用スルモ英國代表ノ恐ルルガ如ク米国ガ本件条約ニ加入ノ節其ノ法制上支障ヲ感ズベキ点ナシト思惟セラル併シ本件ニ関シ貴代表等ニ於テ既ニ充分努力セラレタルニ拘ラズ御来示ノ通疑義

中国代表ノ宣誓書及第四条ニ対スル仏側修正案

交通第一一五号

(四月二十四日接受)

四月十八日第二十八回本会議ニ於テ國際河川條約案特別委員会報告者「フランシス」代表ヨリ同案審議ノ経過及議決ヤル案ニ付詳細ノ報告アリタル後之ガ討議ニ入り議論紛糾ノ為翌十九日第二十九回本会議ニ於テ右討議ヲ繼續シタル上遂ニ採決ノ結果反対一(希臘)棄権二(「ヴ・ネズエラ」及瑞士)欠席五(「ラトガヤ」、「ハイチ」、「ニースアニア」、「ルクサンブル」「バラグアイ」)留保附賛成一(「ヨーロッパヴィア」)ヲ除クノ外三十ヶ国代表ノ賛成ニテ本案全部可決セリ

右本会議ニ於ケル討議ノ概要及修正ノ要点左ノ通

(一)第一条ニ關シ波斯代表ハ同条ハ航行自由ヲ認ムルコト不足ニシテ Chitt-el-Arab 沿ノ沿岸國ニ対シ「チクリス」河ヲ解放セザルヲ以テ到底本国政府ノ調印ヲ得ル能ハザル可キガ故ニ茲ニ保留ヲ為ス且声明セリ之ニ対シ英國代表ハ「メソポタニア」政府未ダ確立セザル際航行及灌漑ノ問題ハ之ヲ中止スルノ】マナキ所以波斯ノ要求ニ応シ得ザリシ所以ヲ弁明シ他日満足ノ解決ニ達セシムトヲ希望セリ又瑞

西代表ハ本条ノ定義ガ經濟的要件ヲ取入ルコトヲ「対シ抗議ヲ繰返シ該定義ヲ以テ陸地ニ包マル國ニ執り致命傷ナリトナシ之ヲ留保スル旨ヲ宣言シ本条ハ原案ノ儘通過セリ（原案トハ右委員会ノ議決セル案ヲ云フ以下之ニ倣フ）

〔丁〕第三条第一項中運送ノ発着点又ハ方向ニ依リ差別ヲ設クル旨ノ文字ヲ明瞭ニスル為全文句ヲ同項末尾ニ移ベ

〔丙〕第七条ニ関シ「チェック」代表ヨリ第一項(a)中ノ「税関審問臨検ノ後」ナル文句ヲ削除センコトヲ提議シ英國代表ハ若シ右提議ヲ採用スルトキハ同項中ノ「スルコトヲ得」ヲ「要ス」ト改メザレハ同意シ難シトノ議論生ジ採決ノ結果右提議ハ否決セラル又和蘭代表ヨリ第二項中ノ单ニ「商品」トアルヲ「積換ナシノ商品」ト修正ヤンコトヲ提議シテ採用セラレ他ハ原案ノ儘通過ス

〔四〕第八条第三項ニ対シ伊国代表ヨリ droits de douane ou assimilés ナル文句ヲ octroi local ou de consommation comme les frais accessoires ト修正シ又第五項「<sup>(註1)</sup> le droits prévus ci-dessus douane ナル文句」ヲ les droits de ト修正ヤハロトテ提議シ仏国代表ハ右第三項ニ対スル修正中ニ ou assimilés ナル文句ヲ留保シテ之ニ同意シ更

ト及是等植民地及保護國ハ後日本協約ニ加入スルコトヲ得ルコト並ニ彼等ハ独立ニ本協約ヨリ脱退スルコトヲ得ル旨ヲ注意シ且議定書ノ期間ヲ二ヶ年トアルヲ一ヶ年ニ短縮セムコトヲ提議シ異議無ク之ヲ採用シテ他ハ原案ノ儘通過セリ

〔丁〕曩ニ留保セラレタル第四条ニ対シ仏国代表ヨリ修正案提議アリ妥協ノ結果ニ成レル別電第一一六号二ノ案ニ付報告アリ之ニ対シ本代表ハ原案維持説ヲ唱ヘ同原案中 sur ledit rescautナル文字ハ我提議ヲ採用セルモノナルニ仏国ハ修正案ハ之ヲ排除スルモノナルヲ述ベタル後壤地利亦我主張ヲ支持シ報告委員ハ我主張ニ反対シ安達副議長又河川委員會議長タル資格ヲ以テ同案ハ委員会ノ討議ヲ経ザル私案ニ過キザル旨ヲ指摘シ支那代表ハ同条ノ修正ガ同國ニ利害関係アリ其ノ影響頗ル大ナルモノアルヲ説キ本代表ハ再び原案ニ付採決ヲ求メタルニ仏国代表ハ更ニ同案ガ妥協案ナル旨ヲ繰返シテ本代表ノ賛成ヲ求メ結局採決ノ結果右妥協案ノ儘通過セリ其結果トシテ我主張ノ全部ヲ貫徹スルコトヲ得ザルコトトナリタレドモ其ノ大半ヲ達スルニ至リタル次第ナリ

「 transport 」次ニ fluvial ヲ加へンコトヲ提議シ白耳義之ニ反対シ更ニ波蘭、英國代表間ニ議論ヲ交換シタル上右 transport fluvial ノ問題ハ Final Act ニ記載スルコトニシ第五項ノ伊太利修正案ヲ通過セリ

〔五〕第九条ニ対シ波蘭、瑞西並「ヨーロッスラヴィア」代表ヨリ各修正案ヲ提出セルモ採決ノ結果何レモ否決セラル結果原案ノ儘通過セリ

〔丙〕第十条 bis ニ対シ波蘭、瑞西「ヨーロッスラヴィア」及法律家委員等ノ間に論争アリ採決ノ結果原案ノ儘通過セリ尚支那代表ハ別電第一一六号電報其ノ一ノ通宣言書ヲ発シ之ヲ記録ニ止マルコトトヤリ

〔乙〕第一七条ニ関シ伊国ノ提議ニ依リ facilités ノ次ニ en vigueur ラ加フルコトムシ原案ノ儘通過セリ

〔八〕第一七条 bis ニ関シ仏国代表ヨリノ提議ニテ à tout ou partie de son territoire ト削除シ étant donné que ト étant entendu que ト修正スルコトニズベ

〔九〕本協約附屬ノ國際河川ニ闇スル議定書ニ付小委員会報告者蘭国代表ノ報告アリ英國代表ヨリ署名國ハ其ノ植民地又ハ保護國ニ対シテハ本協約ノ適用ナキコトヲ眞理シ得ルコ

〔十〕同案中第一條第五条第六条第九条 bis 第十条第十一條第十二条第十三条第十四条第十五条第十五条 bis 第十九条第二十条第二十二条及第二十二条ハ何レモ異議無ク原案ノ儘通過セリ

在仏大使ヘ郵送セリ

〔註一〕第十条 bis ハ内田外務大臣宛電報交通第一〇八号〔三〕ノ仏国

〔提案ノ新条及同右電報交通第一一四号第二ノ新条ナリ〕

2 第十七条 bis ハ同右電報交通第一一四号ノ三

〔別電〕

四月二十一日松田代表委員発内田外務大臣宛電報交通第一一六号

中国代表ノ宣言書及第四条ニ対スル仏国側修正案

交通第一一六号 別電 (四月二十四日接受)

其一

Au cas où la Conférence adopterait le nouvel article 10 bis proposé par la Délégation française, le premier paragraphe ne doit pas être interprété comme donnant une extention quelconque aux droits spéciaux dont jouissent certaines puissances (datsu?) en vertu des traités existants en matière des voies navigables

et des ports.

Le deuxième paragraphe ne peut s'appliquer qu'aux ports et voies d'eau déjà ouverts au commerce international.

其11

Lorsqu'un réseau navigable naturel d'intérêt international, ne comprenant pas de voies visées à l'article 1 bis, ne sépare ou ne traverse que deux Etats, ceux-ci ont le droit de réservier d'un commun accord à leur pavillon le transport des voyageurs et des marchandises, chargés à un port de ce réseau et déchargés à un autre port de ce même réseau, à moins que ce transport ne soit accompli entre deux ports qui ne se trouvent pas sous la souveraineté ou l'autorité d'un même Etat au cours d'un voyage, sans transbordement sur les territoires de l'un ou l'autre desdits Etats comportant un parcours en mer ou sur une voie navigable d'intérêt international n'appartenant pas audit réseau.

Matsuda.

et des ports.

四月十九日午後第三十回本会議ノ於テ三国ノ船籍港ヲ認ムルノ宣佈ハ報告者瑞西委員「ガローネ」ヘ報告ニ次テ

原案ノ通可決スル英國委員ノ注意ニ依ニ Etats contrac-

tants ノ Les soussignés dûment autorisés par leurs Gouvernements ノ各々国内河川開放ニ関ベル「アロ

ーナ」ヘ報告者蘭國委員「スコ」ヘ報告ニ次テ原案通可決セルカ之亦英國委員ノ注意ニ依リ殖民地海外領土ノ適用ヲ除キ且最後ノ「ドノンシアン」ノ場合ニ効力發生時期ハ一年ト改ムルヌス

次テ各國委員ノ建言審査ニ關シ報告者瑞西委員「カルリ」ノ報告等アリ是リトナビハ議事全部ヲヤニ Commission consultative et technique ノ選挙ニ移リ左ノ選出ヤリ尤モ玖馬ハ第一回ニ於テ羅馬尼曲及「モーリス」ヘ共ニ十七票ヲ得同点ナリシ為再選ノ結果選出ヤリ

ンタリ尚丁抹ハ諾威瑞典ノ分ヲ加算シ波蘭ト芬蘭「モスク」

「ム」ヘ「ラムカ・イ」「ラスマニア」トトモ同様ナリ

白耳義、伯刺西爾、丁抹、支那、智利、和蘭、「オストリ

ア」西班牙、瑞西、「ウルクライ」、玖馬

四月二十一日午後第三十一回本会議ニ於テ閉会式ヲ行フ閉会

式ハ「ドノンシ」ノ演説ニ次テ西班牙代表ノ答辭アリ之ニ

テ会議全部ヲ終」ヤリ

自由通過協約ハ十九ヶ国、國際河川協約十三ヶ国、国内水

路ニ関ヘル「アローネ」ハ丁抹、西班牙及白耳義ノ三ヶ国其他ハ分明次第國名ト共ニ追電ス

在仏大使ヘ郵送セリ

七四日 四月二十一日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通會議ノ成果ニ關シ大体ノ観察

上申ノ件

(四月二十一日接受)

号外 松田代表委員ヨリ

交通総会セシタル處會議ノ經過及

會議ニ於テ帝国ノ主張及其ノ結果ニ關シテハ隨時詳細ニ御

一一 バルセロナ國際交通會議ノ閉ベル件 ャ四

ギズ和蘭ノ如キモ一二二ノ点ヲ除キテハ然迄有力ナル援助ヲ与ヘザリキ從テ帝国ノ主張ハ或ル委員ノ批評ニ依レバ何時モ爆弾ヲ以テ目サレ (explosive) 理論トシテハ何分有力ナルモ通商条約ノ如キ相對的規定並内外一般協約トシテハ各國ノ實際ニ於テハ之ヲ採用スルトキハ直ニ國ノ經濟上 (不明) 上ニ関シ変動ヲ生ジ帝国ノ主張ニシテ貫徹セバ此ノ協約ニ加入セズト明言スルモノスマ七八國ヲ數ヘタル位ナリ (國際河川ノ支流河川上ノ沿岸貿易ノ解放ノ如シ)

右ノ如キ次第ニテ當初ノ主張ヲ貫徹スルヲ得ザリシハ甚ダ遺憾ナリ

二、專門機関ノ組織ニ關シ嘗テ深憂ヲ重ネタル五大國ノ永久代表權ハ終ニ巴里及「ジュネーヴ」ノ基礎ヲ動カサズシテ無事ニ確定シタリ

三、自由通過案ニ關スル御訓令中〔三〕ノ点ハ第三条末段ニ第二条ノ規定ヲ引照シテ平等待遇ノ保障ヲ明定シタル次第ナリ同〔四〕同案第十条ハ逐次報告シタル通到底帝国ノ主張ヲ貫徹スルヲ得ズ讓歩妥協ヲ重ね確定セル次第ハ何分遺憾ナガラ大勢上如何トモ為シ難カリシ次第ナリ尚第五条ニ關シテハ往電第九四号詳報ノ通

四、國際河川協約ノ御訓令中〔五〕ノ前段及〔六〕ニ關シテハ往電第九二号ノ通大体其趣旨ヲ主義ニ於テハ貫徹シタルモ右國內河川ヲ開放スルノ「プロトコル」ハ各國ノ加入ヲ強制スルノ効力ナク例ヘバ支那モ松花江其ノ他ノ關係上當分加入ヲ見合スコトハ明白ナルモ支那委員ノ右「プロトコル」審議ヲ担任セル分科會ニ於ケル態度ニ依レバ態々支那ノ如キ河川上ノ港ヲ多数ニ有スル國ニ關スル除外例ヲ規定セシメタルナド明カニ右「プロトコル」ニハ他日加入スルノ意向ヲ有スルモノト察セラル支那委員章祐ノ笠間ニ為シタル内話ニ依レバ支那ハ国内河川ニシテ從來外國ニ對シ封鎖シ居ルモノモ漸次開放スルノ意見ヲ有スルモ一時ニ事態ヲ急変スルヲ好マズ支那人ヲシテ徐ニ自由開放ノ利益ヲ覺ラシムルノ手段トシテ右漸進主義ヲ執ル次第ナリト語レリ右ハ余談ナガラ該「プロトコル」ノ關係上申添フ尚南米ガ其ノ列挙主義ヲ捨テテ本協約ニ加ハルニ至リシハ偏ニ帝國ガ支流論ヲ撤回シタル為ニシテ「バルカン」諸國ニ於テモ亦同様ノ次第ナリ

御訓令第七及第八ハ往電第九八号ノ通全然帝國ノ主張ト遠ざカリタル結果ニ終リタルハ真ニ已ムヲ得ザリシ所ナルガノ次第ナリ

黒龍江ニ關スル條文ハ露國承認等ノ條件ヲ以テ制限シ且報告書及議事錄ニ同江ニ關スル外交上ノ地位ヲ变更セザル意味ヲ明記シ置クコトセリ右ハ已ニ詳電セル通ナリ御訓令

第九ハ全然帝國ノ主張通決定セルハ往電第九五号ノ通ニシテ本會議ニ於テモ其ノ儘可決セリ

五、沿岸貿易相互開放主義ニ關シテハ往電第一〇六号ノ通國際港ニ關スル勸告案討議ノ際帝國ノ主張ヲ記録ニ止メ右ノ事実ニ付各國政府ノ注意ヲ喚起スルニ止メタルガ右ハ将来此種ノ會議等ニ於ケル帝國主張ヲ貫徹スル場合ノ「ステージ」トシテ相当ノ役ニ立ツ可シ

六、國際鐵道案ノ御訓令第十ノ件ハ委員会ニ於テ否決セラルルコト往電第七九号ノ通ナリ

七、以上ニテ交通會議以來ノ議題ニ關スル御訓令ニ對スル

処置並成果ヲ概説シタルガ尚客年貴電第一四六号〔三〕ノ輸入

税率ニ關スル問題ハ何等討議スルノ機會ナク且（脱）ニ持出スモ海上、沿岸貿易ト同ジク列國委員ハ其議事日程ニ上

リ居ラズ從ツテ訓令ヲ有セザルヲ理由トシテ反対スルハ明白ニシテ右ノ点及同第四石炭及燃料供給ノ件モ同様ノ理由

ニテ今回ノ會議ノ議題トナスコト能ハザリシ次第ナリ但通り居ラズ此ノ点ハ将来國際會議ニ於ケル帝國「デレガシオン」組織上考慮ス可キ点ト存ゼラル

#### 七四六 四月二十六日

内田外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛（電報）

沿岸貿易相互開放ニ關スル各主要海運國ノ意

第三九三号

松田代表ヘ

貴電第一〇六号ノ二〔六〕ニ關シ往電第一四号ノ〔一〕ヲ以テ申進

一一 バルセロナ国際交通会議ニ関スル件 七四七 七四八

九一八

シタル次第モ有之會議ニ列席セシ各主要海運國ノ沿岸貿易相互開放ニ関スル意嚮ニ関シ御心付ノ点詳細御回電アリタシ

ヲ待タズシテ国際経済會議等ニ之ガ提案ヲ為シ差支ナキ性質ノモノナリヤ石井大使発來電第一九一号ノ次第モアルニ付御回電アリタシ

(三)右貴電号外在欧大公使へ郵送アリタシ

七四七 四月二十七日 内田外務大臣ヨリ  
在仏国石井大使宛(電報)

国際鐵道協約第四条第一項ニ關スル我方ノ提

案ハ貫徹セラレタリヤ並輸入税率及燃料供給

ノ件ニ付問合ノ件

第四〇四号

松田代表へ左ノ通り

貴電号外ニ關シ

(一)在白安達公使宛往電第一六号(+)ノ趣旨ハ local tariffs 又く Combined rail and sea tariffs の設定ニハ異議ナキモ唯之ヲ適用スルニ当リテハ自他均等待遇ノ原則ニ準拠スルコトト致シ度キ次第ナル處右ハ貴電交通第七九号後段ニ依レバ貫徹シ居ルコトト思惟セラルモ貴電号外及右第七九号前段ニ依レバ疑問アリ為念今一応的確ナル御解釈承知致シ度シ

(二)貴号外(+)ニ付輸入税率及燃料供給ノ件ハ次期ノ交通會議

第六八〇号

(五月五日接受)

松田ヨリ

貴電第四〇四号ニ關シ

一、往電第七九号前段及号外(+)ニ所謂本邦提案ノ否決セラレタル所以ハ若シ日本ノ修正ヲ認ムルトキハ「ローカル、タリフス」又ハ「コンバインド、レール、アンダ、シー、タリフス」ノ設定ヲ認メザルコトナリ再び原則ニ立返ルコトナルヲ以テ各國ノ容ルル所トナラザリシモノナリ而シテ確定条文ニ依レバ「コンバインド、タリフス」ニ全ク触レズ鐵道ノミノ貨率ニ付テ規定シ且其ノ貨率ヲ定ムルニハ輸送ノ径路ニ依ル商業上ノ競争及運輸ノ条件ヲ顧慮シ

「ローカル」ノ「インポート、エクスポート、トランシット」ニ關シ別々ノ貨率ヲ設定スルコトヲ得ルモ一旦定メタル貨率ヲ適用スルニハ差別の待遇ヲナサザルコトハ特ニ明文ヲ要セズシテ解釈上明カナリ現ニ此点ニ付テハ主タル反対者タル伊国委員モ之ヲ認メ居レリ

二、輸入税率及燃料供給ノ件ハ往電号外(+)ノ次第ニテ今回ノ交通會議ノ問題ト為スコトヲ得ザリシモ次期ノ交通會議ヲ俟タズモ総会會議ニ提案ヲナシ差支ナキ性質ノモノナリ

太利両国ナルガ英國ハ本件ニ關スル訓令ヲ有セザルコト及専門委員無キコトヲ理由トシテ意見ヲ發表セズ又西班牙ハ別ニ意見ヲ表示セザルモ數ヶ月前之ガ禁止ノ法令ヲ出シタル趣ナルヲ以テ反対ナルハ明ナリ諾威ハ別ニ意見無ク其ノ他大概本国政府ノ訓令無キヲ理由トシテ何等意見ヲ發表セズ又伯刺西爾及亞爾然丁委員ハ非公式ノ談話中ニ反対ノ意ヲ漏シ又「ウルグアイ」委員ハ相互的条件ノ下ニ開放差支無キ旨談話セリ

七四九 五月三日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通會議ニ於ケル沿岸貿易相互開

放ニ關スル本邦提案ニ付スル各國ノ態度回電

ノ件

第六八二号

(五月六日接受)

松田ヨリ

貴電第三九三号ニ關シ沿岸貿易相互開放ニ就キ議場ニ於テ

日本ノ提案ニ賛成ノ意見ヲ表シタルハ和蘭、白耳義、希臘、壞地利、丁抹、瑞典ニシテ之ニ反対セルハ仏蘭西、伊

一一 バルセロナ国際交通會議ニ關スル件 七四九 七五〇

九一九

七五〇 五月九日 在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルセロナ交通會議ニ於テ議決セル協約等ニ付松田代表ヨリ報告ノ件

(五月十一日接受)

松田代表ヨリ

今回ノ交通總会ニ於テ議決シタルモノ左ノ如シ但シ此ノ外「アクト、フィナ」中ニ單ニ Voeux 又ハ Declaration ネシト列記シタルモノ十四箇アリ

1. The rules for the organization of the Conferences on communications and transit and of the Advisory

and Technical Committee.

2. The rules of the procedure for the Conferences on communications and transit.
3. The convention and the statute on the freedom of transit.

4. The convention and the statute of the regime of the navigable waterways of international concern.
5. The additional protocol relating to national navigable waterways.

6. The declaration recognizing the right to a flag of States which have no sea-coast.

7. Recommendations relating to international railways.

8. Recommendations relating to the ports subject to an international regime.

9. The final Act.

右ノ内(5)ハ昨年十一月九日ニ於ケル聯盟総会交通及通過ノ「ヤルガリヤーン」ニ關スル決議〔基キ（決議書第十四頁）〕今回ノ総会ニ於テ之ヲ定ムル必要アルヤノニシテ該総会ガ三分ノ二ノ多數決ニ依リ可決スレバ現在及将来

ノ會議ニ對シテ効力ヲ生ジ「總会」代表者ヲ出シタル國ニ於テハ之ニ拘束セラルモノトス故ニ右二個ノ「ルールズ」成立ハ各國代表者ノ署名調印ヲ要セバ各國政府ニ於テ何等ノ措置ヲ執ル要ナシ

(3)(4)ハ條約ナルニ依リ之ニ署名調印ヲナスニハ當該國政府ノ全權委任状ヲ要ベ

(5)ハ國內河川ノ相互的開放ニ關スル附屬議定書ニシテ其内容ハ條約ト異ナルコトナキニ依リ之ニ署名調印ヲナスニハ全權委任状ヲ要ス

(6)ハ其内容條約ト異ナル所ナキヤ之ヲ永久ノモノトナシ該規定中ニ廢棄ニ關シ規定ヲ設ケザリシニ依リカラ宣伝ノ形式トナシタルナリ從テ之ガ署名調印ヲナスニハ當該國政府ノ全權委任状ヲ要ス

(7)(8)(9)ノ中(7)(8)ハ本會議ニ列席シタル各代表ハ右「ノウハメンテーション」ガ本會議ニ於テ成立シタルコトヲ認ムルノ意味ニ於テ「アクト・ハイナル」と共ニ（往電第九五号〔参照〕）本代表ニ於テ之ニ署名セリ

就テハ帝國政府ニ於テ御審査ノ上署名調印ノ手続ヲ執ラルモノハ前記(3)乃至(6)ニシテ(3)(4)ノ調印期限ハ本年十一月

迄ナシテ(5)(6)ハ調印期限ナシ上記名号ノ正文ハ五月  
(脱)「且又前記諸文書ニ署名調印シタル國名ハ別ニ電報  
スミハ

カム I 五月九日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

#### 四、由通過協約案第十五条ニ關シ回電ノ件

別電 同日石井大使発内田外務大臣宛電報第七〇四号

右第十五条

(五月十一日接続)

第七〇三回

松田代表ヨリ

貴電第一五号ニ関ハ

自由通過案第十五条ハ別電第七〇四号ノ通りナルガ同規定ハ元來英國委員ノ提案ニ係リ往電第二八号ノ所報ノ小委員會ニ於テ審議ノ結果同協約案ハ何等右英國ノ提案ト牴触ヘルコトナク殊ニ斯ノ如キ明文ヲ以テ解釈ヲ明カニスルハ差支ナシト議決シ同時ニ同小委員會ハ又支那委員ノ提案即通過

河川、鐵道及港ニ關シテハ同一主權國ノ主權又ハ「オーナリティ」ハドニアル國際聯盟ノ一員タルト否トヲ問ハズ同主權國ノ「ヨリティカル、フロントニア」ノ内リ合マル

11 バスヤロナ國際交通會議ニ關スル件 カム I カムII

Article 15.  
(五月十一日接続)

第七〇四号 別電

It is understood that nothing in this Convention shall be interpreted as regulating rights and obligations *inter se* of territories forming part or placed under the protection of a single sovereign state whether these territories considered individually are or are not members of the League of Nations. Ishii.

カムII 五月九日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）



ノ件

(五月二十一日接受)

第七四八号

松田ヨリ

在仏大使宛貴電第四五五号ニ関シ

スルコトヲ欲セザリシモノナリ  
波蘭、塞耳比亞

國往電第七〇五号ノ回 Right to flag ニ関スル宣言等ニモ

(一)「ファイナル、アクト」ニ対シ左記五ヶ国ハ同「アクト」署名ノ当日既ニ「バルセロナ」出発不在ノ為署名漏レトナリ居ル次第ナルガ聯盟事務局ニ於テハ右諸国モ追テ之ニ署名スルコトト期待シ居レリ

「コロンビヤ」「コスタリカ」「ルクサンブルグ」英國、  
印度

通過協約等ニ英國及印度ノ調印アルハ調印ノ全権状ヲ有スル關係上出発前便宜順序ヲ繰り上ゲ調印シタルモノナリ

(二)前記五ヶ国ハ又同様ノ理由(不在ノ為)ニ依リ鉄道及港ノ二個ノ「レコメンデーションズ」ニ対シテモ署名セザリシモノナリ

(三)左記参ケ国ハ右「レコメンデーションズ」ニ署名スルコトヲ欲セザリシモノナリ

瑞西、羅馬尼亞、「ヴュネズエラ」

(四)左記式ヶ国ハ港ニ関スル「レコメンデーション」ニ署名

英國及印度ハ前記同様不在ノ為署名漏レトナリ居ル處聯盟事務局ニテハ右ハ追テ之ニ署名スベキコトト期待シ居レリ將又御来示ニ依レバ往電第七〇五号中「五乃至七八ハ會議ニ列席セル總テノ國ノ代表者ニ依リ署名セラルベキモノ」ト解セラル趣ノ處右ノ中五即チ「ファイナル、アクト」ハ御来示ノ通リナルモ六及七ハ五即チ「ファイナル、アクト」ニ対シ別個独立ノ書類タルニ顧ミ之ニ贊同セザル國ハ署名セザルモ可ナルモノナリ尚往電第七〇五号(二)ニ「單ニ會議ニ列席セル代表ノ署名セルモノ」トセルハ調印全権状ノ有無ニ不拘署名スルヲ得ルノ意ニ外ナラズ念ノ為申添フ

七五五 七月二十一日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

聯盟理事會バルセロナ交通會議決議書類ヲ承

認ノ件

第一一一一一号

(七月二十二日接受)

五月七日附号外送附 Barcelona 會議決議書類ハ客年聯盟

總会決議ニ係ル理事会監督權ニ鑑ミ六月十八日理事会ノ審議ニ附セラレタル処理會ハ右決議事項ガ「バルセロナ」會議當然ノ權限ニ屬シ且ツ規約ノ精神ニ合スルモノナリトテ其儘之ヲ承認シ且事務總長ヲシテ右書類中(一)組織規則及(二)議事規則ハ單ニ各國ヘ報告ノ為(三)通過自由協約(四)國際河川協約(五)同附屬議定書類(六)無沿岸國商船ノ權利ニ關スル宣言ハ各國ノ批准若クハ調印批准ノ為(七)鉄

道ノ國際制度並ニ(八)國際港ニ関スル勸告及ビ終末議定書ハ各國ニ於テ執ルベキ措置ノ為之ヲ送附セシムベキコトヲ決議シ其結果事務總長ハ七月一日附ヲ以テ原首相宛右書類一括正式ニ送附シ來レリ追テ同書類本月七日附公第三三七号ヲ以テ転送済